

[illegible]

[illegible]

14
金属工事

3 軽量鉄骨天井下地

野縁等の種類 (14. 2. 2) (表 14. 2. 1)

屋外 (※ 25 形 ・ 19 形)

屋内 (※ 19 形 ・ 25 形)

・ 屋外の場合の形式及び寸法 (14. 4. 3)

野縁受、つりボルト、インサートの間隔及び周辺部端からの距離

・ 図示による

野縁の間隔

・ 図示による

工法 (14. 4. 4)

・ つりボルトの間隔が900mmを超える場合

補強方法 ・ 図示による

・ 天井のふとところが3.0mを超える場合

補強方法 ・ 図示による

・ 天井下地材における耐震性を考慮した補強

補強箇所、補強方法 ・ 図示による

・ 屋外の軒、ピロティ等の天井における耐風圧性を考慮した補強

補強箇所、補強方法 ・ 図示による

4 軽量鉄骨壁下地

スタッド、ランナ等の種類 (14. 5. 3)

※ 標仕 表14. 5. 1 によるスタッドの高さによる区分に応じた種類

・ 図示による

スタッドの高さが 5.0m を超える場合

・ 図示による

出入口及びこれに準ずる開口部の補強 (14. 5. 4)

※ 標仕14. 5. 4(a)による ・ 図示による 表面処理 ・ 図示による

5 金属成形板張り

種別 ・ 図示による (14. 6. 2)

表面処理 ・ 図示による

取付け用下地 ※ 標仕14. 4による ・ 図示による (14. 6. 3)

伸縮調整継手 ・ 設ける (施工箇所 ・ 図示 ・) (14. 6. 3)

※ 設けない

6 アルミニウム製笠木

部材の種類 (14. 7. 2) (表 14. 7. 1)

・ 250形 ・ 300形 ・ 350形

表面処理 種類 () (14. 7. 2) (表 14. 2. 1)

色合等 ・ 標準色 (シルバー)

・ 特注色 ()

笠木の固定金具の工法等 (14. 7. 3)

建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法

・ 図示による

15
左官工事

1 ラス系下地

下地の種類 (15. 2. 4)

・ 通気工法 (・ 二層下地 ・ 単層下地)

・ 直張り工法 (・ ラスモルタル下地 ・ ラスシートモルタル下地)

・ 図示による (外張断熱工法で断熱材の外側に野縁を施工する形式の通気構法を行う場合)

材料 (15. 2. 4)

ラス及び補強用ラス

材料記号 (※ K ・)

種類及び単位面積当りの質量

・ 二層下地通気構法

※ 波形ラス (W700) ・ こぶラス (K800) ・ 力骨付きラス (BP700)

・ 単層下地通気構法

・ リプラスC (RC800) にターبون紙などの裏打ち材と一体化したラス

・

ラスシートの山高、山ピッチ、質量及び溶接ピッチによる区分

※ LS4 (耐力壁の場合)

ステーブルの形状及び寸法

リプラス ※ L925TS以上 (リプラスC RC800) の場合)

・

波形ラス ※ L1019JS以上 (波形ラス W700) の場合)

・

施工 (15. 2. 4)

二層下地通気構法

換気口部の措置 ※ 講ずる

直張り構法 (ラスシートモルタル下地の場合)

建築基準法に基づく耐力壁として使用する場合はラスシートの施工

・ 図示による

2 セッコウボード
その他のボード下地

材料 (15. 2. 5)

セッコウボード、セッコウラスボード及び木質系セメント板の種類及び厚さ

セッコウボード 種類 () 厚さ (mm)

セッコウラスボード 種類 () 厚さ (mm)

木質系セメント板 種類 () 厚さ (mm)

3 こまい下地

建築基準法に基づく耐力壁の指定 ・ なし ・ あり (15. 2. 6)

4 木ずり下地

材料 (15. 2. 7)

木ずり用小幅板の樹種 ※ 杉 (心去り材) ・

5 モルタル塗り

モルタル ○ 現場調合材料 ・ 既調合材料 (15. 3. 2)

既製目地材 (15. 3. 2)

・ 設ける 施工箇所 () 形状 (・ 図示 ・)

○ 設けない

床の目地 (15. 3. 5)

・ 設ける 目地割 ※ 2㎡程度 (最大目地間隔3m程度) ・

種類 ※ 押し目地 ・

○ 設けない

外装タイル張りの下地等の下地モルタル塗り及び下地調整塗材塗りの接着力試験 (15. 3. 5)

・ 行う ・ 行わない

6 仕上塗材仕上げ

建物内部に使用する塗料のホルムアルデヒド放放量

※ F☆☆☆☆

材料

・ 薄付け仕上塗材

呼び名	仕上げの形状	工 法	吸放湿性	防火材料
・ 外装薄塗材 S i	・ 砂壁状	・ 吹付け		・ 適用する
	・ ゆず肌状	・ ロータ塗り		・ 適用しない
	・ さざ波状			
・ 可とう形外装薄塗材 S i	・ 砂壁状	・ 吹付け		・ 適用する
	・ ゆず肌状	・ ロータ塗り		・ 適用しない
	・ さざ波状			
・ 外装薄塗材 E (見上げ面)	・ 砂壁状	・ 吹付け		・ 適用する
	・ ゆず肌状	・ こて塗り		・ 適用しない
	・ 平たん状	・ ロータ塗り		
	・ 凹凸状			
	・ さざ波状			
・ 着色骨材砂壁状				
・ 可とう形外装薄塗材 E	・ 砂壁状	・ 吹付け		・ 適用する
	・ ゆず肌状	・ こて塗り		・ 適用しない
	・ 平たん状	・ ロータ塗り		
	・ 凹凸状			
	・ さざ波状			
・ 防水形外装薄塗材 E	・ ゆず肌状	・ 吹付け		・ 適用する
	・ さざ波状	・ ロータ塗り		・ 適用しない
	・ 凹凸状			
・ 外装薄塗材 S	・ 砂壁状	・ 吹付け		・ 適用する
				・ 適用しない
・ 内装薄塗材 C	・ 凹凸状	・ 吹付け		・ 適用する
・ 内装薄塗材 L	・ 平たん状	・ こて塗り		・ 適用しない
	・ ゆず肌状	・ ロータ塗り		
	・ さざ波状			
・ 内装薄塗材 Si	・ 砂壁状じゅらく	・ 吹付け		・ 適用する
・ 内装薄塗材 E	・ ゆず肌状	・ こて塗り		・ 適用しない
	・ 平たん状	・ ロータ塗り		
	・ 凹凸状			
	・ さざ波状			
・ 内装薄塗材 W	・ 京壁状じゅらく	・ 吹付け		・ 適用する
	・ ゆず肌状	・ こて塗り		・ 適用しない
	・ 平たん状			
	・ 凹凸状			

・ 薄付け仕上塗材

呼び名	仕上げの形状	工 法	吸放湿性	防火材料
・ 外装厚塗材 C	・ 吹放し	・ 吹付け		・ 適用する
	・ 凸部処理	・ こて塗り		・ 適用しない
	・ 平たん状			
	・ 凹凸状			
	・ ひき起こし			
	・ かき落とし			
・ 外装厚塗材 Si	・ 吹放し	・ 吹付け		・ 適用する
・ 外装厚塗材 E	・ 凸部処理	・ こて塗り		・ 適用しない
	・ 平たん状	・ ロータ塗り		
	・ 凹凸状			
	・ ひき起こし			
	・ かき落とし			
・ 内装厚塗材 C	・ 吹放し	・ 吹付け		・ 適用する
	・ 凸部処理	・ こて塗り		・ 適用しない
	・ 平たん状			
	・ 凹凸状			
	・ ひき起こし			
	・ かき落とし			
・ 内装厚塗材 L	・ 平たん状	・ こて塗り		・ 適用する
	・ 凹凸状			・ 適用しない
	・ ひき起こし			
	・ かき落とし			
・ 内装厚塗材 G	・ 平たん状	・ こて塗り		・ 適用する
	・ 凹凸状			・ 適用しない
	・ ひき起こし			
	・ かき落とし			
・ 内装厚塗材 Si	・ 吹放し	・ 吹付け		・ 適用する
・ 内装厚塗材 E	・ 凸部処理	・ こて塗り		・ 適用しない
	・ 平たん状	・ ロータ塗り		
	・ 凹凸状			
	・ ひき起こし			

外装厚塗材 C における上塗材がセメントスタッコ以外の場合 ()

外装厚塗材 Si、外装厚塗材 E における上塗材の適用 ・ 適用する ・ 適用しない

○ 複層仕上塗材

・ 軽量骨材仕上塗材

呼び名	仕上げの形状	工 法	耐候性	防火材料	
・ 複層塗材 C E	・ 凸部処理	・ 吹付け	※ 耐候形3種	○ 適用する	
○ 複層塗材 R E	・ 凹凸状	○ ロータ塗り	・		
・ 複層塗材 S i	○ ゆず肌状				
・ 複層塗材 E					
・ 可とう形複層塗材 C E	・ 凸部処理	・ 吹付け	※ 耐候形3種	・ 適用する	
	・ 凹凸状	・ ロータ塗り	・	・ 適用しない	
・ 防水形複層塗材 C E	・ 凸部処理	・ 吹付け	※ 耐候形3種	・ 適用する	
・ 防水形複層塗材 R E	・ 凹凸状	・ ロータ塗り		・	・ 適用しない
※ 防水形複層塗材 E	・ ゆず肌状				
○ 吹付け軽量塗材	○ 砂壁状	○ 吹付け			○ 適用する
				・ 適用しない	
・ こて塗用軽量塗材	・ 平たん状	・ こて塗り		・ 適用する	
				・ 適用しない	

7 マステック塗材塗り

複合仕上塗材の上塗材

樹脂 ・ アクリル系 ・ シリカ系 ・ ポリウレタン系

・ アクリルシリコン系 ・ ふっ素系

外観 ・ つやあり ・ つやなし ・ メタリック

溶媒 ・ 溶剤系 ・ 弱溶剤系 ・ 水系

7 しっくい塗り

下地の種類 () (15. 10. 1)

・ 標仕 15. 10. 1による場合以外の下地への適用 ()

材料 (15. 10. 2)

・ 標仕 15. 10. 2 (1) (7)、(4)による

色しっくい ・ 適用する ・ 適用しない

・ S-4 ・ S-5 ・ S-6

調査及び塗厚 (15. 10. 3) (表 15. 10. 1～表 15. 10. 4)

既調査しっくい ※ 標仕 15. 10. 3 (1)による

現場調査しっくい ※ 標仕 15. 10. 3 (2)による

既調査しっくいの上塗り仕上げ工法 (15. 10. 4) (表 15. 10. 5)

・ なで切り仕上げ ・ パターン仕上げ

9 こまい壁塗り

材料 (15. 11. 2)

土壁用ののりの種類 ※ つのまた ・ ふのり

・ ぎんなんそう ・ 粉末海藻

砂壁用ののりの種類 ・ つのまた ※ ふのり

・ こんにゃくのり ・ にかわ ・ 合成高分子系混和剤

色土の種類 ・ 土物仕上げ ()

・ 大津仕上げ ()

色砂の種類 ・ 天然砂と岩石の砕砂

・ 人工的に着色・製造したもの

調査 下塗りの調査 ※ 標仕 表15. 11. 2による (15. 11. 3)

塗厚 ※ 標仕 表15. 11. 8による (15. 11. 4)

・ 建築基準法に基づく耐力壁の指定がある場合

・ 図示による

工程 こまい壁 ※ A種 ・ B種 (15. 11. 5) (表 15. 11. 9)

土物仕上げの工法 (15. 11. 7)

・ 土物仕上げの工法

・ 水こね土物1工法 ・ 水こね土物2工法

・ のりさし土物工法 ・ のりごね土物工法

・ 砂壁仕上げの工法

・ 切返し仕上げの工法

大津壁仕上げの工法 (15. 11. 8)

・ 普通大津仕上げ工法 ・ 大津みがき工法

ちりじゃくり ・ 図示による (15. 11. 7) (15. 11. 8)

10 ロックウール吹付け

ロックウールのホルムアルデヒド放放量 ※ F☆☆☆☆ ・ (15. 12. 2)

接着剤のホルムアルデヒド放放量 ※ F☆☆☆☆ ・ (15. 12. 3)

仕上げ吹付け厚さ (mm) ※ 図示による

16 建具工事

1 防火戸

・ 建具表による ・

・ 防火戸の自動閉鎖機構及び防火戸について、連動させる装置等

・ 建具表による ・

2 見本の製作等

建具見本製作 ・ 行う (建具符号：) ※ 行わない (16. 1. 4)

特殊な建具の仮組 ・ 行う (建具符号：) ※ 行わない

3 防犯建物部品

※ 適用する (適用箇所 ・ 建具表による ・) ・ 適用しない (16. 1. 6)

4 アルミニウム製建具

性能値等 (建具符号、枠の見込み寸法は建具表による) (16. 2. 2)

耐風圧性等級、気密性等級、水密性等級

・ 建具表による ・ 図示による

外部に面する建具の種別

※ 標仕 表16. 2. 1、表16. 2. 2による

・ A種 ○ B種 ・ C種 ・ D種 ・ E種

・

・ 防音ドア、防音サッシとする場合 遮音性の等級 (・)

・ 断熱ドア、断熱サッシとする場合 断熱性の等級 (・)

表面処理 (16. 2. 4)

外部に面する建具

種別 ・ BB-1種 ○ BB-2種

着色 ○ 標準色 ・ 特注色

屋内の建具 (表 14. 2. 1)

種別 ・ BC-1種 ・ BC-2種

着色 ・ 標準色 ・ 特注色

ステンレス鋼板の種類 ※ SUS304、SUS430J1L 又は SUS443J1 (16. 2. 3) (16. 6. 3)

ステンレス製くつづりの仕上げ ※ HL ※ 焼付塗装 (16. 2. 4) (16. 4. 4)

結露水の処理方法 ○ 図示による ・ (16. 2. 4)

水切り板、ぜん板 ○ 図示による ・ (16. 2. 5)

木下地の内付け建具 ・ 適用する (建具の製造所の仕様) ・ 適用しない (16. 2. 5)

5 網戸

防虫網の材料 (16. 2. 3)

種 類	材 質	線 径	網 目
・ 防虫網	・ 合成樹脂製	※ 0. 25mm以上	※ 16～18mesh
	・ ガラス繊維入り合成樹脂製	・	・
	○ ステンレス製 (SUS 316)		

性能値等 (建具符号、枠の見込み寸法は建具表による) (16. 3. 2)

耐風圧性等級、気密性等級、水密性等級

・ 建具表による ・ 図示による

外部に面する建具の種別

※ 標仕 表16. 3. 1、表16. 3. 2による

・ A種 ・ B種 ・ C種 ・ D種 ・ E種

・

7 鋼製建具

性能値等 (建具符号は建具表による) (16. 4. 2)

簡易気密型ドアセットの気密性等級、水密性等級

※ 標仕 表16. 4. 1 ・ 建具表による

外部に面する建具の耐風圧性 (表 16. 4. 2)による

・ S-4 ・ S-5 ・ S-6

・ 耐震ドアとする場合 面内変形追随性の等級 (・)

・ 防音ドア、防音サッシとする場合 遮音性の等級 (・)

・ 断熱ドア、断熱サッシとする場合 断熱性の等級 (・)

ステンレス鋼板の種類 ※ SUS304、SUS430J1L 又は SUS443J1 (16. 4. 3) (16. 6. 3)

点検口の類のくつづりの材料 ※ HL (16. 4. 3)

鋼板類の厚さ (mm) ※ 標仕 表16. 4. 2による (16. 4. 4)

ステンレス製のくつづりの仕上げ ※ HL ・ (16. 4. 4)

標準型鋼製建具の有効内法寸法 (表 16. 4. 5)による (16. 4. 6)

・ 適用する (建具符号、形式及び寸法は建具表による)

8 鋼製軽量建具

性能値等 (建具符号は建具表による) (16. 5. 2)

簡易気密型ドアセットの気密性等級 ・ A-3 ・ 建具表による

・ 耐震ドアとする場合 面内変形追随性の等級 (・)

・ 防音ドア、防音サッシとする場合 遮音性の等級 (・)

・ 断熱ドア、断熱サッシとする場合 断熱性の等級 (・)

鋼板の種類 (16. 5. 3)

・ 亜鉛めっき鋼板 ・ ビニル被覆鋼板 ・ カラー鋼板 ・ ステンレス鋼板

召合せ、縦小口包み板の材質 ※ 鋼板 ・ (16. 5. 3)

鋼板の厚さ (mm) ※ 標仕 表16. 5. 1による ・ 図示による(16. 5. 4)

ステンレス製のくつづりの仕上げ ※ HL ・ (16. 5. 4) (16. 4. 4)

標準型鋼製軽量建具の有効内法寸法 (表 16. 4. 5)による (16. 5. 6)

・ 適用する (建具符号、形式及び寸法は建具表による)

9 ステンレス製建具

性能値等 (建具符号は建具表による) (16. 6. 2)

耐風圧性等級、気密性等級、水密性等級 ・ 建具表による

外部に面する建具の耐風圧性 (表 16. 2. 1)による

・ S-4 ・ S-5 ・ S-6

・ 耐震ドアとする場合 面内変形追随性の等級 (・)

・ 防音ドア、防音サッシとする場合 遮音性の等級 (・)

・ 断熱ドア、断熱サッシとする場合 断熱性の等級 (・)

ステンレス鋼板の種類 ※ SUS304、SUS430J1L 又は SUS443J1 ・ (16. 6. 3)

表面仕上げ ※ HL ※ 焼付塗装 (16. 6. 4)

ステンレス製のくつづりの仕上げ ※ HL ・ (16. 6. 4) (16. 4. 4)

ステンレス鋼板の曲げ加工 ※ 普通曲げ ・ 角出し曲げ (16. 6. 5)

10 木製建具

建具材の加工、組立時の含水率 ※ A種 ・ B種 (16. 7. 2) (表 16. 7. 1)

接着剤のホルムアルデヒド放放量 ※ F☆☆☆☆ ・ (16. 7. 2)

枠、くつづりの材料 ・ 建具表による ・ (16. 7. 2)

・ フラッシュ戸 (16. 7. 2) (表 16. 7. 2)

表面材の合板の種類	表面材の品質等	備 考
・ 普通合板	接着の程度	※水掛り箇所 1 類、その他 2 類以上
	板面の品質 ※広葉樹 1 等	
・ 天然木化粧合板	接着の程度	※水掛り箇所 1 類、その他 2 類以上
	板面の品質 ※広葉樹 1 等	
・ 特殊加工化粧合板	接着の程度	※水掛り箇所 1 類、その他 2 類以上
	板面の品質 ※広葉樹 1 等	
・ M D F	表裏面の状態による区分 ()	曲げ強さによる区分 ()
	接着剤による区分 ()	
	難燃性による区分 ()	・ ()
	・ ()	
	表面材のホルムアルデヒド放放量 ※ 標仕 16. 7. 2 (4) (a)による ・	表面板の厚さ ※ 標仕 表16. 7. 6による (16. 7. 3)
	引戸の定規縁 ・ 召し合せかまちいんろう付きとする (16. 7. 4)	
・ かまち戸	かまち樹種 () 鏡板樹種 ()	(16. 7. 2) (16. 7. 3) (表16. 7. 7)
	見込み寸法 ※36mm ・ 建具表による	
・ ふすま	種別、工法 ・ I 型 ・ II 型 (16. 7. 2) (表16. 7. 3) (16. 7. 3)	(表16. 7. 7) (16. 7. 4) (表16. 7. 10)
	上張り ・ 鳥の子 ・ 新鳥の子又はビニル紙程度	
	縁仕上 ・ 塗り縁 ・ 生地縁 (素地) ・ 生地縁 (ウレタンクリヤー塗装)	
	見込み寸法 ※ 19. 5mm ・ 建具表による	

事業名	令和 7 年度 第 4 源泉施設建設工事 (1 期工事)		
図 面	建築工事特記仕様書 (4)		
名 称			
縮 尺	—	図面番号	A-04
事業者	富士河口湖町		

11	建具用金物	・戸ぶすま (16. 7. 2) (16. 7. 3) (表16. 7. 7) (16. 7. 4) 表面材の種類、品質等 () 見込み寸法 ※ 30mm ・ 建具表による ・ ・紙張り障子 (16. 7. 3) (表16. 7. 7) 見込み寸法 ※ 30mm ・ 建具表による ・ 金物の種類・見え掛り部の材質等 (16. 8. 2) ※ 標仕 表16. 8. 1及び適用 (備考欄の特記事項も含め) は、建具表による ・ 金属製建具に使用する丁番の枚数及び大きさ ※ 標仕 表16. 8. 2による ・ 樹脂製建具に使用する丁番の枚数及び大きさ ※ 標仕 表16. 8. 3による ・ 木製建具に使用する丁番の枚数及び大きさ ※ 標仕 表16. 8. 4による ・ 木製建具に使用する戸車及びレール ※ 標仕 表16. 8. 3による ・ 握り玉、レバーハンドル、押板類、クレセントの取付位置 (16. 8. 3) ○ 建具表による ・ マスターキー ※ 製作する ・ 製作しない (16. 8. 4) 鍵の製作本数等 ※ 各室3本1組 ・ () 本 鍵箱 ※ 必要 ・ 不要	19	ガラスブロック積み	・熱線吸収板ガラス 板ガラスによる種類、厚さによる種類、性能による種類 ※ 図示 (※ 建具表 ・) による ・ ・複層ガラス 材料板ガラスの種類、厚さの組合せ、複層ガラスの厚さ、断熱性による区分、日射取得性及び日射遮蔽性による区分、乾燥気体の種類 ※ 図示 (※ 建具表 ・) による ・ ・熱線反射ガラス 材料板ガラスの種類、厚さによる種類、日射遮蔽性及び耐久性による区分 ※ 図示 (※ 建具表 ・) による ・ ・倍強度ガラス 材料板ガラスの種類、厚さによる種類 ※ 図示 (※ 建具表 ・) による ・ ガラス留め材及び溝の大きさ (16. 14. 2) (16. 14. 3) (図 16. 14. 1) 建具の種類 ガラスの留め材 ガラス溝の大きさ(mm) アルミニウム製 ※ シーリング材 ・ 建具の製造所の仕様による ・ 建築用ガasket ※ グレージングチャンネル 樹脂製 ・ 建築用ガasket ・ 建具の製造所の仕様による ・ グレージングビード 鋼製及び鋼製軽量 ※ シーリング材 ※ 建具の製造所の仕様による ステンレス製 ※ シーリング材 ・ 建具の製造所の仕様による 材料 (16. 14. 5) 表面形状 呼び寸法 (mm) 厚さ (mm) 色調 目地幅 (mm) 伸縮調整目地位置 (mm) ・ 正方形 ・ 160×160 95 ・ ・ ※ 8～15 外側 ※ 6m以下ごとに10～25 ・ 200×200 95 ・ ・ ※ 15～25 ※ 15以下 ・ 図示 ・ 長方形 ・ ・ ・ 内側 ※ 6以上 ・ ・ ・ ・ ・ 壁用金属枠及び補強材 ・ 設ける (形状 ・ 図示 ・) ・ 設けない 力骨 材質 ※ ステンレス鋼 (SUS304) ・ 寸法 ※ 径5. 5mm ・ 形状 ※ はしご形状複筋及び単筋 ・ 化粧目地モルタルの色 (白色) シーリング材の種類 (白色) 金属製化粧カバー 材質 ・ ステンレス製 ・ アルミニウム製 寸法 ・ 図示による ・ 形状 ・ 図示による ・ 工法 (16. 14. 5) 建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法 ・ 図示による ・ 木下地の場合の壁用金属枠の取付け間隔 () 目地部の横力骨の納まり ※ ガラスブロック製造所の仕様による ・ 図示による	18	ガラス用フィルム (内張り用)	性能 (17. 1. 3) 耐風性能 耐震性能 水密性 気密性 耐火性 耐温度差性 遮音性 断熱性 水平方向 (kH) 垂直方向 (kV) ・ W-4 ・ A-3 ・ 80 ・ T3 ・ H-2 ・ 1. 0 ・ 0. 5 ・ W-5 ・ A-4 ・ 70 ・ T4 ・ H-3 ・ ・ ・ ・ 60 T5 ・ H-4 ・ ・ ・ ・ H-5 性能の確認方法及び判定方法 ※ 性能の確認及び判定方法が確認できる適切な資料 ・ 適用は以下によるほか、カーテンウォール図による 金属系材料の種類 ・ アルミニウム材 ・ 鋼材 ・ ステンレス鋼材 (アルミニウム材の場合) 規格等 標仕16. 2. 3による 種別 ・ 着色 ・ 標準色 ・ 特注色 シーリング材 (ガラスの取付けは除く) 下表以外は標仕 表9. 7. 11による 被着体の組合せ シーリング材の種類 記 号 主成分による区分 ガラスの取付け材料 ・ シーリング (種類：) ・ 構造ガasket (材質、形状等 ・ 図示 ・) 断熱材 種類 () 厚さ (mm) () 施工箇所 ・ 図示による ・ 形状及び仕上げ 製品の寸法許容差 ※ 標仕 表17. 2. 11による ・ 見え掛り部の仕上げ ・	5	塗装	種別 (18. 4. 1～18. 12. 2) (表 18. 4. 1～表 18. 12. 1) 塗 装 種 別 ・合成樹脂調合ペイント塗り (SOP) ・木部 (屋外) ※ A種 ・ B種 ・木部 (屋内) ※ B種 ・ A種 ・鉄鋼面 ※ B種 ・ A種 ・垂鉛めっき鋼面 標仕 表18. 4. 3 ・クリヤッカ塗り (CL) ※ B種 ・ A種 ・カル樹脂系非水分散形塗料 (NAD) ※ B種 ・ A種 ・耐候性塗料塗り (DP) ・鉄鋼面 標仕 表18. 7. 1 ・垂鉛めっき鋼面 標仕 表18. 7. 2 ・コンクリート面 ・ A種 ・押出成形シート板面 ・ B種 ・C種 ・つや有合成樹脂エポキシペイント塗り (EP-G) ・コンクリート面、鉄鋼面等 ※ B種 ・ A種 ・木部 標仕 表18. 8. 2 ・屋内鉄鋼面 ※ B種 ・ A種 ・垂鉛めっき鋼面 標仕 表18. 8. 4 ・合成樹脂エポキシペイント塗り (EP) ※ B種 ・ A種 ・カル樹脂系塗り (UC) ※ B種 ・ A種 ・ビゲット塗り () ・オイル塗り (OS) — ・木材保護塗料塗り (WP) 屋外 ※ B種 ・ A種 塗料の種類等 (表 18. 5. 1) クリヤッカ塗り (CL) 種別がA種の場合における、標仕 表 18. 5. 1 の工程2 ・塗料の種類 () 耐候性塗料塗り (DP) 上塗り塗料の等級 鉄鋼面 () 級 表 18. 7. 2 垂鉛めっき鋼面 () 級 (表 18. 10. 1) ウレタン樹脂ワニス塗り (UC) 種別がA種の場合における、改修標仕 表 7. 11. 1 の工程1の着色 ・ 適用する オイルステイン塗り (OS) の仕様 (表 18. 11. 2) ・図示による ・
		13 自動ドア開閉装置 戸の開閉方式 ・ 図示による ・ (16. 9. 2) 自動ドア開閉装置の性能 (16. 9. 2) 駆動装置の性能 ※ 引き戸用駆動装置の場合、標仕 表16. 9. 1による 防錆の適用 ・ 適用する ・ 適用しない ・ 車椅子使用者用便所出入口の引き戸用駆動装置の性能 ※ 引き戸用駆動装置の場合、標仕 表16. 9. 2による 防錆の適用 ・ 適用する ・ 適用しない ・ 検出装置の性能 ※ 引き戸用駆動装置の場合、標仕 表16. 9. 3による 防錆の適用 ・ 適用する ・ 適用しない ・ 引き戸用検出装置の種類は、標仕 表16. 9. 4による (16. 9. 2) 種類 ・ 光線 (反射) センサー ・ 熱線センサー ・ 音波センサー ・ 光電センサー ・ 電波センサー ・ タッチスイッチ (・ 無線式 ・ 光電式) ・ 押しボタンスイッチ ・ 車椅子使用者便所スイッチ (・ 大形 (開・閉) 押しボタンスイッチ ・ 非接触スイッチ) 凍結防止装置 ・ 適用する ・ 適用しない (16. 9. 2) 性能 ※ 標仕 表16. 10. 11による ・ 図示による (16. 10. 3) シャッターの種類 ・ 管理用シャッター (16. 11. 2) ・ 外壁用防火シャッター ・ 屋内用防火シャッター ・ 防災シャッター 外壁開口部に設ける重量シャッター 耐風圧強度 () pa (16. 11. 2) 開閉方式の種類 (標仕 表16. 11. 1) ※ 電動式 (手動併用) ・ 手動式 安全装置の設置箇所 (16. 11. 2) 急降下制御装置又は急降下停止装置の設置箇所 ・ 図示による ・ 障害物感知装置の設置箇所 ・ 図示による ・ 危害防止機構の設置箇所 ・ 図示による ・ 管理用シャッターのシャッターケース ・ 設ける ・ 設けない (16. 11. 2) スラット及びシャッターケース用鋼板 (16. 11. 3) 鋼板の種類 ・ JIS G 3302 (溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯) ・ JIS G 3302 (塗装溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯) めっきの付着量 ※ Z12 又は F12 ステンレス鋼板の種類 ※ SUS304、SUS430J1L 又は SUS443J1 (16. 11. 3) (16. 6. 3) 開閉形式 ※ 電動式 (手動併用) ・ 手動式 (16. 12. 2) (表16. 12. 1) 耐風圧強度 () pa 電動式の場合の安全装置 障害物感知装置の設置箇所 ・ 図示による ・ スラットの材質の種類 (16. 12. 3) ・ JIS G 3312 (塗装溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯) めっきの付着量 ※ Z06 又は F06 ・ JIS G 3322 (塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛めっき鋼板及び鋼帯) めっきの付着量 ※ A290 スラットの種類 ・ インターロック形 ・ オーバーラッピング形 (16. 12. 4) オーバーヘッドドア (16. 13. 2) (16. 13. 3) 区分、材料 セクション材料 風圧力区分 (Pa) 開閉方式 収納形式 ガイドレール ・ ステッド ・ 125 ・ バランス式 ・ スタンダード形 ・ 溶融亜鉛めっき鋼板 ・ フレキシブル ・ 100 ・ チェーン式 ・ ローヘッド形 ・ ステンレス鋼板 ・ フレキシブル ・ 75 ・ 電動式 ・ ハイリフト形 (SUS 304) ・ 50 ・ パーチカル形 電動式の場合の障害物感知装置の設置場所 ・ 図示 () 適用は以下によるほか、ガラスの種類、厚さの組合せは建具表及び図示による (16. 14. 2) ・ フロート板ガラスの品質及び厚さの呼びによる種類 ※ 図示 (※ 建具表 ・) による ・ ・ 型板ガラスの厚さによる種類 ※ 図示 (※ 建具表 ・) による ・ ・ 網入板ガラス及び線入板ガラス 網又は線の形状、板の表面の状態、厚さの呼びによる種類 ※ 図示 (※ 建具表 ・) による ・ ・ 合わせガラス 材料板ガラスの種類、厚さの組合せ、合わせガラスの合計厚さ、特性による種類 ※ 図示 (※ 建具表 ・) による ・ ・ 強化ガラス 形状による種類、材料板ガラスの種類による名称 (呼び厚を含む) ・ 特性による種類 ※ 図示 (※ 建具表 ・) による ・			1 取付方法、性能等 (17. 1. 3) 性能 耐風性能 耐震性能 水密性 気密性 耐火性 耐温度差性 遮音性 断熱性 水平方向 (kH) 垂直方向 (kV) ・ W-4 ・ A-3 ・ 80 ・ T3 ・ H-2 ・ 1. 0 ・ 0. 5 ・ W-5 ・ A-4 ・ 70 ・ T4 ・ H-3 ・ ・ ・ ・ 60 T5 ・ H-4 ・ ・ ・ ・ H-5 性能の確認方法及び判定方法 ※ 性能の確認及び判定方法が確認できる適切な資料 ・ 適用は以下によるほか、カーテンウォール図による 金属系材料の種類 ・ アルミニウム材 ・ 鋼材 ・ ステンレス鋼材 (アルミニウム材の場合) 規格等 標仕16. 2. 3による 種別 ・ 着色 ・ 標準色 ・ 特注色 シーリング材 (ガラスの取付けは除く) 下表以外は標仕 表9. 7. 11による 被着体の組合せ シーリング材の種類 記 号 主成分による区分 ガラスの取付け材料 ・ シーリング (種類：) ・ 構造ガasket (材質、形状等 ・ 図示 ・) 断熱材 種類 () 厚さ (mm) () 施工箇所 ・ 図示による ・ 形状及び仕上げ 製品の寸法許容差 ※ 標仕 表17. 2. 11による ・ 見え掛り部の仕上げ ・			① 材料 3 素地ごしらえ 4 錆止め塗料塗り			屋内で使用する塗料のホルムアルデヒドの放散量 ※ F☆☆☆☆ (18. 1. 3) ○ 防火材料 ○ 屋内の壁、天井仕上げは防火材料とする () ・ 次の箇所を除き防火材料とする (箇所：) 種別 (18. 2. 2～18. 2. 7) (表 18. 2. 1～表 18. 2. 7) 下地面等 種 別 木部 不透明塗料塗りの場合 ※ A種 ・ B種 透明塗りの場合 ・ A種 ※ B種 鉄鋼面 耐候性塗料塗り (DP) の場合 ・ A種 ※ B種 ・ C種 上記以外の場合 ・ A種 ・ B種 ※ C種 垂鉛めっき鋼面 ・ A種 ・ B種 モルタル面、せっこうアスファルト面 ・ A種 ※ B種 コンクリート面 (DP以外) ・ ALGN 鉄面 ・ A種 ※ B種 コンクリート面 (DP) ※ A種 ・ B種 押出成形シート板面 ・ A種 ※ B種 せっこうボード面、目地：縦目処理工法 ※ A種 ・ B種 その他のボード面 目地：縦目処理工法以外 ・ A種 ※ B種 種別 (18. 3. 2) (18. 3. 3) (表 18. 3. 1～表 18. 3. 4) 下地面等 錆止め塗料の種類 工程の種類 鉄鋼面 見え掛り部分 SOP A種 ※ A種 ・ B種 DP 1回目 C種 標仕 表18. 3. 4 2. 3回目 D種 EP-G ・ A種 ※ B種 ※ A種 ・ B種 見え隠れ部分 SOP A種 ・ A種 ※ B種 DP 1回目 C種 標仕 表18. 3. 4 2. 3回目 D種 EP-G ・ A種 ※ B種 ・ A種 ※ B種 垂鉛めっき鋼面 鋼製建具等 SOP ※ A種 ・ B種 ※ A種 ・ B種 DP B種 標仕 表18. 3. 6 EP-G C種 ※ A種 ・ B種 鋼製建具以外 SOP ・ A種 ※ B種 ・ A種 ※ B種 DP B種 標仕 表18. 3. 6 SOP C種 ・ A種 ※ B種

8

合成樹脂塗床

・タフテッドカーベット

(19.3.2)(19.3.3)(表19.3.2)

バイル形状	バイル長(mm)	工 法	帯電性	備考
・カットバイル	※5~7	※全面接着工法	・適用する	
・ループバイル	※4~6	・グリッパ－工法	・適用しない	
・カット、ループ併用	-	-	-	

下敷き材（グリッパ－工法の場合）

※反毛フェルト(JIS L 3204)の第2種2号 呼び厚さ8mm

・

見切り、押え金物

・適用する（材質、形状等 図示 ）

・適用しない

・タイルカーベット

(19.3.2)(19.3.3)

種類	バイル形状	寸法	総厚さ(mm)	施工箇所	備考
※第一種	※ループバイル	※500×500	※6.5		
・第二種	-	-	-		
・第一種	・カットバイル	※500×500	※6.5		
・第二種	-	-	-		
・第一種	・カット、ループ併用	※500×500	※6.5		
・第二種	-	-	-		

見切り、押え金物

・適用する（材質、形状等 図示 ）

・適用しない

タイルカーベットの敷き方

平場 ※市松敷き ・模様流し ・

平場 ※市松敷き ・模様流し ・

階段 ・市松敷き ※模様流し ・

合成樹脂塗床材のホルムアルデヒド放散量

※F☆☆☆☆ ・

(19.4.2)

種類

(19.4.2)(19.4.3)(表19.4.1~表19.4.8)

種 類	工 法	仕上げるの種類	施工箇所
・厚膜型塗床材 (弾性ポリウレタン系塗床材)		※平滑仕上げ ※防汚仕上げ ・つや消し仕上げ	
○厚膜型塗床材 (ポリアミド樹脂系塗床材)	○薄膜流し展べ仕上げ ・厚膜流し展べ仕上げ ・樹脂モルタル仕上げ	○平滑仕上げ ○防汚仕上げ	ポンプ室内 床機械基礎
・薄膜型塗床材 (ポリアクリレート系塗床材)		※平滑仕上げ	
○ビニルエステル樹脂 耐薬品性塗床		○防汚仕上げ	防液壇内床、防液堤

フロ어링のホルムアルデヒド放散量

(19.5.2)

※標仕 19.5.2(2)による ・

単層フロ어링

(19.5.2~19.5.5)

種 類	工 法	樹 種	厚 さ、幅及び長さ
・フロリングボード1等	・釘留め(根太張り)	・	※標仕 表19.5.1による
	・釘留め(直張り)	・	※標仕 表19.5.3による
	※接着工法	・	※標仕 表19.5.5による
・フロリングプロダクト1等	※接着工法	・	-

複合フロ어링

(19.5.2~19.5.5)

種 類	工 法	樹 種	厚 さ、幅及び長さ
・複合フロリング (天然木化粧)	・釘留め(根太張り)	・	※標仕 表19.5.2による ・A種 ・B種 ・C種
	・釘留め(直張り)	・	※標仕 表19.5.4による ・A種 ・B種 ・C種
	※接着工法	・	※標仕 表19.5.6による ・A種 ・B種 ・C種

接着工法の場合の不陸緩衝材

(19.5.5)

※合成樹脂発泡シート ・

10 畳敷き

(19.6.2)(表19.6.1)

種別	A種	B種	C種
・D種(畳床・KT-I	・KT-II	・KT-III	・KT-K
・KT-N)			

・衝撃緩和型畳

畳表(JIS A 5902) ・C 1 ・C 2

11

セっこうボード、その他ボード及び合板張り

材料

(19.7.2)(表 19.7.1)

規格名称	種 類	厚 さ (mm) 等	
木質系セメント板	・硬質木毛セメント板 (G)	・15 ・20 ・25 ・	
	・中質木毛セメント板 (G)	・15 ・20 ・25 ・	
	・普通木毛セメント板 (G)	・15 ・20 ・25 ・	
	・硬質木片セメント板 (G)	・12 ・15 ・18 ・21 ・	
	・普通木片セメント板 (G)	・30 ・	
繊維強化セメント板	・けい酸カルシウム板	タイプ2(無石綿)	・6 ・8
火山性ガラス質複層板(VSGボード)	・火山性ガラス質複層板		
繊維版	・ミディアムファイバーボード(MDF)	・3 ・7 ・9 ・12 ・	
	・ハードボード(素地) (G)	・無研磨版(・スラングード・テンボード)・研磨版(・スラングード・テンボード)・2.5 ・3.5 ・5 ・7 ・	
	・ハードボード(化粧) (G)	・内装用 ・外装用 ・2.5 ・3.5 ・5 ・7 ・	
	・インジュレーションボード (G)	・A級(・天井仕上 ・内装仕上 ・) ・9 ・12 ・15 ・18 ・	
パーティクルボード	・単板張りパーティクルボード (G)	・無研磨版 ・研磨版 ・10 ・12 ・15 ・18 ・	
	・化粧パーティクルボード (G)	・単板パーティレイ ・プラファクタパーティレイ ・塗装 ・10 ・12	
吸音材料	・ロックウール絨吸音板	・フラットタイプ (※9〈不燃〉・12 〈 〉) ・凹凸タイプ (※9〈不燃〉・12 〈 〉)	
	・ロックウール絨吸音ボード 1号	・25 ・	
	・グラスウール吸音ボード 32K	・25 (ガラス吹色) ・	
石膏ボード製品	・セっこうボード	※12.5〈不燃〉 ・9.5〈準不燃〉	
	・不燃積層セっこうボード	・化粧無(下地張り用) ・化粧有(トラバーチン模様) ・9.5 (不燃) ・	
	・シージングセっこうボード	※12.5〈不燃〉 ・	
	・強化セっこうボード	※12.5〈不燃〉 ・15〈不燃〉	
	・セっこうガラスボード	・9.5 ・	
	・化粧セっこうボード(木目)	模様 (※板目 ・板目) 専用下地材付き ・12.5〈不燃〉 幅 440mm 程度	
	・化粧セっこうボード(大理石調)	・9.5〈準不燃〉	

MDF及びパーティクルボードのホルムアルデヒド放散量

※F☆☆☆☆ ・

ボード表面への化粧張仕上げの有無

・有り(種類：) ・

天井ボードの重ね張りの張り付け方法(ロックウール吸音板を除く)

(19.7.3)

()

セっこうボードの目地工法

(19.7.3)

種類

・図示(仕上げ表)による ・

セっこうボードのエッジの種類(突付け工法、目透し工法の場合)

・図示による

材料

(19.7.2)

種 類	規 格	防虫処理
・普通合板 (G)	表面の樹種名 () 板面の品質 () 厚さ (mm) ()	・行う ・行わない
・天然木化粧合板 (G)	化粧板の樹種名 () 厚さ (mm) ()	・行う ・行わない
・特殊加工化粧合板	化粧加工の方法 (・オートペーレイ ・プロット ・塗装) 表面性能 () 厚さ (mm) ()	・行う ・行わない

合板のホルムアルデヒド放散量

※標仕 19.7.2(2)(イ)のいずれかによる ・

合板の張付け

・A種 ・B種

(19.7.3)(表 19.7.3)

ホルムアルデヒド放散量

※F☆☆☆☆ ・

(19.8.2)

種類

(19.8.2)

施工箇所	壁紙の種類					防火性能	備 考
	紙	繊維織物	アラステル	無機質	塩化ビニル		
	・	・	・	・	・	・不燃 ・準不燃 ・難燃	
	・	・	・	・	・	・不燃 ・準不燃 ・難燃	
	・	・	・	・	・	・不燃 ・準不燃 ・難燃	
	・	・	・	・	・	・不燃 ・準不燃 ・難燃	

施工

(19.8.3)

モルタル面及びプラスター面の吸込止めの塗布等の素地ごしらえ

(表19.2.4)

※B種 ・A種

コンクリート面の吸込止めの塗布等の素地ごしらえ

(表19.2.5)

※B種 ・A種

セっこうボード面の素地ごしらえ及びけい酸カルシウム板面の吸込止めの塗布等の素地ごしらえ

(表19.2.7)

※B種 ・A種

・断熱材打込み工法

(19.9.3)

断熱材名	種類(記号)	厚さ(mm)	施工箇所
・ビーズ法ポリスチレンフォーム断熱材	・	・	
○押出法ポリスチレンフォーム断熱材(スキン層なし)	※A種2種b ※A種3種b	○25	屋根
・硬質ウレタンフォーム断熱材	・	・	
・フェノールフォーム断熱材	※A種1種	・	

20 ユニット及びその他の工事

1 フリーアクセスフロア

材料等

(20.2.2)

施工箇所	構造	寸法(mm)	高さ(mm)	耐震性能	所定荷重	表面仕上げ材	備 考
	・支柱調整式 ・置敷式	・	・1.0G ・0.6G	・3,000N ・5,000N	・帯電防止床材 ・タイルバット		

帯電防止性能

・U値(クラス1) ・U値(クラス2)

漏洩抵抗

・R≥1×10Ω6 ・

耐荷重性能、耐衝撃性能、ローリングロード性能、耐燃焼性能の試験方法

※標仕20.2.2(2)(イ)による ・

耐荷重性能、耐衝撃性能、ローリングロード性能、耐燃焼性能の寸法精度

※標仕20.2.2(2)(ロ)による ・

2 可動間仕切り

材料等

(20.2.3)

構造形式による種類	構成基材の種類		バネ表面の仕上げ	遮音性能(dB/500Hz)
	スラット	バネ		
・スラット式(内蔵)			※ポリミ樹脂焼付又はアクリル樹脂焼付	・0
・スラット式(露出)			・壁紙張り	・12
・スラットバネ式				・20
・バネ式				・28
				・36

パネル内に取付ける建具

・あり(寸法及び形状 図示)

・なし

パネルの材料のホルムアルデヒド放散量

※F☆☆☆☆ ・

3 移動間仕切り

材料等

(20.2.4)

操作方法による種類	圧縮装置の操作方法	バネの表面材		遮音性(dB/500Hz)
		材質	仕上げ	
・手動式	・プッシュ式	※鋼板	※焼付塗装 ・壁紙張り	・36未満
・電動式	・ハンドル式			・36以上
・部分電動式				

ハンガーレールの取付け下地の補強

※標仕 20.2.4(3)(イ)による ・図示による

パネルをランナーに取り付ける部品

※標仕 20.2.4(3)(ロ)による ・図示による

ハンガーレール

※標仕 20.2.4(3)(ロ)による ・図示による

ランナー

※標仕 20.2.4(3)(ロ)による ・図示による

あと施工アンカー

取付方法

種類： 材質： 寸法：

材料等

(20.2.5)

パネル表面材の材質	脚部の種類	ドアエッジの材質
・ポリミ樹脂系化粧板 ・ポリエチレン樹脂系化粧板	※幅木タイプ	・アルミニウム製 ・ステンレス製 ・表面材と同材

5 手すり

材料等

(20.2.6)

種 別	表面仕上げ	直径(mm)	施工箇所	備考
※集成材	・クリアカー	・※35 ・45		(市販品)
・ステンレス	・HL			
・鋼製	・EP-G ・SOP			
・ビニル製ハンドル		・図示	階段室 階段手摺	
・アルミ 陸屋根			日本下水道事業団仕様	

6 階段止め

材料等

(20.2.7)

材 種	形状	寸法(mm)	取付工法
・ステンレス製(SUS304)	・ひも型	・35mm	※接着工法
・黄銅製押出型材	・タイヤ型	・	・埋込み工法
・アルミニウム製押出型材			

7 黒板及びホワイトボード

材料等

(20.2.9)

種 類	寸法(mm)	色 彩	備 考
・黒板	※焼付け ・ほうろう	※緑 ・黒	※平面 ・曲面 ・スカーン付引分
・ホワイトボード		※白	

8 鏡

取付箇所

()

寸法(mm)

(・図示)

厚さ(mm)

(※5)

(20.2.10)

・衝突防止表示

(20.2.11)

形状、寸法(・30φ)

材質(・ステンレス製)

・非常用進入口等の表示等

(20.2.11)

※消防法に適合する市販品 ・

室名札、ビクトグラフ、案内板等の形状寸法材質色、書体、印刷等の種別、取付け形式

・図示による ○ 吊フック設置7か所へ表示板設置

(20.2.11)

9

表示

10 タラップ

材料の種類

※ステンレス製 ・

(20.2.12)

仕上げ

※研磨等の仕上げは行わない ・

(20.2.13)

煙突用成形ライニング材

適用安全使用温度

・650℃ ・400℃ ・℃

11 煙突ライニング

工法

()

12 ブラインド

材料等

(20.2.14)

・横形ブラインド

種類

※ギア式 ・コード式 ・操作棒式

幅、高さ

・図示による ・

スラットの幅

※25mm ・

材質

スラット

※アルミニウム合金製 ・

ヘッドボックス

※鋼製 ・

ボトムレール

※鋼製 ・

縦形ブラインド

幅、高さ

・図示による ・

開閉方式

・片引き ・両端開き

操作方法

※2本操作コード方式 ・1本操作コード方式

スラットの材質

・焼付け塗装仕上げのアルミスラット

・消防法で定める防火性能の表示がある特殊樹脂加工クロススラット

スラットの幅

()mm

13 ロールスクリーン

材料等

(20.2.15)

材種	品質	遮光性能	操作方式	幅、高さ	取付箇所
・ポリエステル	・	・1級 ・2級 ・3級	・電動式 ・スプリング式 ・チェーン式	・図示	・図示

14 カーテン

材料等

(20.2.16)(表20.2.1)

形式	開閉操作方式	ひだの種類	生地の種類、品質、特殊加工等	取付箇所	備考
・シングル	・片引き	・つまみひだ (三つ山ひだ、二つ山ひだ)	※防火加工	・図示	
・ダブル	・引分け ・ひも引き ・電動	・箱ひだ、片ひだ ・プレーンひだ	・		

15 カーテンレール

材料等

(20.2.16)

レール及びブラケットの強さによる区分

※10-90 ・

レールの材料による区分

※アルミニウム及びアルミニウム合金の押出し成型材

・ステンレス製

レールの仕上げ

※アルマイト ・

レールの形状

※角形 ・

カーテンの付属物

フック(ひるかん)

※鋼製 ・樹脂製

補強鉄線の径及び網目寸法

・図示による ・

(20.3.2)

製作

(20.3.3)

コンクリートの設計基準強度

※水セメント比55%以下、単位セメント量の最小値300kg/m2を満足する調査強度

・図示による

配筋

・図示による

取付方法

・図示による ・

(20.3.4)

材料等

(20.4.2)

材 料	材 種	種 類	質量区分	備 考
・間知石	・花崗岩 ・凝灰岩	—	—	
・コンクリート間知ブロック	—		・A ・B	

工法

(20.4.3)

積み方

※谷積み ・平積み

目塗り

※図示による ・

伸縮調整目地

材種

※図示による ・

厚さ

※図示による ・

18 ブラインドボックス及びカーテンボックス

溝幅×深さ

・90×150 ・120×80 ※120×150 ・150×80 ・図示による

材質

・集成材(仕上げ：)
・アルミニウム製 押出し型材(市販品)
種別(標仕 表14.2.1) ・BC-1種 BC-2種
色合い ・標準色() ・特注色()
・鋼製(仕上げ：)

19 天井点検口

材 種

寸 法

形 式

外 枠

内 枠

・アルミニウム製

・450×450 ・600×600

・一般型

・屋内外用

・額縁タイプ

・額縁枠タイプ

・

・屋内内用

・目地タイプ

・目地タイプ

20 床点検口

材 種

寸 法

形 式

備 考

・アルミニウム製

・450×450 ・600×600

・一般型

・屋内外用

・鍵付き

・

・密閉型

・屋内内用

21 耐震スリット

方 向

タイプ

耐火性能

防水性能

備 考

・垂直方向

※完全(全貫通型)

・耐火型

・有り

・水平方向

・

・非耐火型

・無し

目地

目 地

内壁(幅×深さ)

外壁(幅×深さ)

目地材

・シーリング材(見え掛かりのみ)

・シーリング材(内外とも)

目地寸法(mm)

※20×10 ・

※20×10 ・

目地材の材質は、標仕 表9.7.2による

事業名

令和7年度 第4源泉施設建設工事(1期工事)

図 面

名称

建築工事特記仕様書(6)

縮 尺

—

図面番号

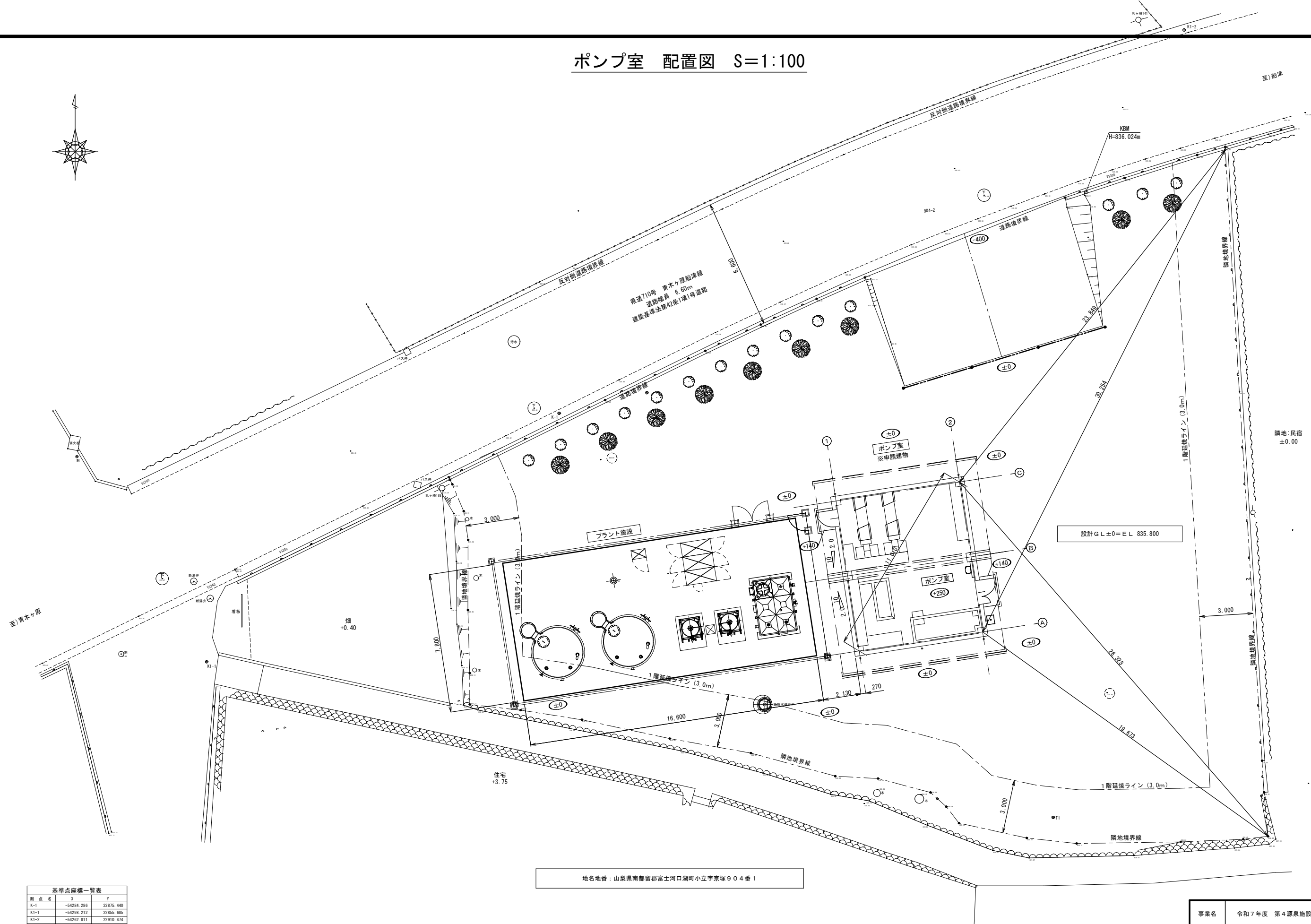
A-06

事業者

富士河口湖町

20 ユニット及びその他の工事	22 止水板	形式 施工箇所	○ 差込式 ○ 図示による	・ 据置式 ・ 壁張り式	
	23 エキスパンション ・ ジョイント金物	材 種	クリアランス	耐火性能	備 考
		・ アルミニウム製	・ 50 ・ 100	・ 有り (時間)	・ 外部は防水型
		・ ステンレス製	・ 150	・ 無し	
	24 かつふきマット	外部は防水型とする			
		材 種	受け枠		備 考
		・ 塩化ビニル又はゴム製	・ ステンレス鋼 (SUS304)		
		・ 硬質アルミニウム合金製	・ 硬質アルミニウム合金		
		・ ステンレス鋼 (SUS304) 製	・		
	25 流し台ユニット	材 種	寸 法 (mm)	備 考	
26 旗竿		・ 流し台	W ・ 1200 ・ 1500 ・ 1800	D ・ 550 ・ 600 ・ 650	H ・ 800 ・ 850
		・ コンロ台	・ 600	・ 550 ・ 600 ・ 650	・ 620 ・ 670
		・ つり戸棚	・ 1200 ・ 900	・ 450	・ 500 ・ 700
		・ 水切り棚	・ 1200 ・ 900 ・ 600		市販品 ステンズ製 ・ 1 段式
		品質・性能 JIS A 4420 による			
		形状 ※ 図示による			
		材 質	形 式	高さ (m)	操作方法
		・ アルミニウム合金製	・ テーパー型		・ ハンドル式
		・	・ 同一断面型		・ ロープ式
					・ ペース式
27 旗竿受金物		材種	・ ステンレス製 (SUS 304)		
	28 車止め支柱	※ ステンレス製 (上下式鎖内蔵型) 径 114.3mm t=2.5mm H=GL+700mm			
		※ スプリング付			
	29 フェンス	フェンスの種類	・ ビニル被覆エキスパンドフェンス ・ 樹脂塗装メッシュフェンス ・ 鋼管フェンス ・ アルミフェンス		
		高さ	・ 図示による		
	30 鋼製書架及び物品棚	種 類	規格等	JISによる種類	
		・ 鋼製書架	JIS S 1039 の規格による	・ 1 種 ・ 2 種 ・ 3 種	
		・ 鋼製物品棚		・ 4 種 ・ 5 種 ・ 6 種	
	31 屋内掲示板	枠の材質	※ アルミニウム製		
		表面の材質	※ 塩ビ発泡シート張り		
32 洗面カウンター		材 種	・ メラミン樹脂化粧板張り (心材 : 集成材)		・ 人工大理石
		奥行き (mm)	・ 約 450		・ 約 600
	33 防煙垂れ壁	・ 固定式	材 質	厚さ (mm)	高さ (mm)
		※ 網入り磨板ガラス	※ 6.8	※ 500	アルミ製枠付き
		・ 網入り磨板ガラス	・	・	
		・ 可動式	種 類	材 質	高さ (mm)
		・ 垂直降下式 (巻取り型)	※ 不燃布 (不燃認定品)	※ 500 ・ 800	ガイドレール
		・ 回転降下式	鋼板製又はアルミ製	※ 500 ・ 800	※ 固定式 (壁埋込型) ・ 可動式 (天井収納型)
					表面仕上げ ※ 天井材張り
34 収納家具		降下機構	煙感知器連動及び手動開放装置 (埋込型)		
		材質形状・寸法	※ 図示による		
		合板、集成材、MDF、パーティクルボード等のホルムアルデヒドの放散量	※ F☆☆☆☆		
	35 屋外掲示板	照明器具 (※ 有り ・ 無し)	施錠 (※ 有り ・ 無し)		
	36 敷地境界石標	種類	※ コンクリートブロック製 (市販品) ・ 花こう石類 (文字記号等入り)		
	37 視覚障害者用床タイル (誘導用及び 注意喚起用床材)	ブロックパターンは JIS T 9251 による	色彩は黄色を原則とする		
		屋 内	※ 塩化ビニル製	・ 磁器又はセラ質タイル (※ 300 ・)	
			・ レジンコンクリート製		
		屋 外	※ レジンコンクリート製	・ 磁器又はセラ質タイル (※ 300 ・)	
	38 かぎ箱	形 式	市販品 (・ 30 組用 ・ 60 組用 ・ 120 組用 ・)		
21 排水工事	① 屋外雨水排水	排水管用材料	(21.2.1) (表 21.2.1)		
		材 種	種類・記号	形状	呼び径
		※ 遠心力鉄筋コンクリート管	外圧管 (1 種)	・ B 形管	・ 図示
		○ 硬質ポリ塩化ビニル管	※ V P		・ 図示
			・ V U		・ 図示
			・ RS-VU		・ 図示
		・ 硬質ポリ塩化ビニル管継手	・ D V		・ 図示
			・ V U 継手		・ 図示
		基床の厚さ及び種類	・ 図示による		
		硬質ポリ塩化ビニル管の継手に用いる材料	※ 接着剤	・ ゴム輪	
22 舗装工事		側境の形状及び寸法	○ 図示による		
		排水溝の種類	・ 図示による		
		砂地案に用いる材料	・ シルト	・ 山砂	・ 川砂
		砂利地案に用いる材料	・ 再生クラッシャーラン	・ 切込砂利	・ 切込砕石
		・ 現場打ちの場合のコンクリート材料	※ 普通コンクリート		
		設計基準強度	※ 18N/mm2		
		スランプ	※ 15cm又は18cm		
		・ 現場打ちの場合の鉄筋 種類の記号	※ SD295		
		凍上抑制層に用いる材料	・		
		砂を用いる場合の粒度試験	・ 行う ・ 行わない		
23 植栽及び屋上緑化工事		※ B 種 (標準仕様書 表 3.2.1)	(21.2.1)		
	1 路床	路床の材料	(22.1.3) (22.2.2) (22.2.3)		
		種 別	材 料	厚さ (mm)	
		・ 盛土	標準仕様書 表 3.2.1 により	・ 図示	
			・ A 種 ・ B 種 ・ C 種 ・ D 種		
		・ 凍結抑制層	※ 再生クラッシャーラン	・ クラッシャーラン	・ 図示
			・ 切込み砂利	・ 砂	
		透水性舗装に用いるフィルター層の厚さ	・ 図示による		
		路床安定処理	・ 適用する ・ 適用しない		
		安定処理の方法	・ 置き換え工法	・ 安定処理工法	
24 舗装工事		添加材料	(表 22.2.1)		
		種類	・ 普通ポルトランドセメント		
			・ 高炉セメント B 種		
			・ フライアッシュセメント B 種		
			・ 生石灰 (・ 特号 ・ 1 号)		
			・ 消石灰 (・ 特号 ・ 1 号)		
		添加量を定めるために用いる CBR ()	(22.2.4)		
		試験	(22.2.5)		
		路床土の支持力比 (CBR) 試験	・ 行う	・ 行わない	
		路床締固め度の試験 (現場密度)	・ 行う	・ 行わない	
25 舗装工事		現場 CBR 試験	・ 行う	・ 行わない	
	2 路盤	路盤の厚さ	・ 図示による		
		路盤材料	※ 再生クラッシャーラン	・ クラッシャーラン	・ 粒度調整砕石
			※ 再生粒度調整砕石	・ クラッシャーラン鉄鋼スラグ	
			・ 粒度調整鉄鋼スラグ	・ 水硬性粒度調整鉄鋼スラグ	
	3 アスファルト舗装	アスファルト舗装の構成及び厚さ	※ 図示による		
		材料	※ 再生アスファルト (・ 60～80 ・ 80～100)		
		アスファルト	※ 再生アスファルト		
			・ スレートアスファルト		
		加熱アスファルト混合物の種類	(22.4.4) (表 22.4.4)		
26 舗装工事		区 分	地 域	種 類	
		表層	・ 一般地域	※ 密粒度アスファルト混合物 (13)	・ 細粒度アスファルト混合物 (13)
			・ 寒冷地域	※ 密粒度アスファルト混合物 (13F)	
		試験	アスファルト混合物等の抽出試験	・ 行う	・ 行わない
		舗装の平たん性	※ 通行の支障となる水たまりを生じない程度		
		コンクリート舗装の厚さ	(22.5.2)		
		舗装の種類	部 位	構 成	厚さ (mm)
		コンクリート舗装	歩行者用通路	・ 図示	※ 70
			車路及び駐車場	・ 図示	・ 図示
		材料	(22.5.3)		
27 舗装工事		コンクリート	※ 普通コンクリート、標準仕様書 表 22.5.1 による		
		早強ポルトランドセメント	・ 使用する ・ 使用しない		
		注入目地材料	※ 低弾性タイプ	・ 高弾性タイプ	
		施工：目地	(22.5.4)		
		種類、間隔、構造	※ 標準仕様書 表 22.5.3 及び 図 22.5.1 による		
		舗装の平たん性	(22.5.2)		
		※ 通行の支障となる水たまりを生じない程度			
		・ 加熱系カラー舗装	(22.6.2) (22.6.3) (22.6.4) (表 22.6.1)		
		構成・厚さ	・ 図示による		
		表層に用いる加熱系混合物の結合材	・ アスファルト混合物		
28 舗装工事		・ 石油樹脂系混合物	顔料の添加量 (%)		
		加熱系混合物に添加する材料	・ 着色骨材 ()		
		・ 自然石 ()			
		アスファルト混合物の抽出試験	・ 行う ・ 行わない		
		・ 常温系カラー舗装	(22.6.2) (22.6.3) (22.6.4) (表 22.6.1)		
		工法	・ ニート工法	・ 塗布工法	
		着色部の下部	アスファルト舗装	・ コンクリート舗装	
		ニート工法及び塗布工法の配合等			
		舗装の平たん性	(22.6.6)		
		※ 通行の支障となる水たまりを生じない程度			
29 舗装工事		舗装構成	※ 図示による		
		材料	(22.1.3) (22.7.3)		
		アスファルト	※ 再生アスファルト (・ 60～80 ・ 80～100)		
		・ スレートアスファルト			
		試験	開粒度アスファルト混合物等の抽出試験	・ 行う	・ 行わない
		舗装の平たん性	※ 著しい不陸がないもの		
		・ コンクリート平板舗装	(22.8.2) (22.8.3)		
		種 類	寸法 (mm)	厚さ (mm)	目地材
		※ 普通平板 (N)	・ 300角	※ 60	※ 砂
		・ 透水性平板 (P)	・	・	・ モルタル
30 舗装工事		・ 保水性平板 (M)	・	・	・
		クッション材	・ 砂	・ 空録モルタル	(22.8.2)
		仕上りの平たん性	※ コンクリート平板間の段差 3mm 以内 (22.8.2)		
		・ インターロッキングブロック舗装	(22.8.2) (22.8.3)		
		種 類	部 位	形状寸法	厚さ (mm)
		※ 普通ブロック (N)	車路	※ 図示	※ 80
		・ 透水性ブロック (P)	・	・	※ 5.0
		・ 保水性ブロック (M)	歩行者用通路	※ 図示	※ 60
					※ 3.0
		インターロッキングブロックの割付け	・ 図示による		
31 舗装工事		仕上りの平たん性	※ インターロッキングブロック間の段差 3mm 以内 (22.8.2)		
		・ 舗石舗装	(22.8.2) (22.8.3)		
		種 類	形状寸法	厚さ (mm)	割付け
		※ 小舗石 (花こう岩)	・ 図示	・ 80	・ 図示
		・	・	・	※ コンクリート版 (※ 70 ・)
		クッション材	・ 砂	・ 空録モルタル	(22.8.2)
		舗装の割付け	・ 図示による		
		仕上りの平たん性	※ 舗装間の段差 3mm 以内 (22.8.2)		
		種別	(22.9.2) (表 22.9.1)		
		通路	※ A 種	・ 図示による	
	建築物周囲その他 ()	※ B 種	・ 図示による		
32 舗装工事	1 路床	路床の材料	(22.1.3) (22.2.2) (22.2.3)		
		種 別	材 料	厚さ (mm)	
		・ 盛土	標準仕様書 表 3.2.1 により	・ 図示	
			・ A 種 ・ B 種 ・ C 種 ・ D 種		
		・ 凍結抑制層	※ 再生クラッシャーラン	・ クラッシャーラン	・ 図示
			・ 切込み砂利	・ 砂	
		透水性舗装に用いるフィルター層の厚さ	・ 図示による		
		路床安定処理	・ 適用する ・ 適用しない		
		安定処理の方法	・ 置き換え工法	・ 安定処理工法	
		添加材料	(表 22.2.1)		
33 舗装工事		種類	・ 普通ポルトランドセメント		
			・ 高炉セメント B 種		
			・ フライアッシュセメント B 種		
			・ 生石灰 (・ 特号 ・ 1 号)		
			・ 消石灰 (・ 特号 ・ 1 号)		
		添加量を定めるために用いる CBR ()	(22.2.4)		
		試験	(22.2.5)		
		路床土の支持力比 (CBR) 試験	・ 行う	・ 行わない	
		路床締固め度の試験 (現場密度)	・ 行う	・ 行わない	
		現場 CBR 試験	・ 行う	・ 行わない	
34 舗装工事	2 路盤	路盤の厚さ	・ 図示による		
		路盤材料	※ 再生クラッシャーラン	・ クラッシャーラン	・ 粒度調整砕石
			※ 再生粒度調整砕石	・ クラッシャーラン鉄鋼スラグ	
			・ 粒度調整鉄鋼スラグ	・ 水硬性粒度調整鉄鋼スラグ	
	3 アスファルト舗装	アスファルト舗装の構成及び厚さ	※ 図示による		
		材料	※ 再生アスファルト (・ 60～80 ・ 80～100)		
		アスファルト	※ 再生アスファルト		
			・ スレートアスファルト		
		加熱アスファルト混合物の種類	(22.4.4) (表 22.4.4)		
		区 分	地 域	種 類	
35 舗装工事		表層	・ 一般地域	※ 密粒度アスファルト混合物 (13)	・ 細粒度アスファルト混合物 (13)
			・ 寒冷地域	※ 密粒度アスファルト混合物 (13F)	
		試験	アスファルト混合物等の抽出試験	・ 行う	・ 行わない
		舗装の平たん性	※ 通行の支障となる水たまりを生じない程度		
		コンクリート舗装の厚さ	(22.5.2)		
		舗装の種類	部 位	構 成	厚さ (mm)
		コンクリート舗装	歩行者用通路	・ 図示	※ 70
			車路及び駐車場	・ 図示	・ 図示
		材料	(22.5.3)		
		コンクリート	※ 普通コンクリート、標準仕様書 表 22.5.1 による		
36 舗装工事		早強ポルトランドセメント	・ 使用する ・ 使用しない		
		注入目地材料	※ 低弾性タイプ	・ 高弾性タイプ	
		施工：目地	(22.5.4)		
		種類、間隔、構造	※ 標準仕様書 表 22.5.3 及び 図 22.5.1 による		
		舗装の平たん性	(22.5.2)		
		※ 通行の支障となる水たまりを生じない程度			
		・ 加熱系カラー舗装	(22.6.2) (22.6.3) (22.6.4) (表 22.6.1)		
		構成・厚さ	・ 図示による		
		表層に用いる加熱系混合物の結合材	・ アスファルト混合物		
		・ 石油樹脂系混合物	顔料の添加量 (%)		
37 舗装工事		加熱系混合物に添加する材料	・ 着色骨材 ()		
		・ 自然石 ()			
		アスファルト混合物の抽出試験	・ 行う ・ 行わない		
		・ 常温系カラー舗装	(22.6.2) (22.6.3) (22.6.4) (表 22.6.1)		
		工法	・ ニート工法	・ 塗布工法	
		着色部の下部	アスファルト舗装	・ コンクリート舗装	
		ニート工法及び塗布工法の配合等			
		舗装の平たん性	(22.6.6)		
		※ 通行の支障となる水たまりを生じない程度			
		舗装構成	※ 図示による		
38 舗装工事		材料	(22.1.3) (22.7.3)		
		アスファルト	※ 再生アスファルト (・ 60～80 ・ 80～100)		
		・ スレートアスファルト			
		試験	開粒度アスファルト混合物等の抽出試験	・ 行う	・ 行わない
		舗装の平たん性	※ 著しい不陸がないもの		
		・ コンクリート平板舗装	(22.8.2) (22.8.3)		
		種 類	寸法 (mm)	厚さ (mm)	目地材
		※ 普通平板 (N)	・ 300角	※ 60	※ 砂
		・ 透水性平板 (P)	・	・	・ モルタル
		・ 保水性平板 (M)	・	・	・
39 舗装工事		クッション材	・ 砂	・ 空録モルタル	(22.8.2)
		仕上りの平たん性	※ コンクリート平板間の段差 3mm 以内 (22.8.2)		
		・ インターロッキングブロック舗装	(22.8.2) (22.8.3)		
		種 類	部 位	形状寸法	厚さ (mm)
		※ 普通ブロック (N)	車路	※ 図示	※ 80
		・ 透水性ブロック (P)	・	・	※ 5.0
		・ 保水性ブロック (M)	歩行者用通路	※ 図示	※ 60
					※ 3.0
		インターロッキングブロックの割付け	・ 図示による		
		仕上りの平たん性	※ インターロッキングブロック間の段差 3mm 以内 (22.8.2)		
40 舗装工事		・ 舗石舗装	(22.8.2) (22.8.3)		
		種 類	形状寸法	厚さ (mm)	割付け

ポンプ室 配置図 S=1:100



測 点 名	X	Y
K-1	-54284.286	22875.440
K1-1	-54298.212	22855.685
K1-2	-54262.811	22910.474
T1	-54306.927	22903.134

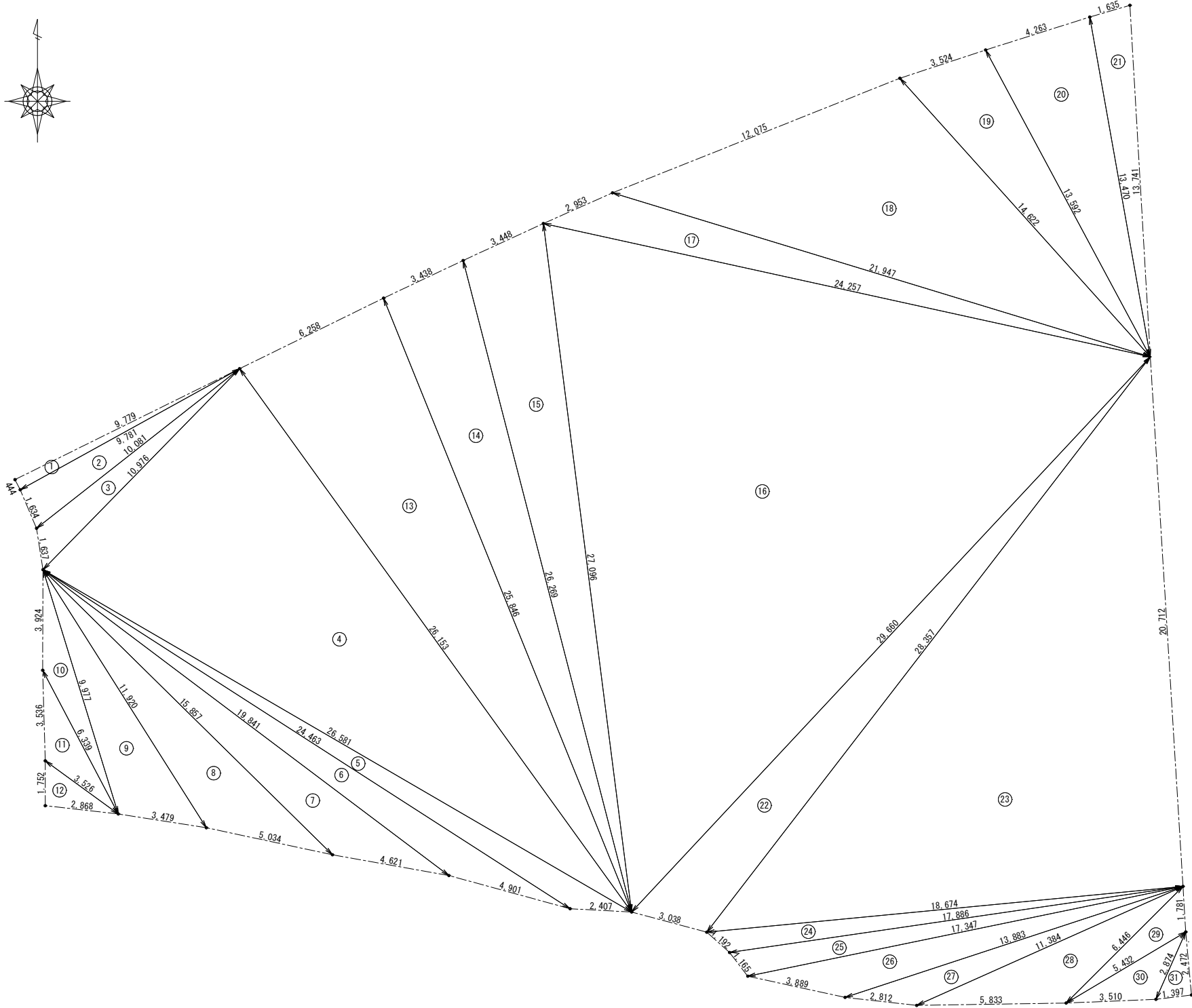
世界測地系(測地成果2011)

地名地番：山梨県南都留郡富士河口湖町小立字京塚904番1

凡 例 1. $\textcircled{\pm 0.00}$ 設計 G L ± 0 (E L=835.80) との高低差

事業名	令和7年度 第4湧泉施設建設工事（1期工事）		
図面名称	ポンプ室 配置図		
縮尺	1:100 (A1)	図面番号	A-08
事業者	富士河口湖町		

敷地求積図・面積表 S=1:100



■面積表（ヘロンの公式） 敷地面積 1,204.00 m2

番号	辺 a	辺 b	辺 c	(a+b+c)/2	面積
1	0.444	9.779	9.781	10.002	2.17
2	1.634	9.781	10.081	10.748	7.95
3	1.637	10.081	10.976	11.347	7.19
4	10.976	26.581	26.153	31.855	141.43
5	26.581	24.463	2.407	26.726	14.58
6	4.901	24.463	19.841	24.603	17.94
7	4.621	19.841	15.857	20.160	20.72
8	5.034	15.857	11.920	16.406	21.42
9	3.479	11.920	9.977	12.688	15.60
10	3.924	9.977	6.339	10.120	5.82
11	3.536	6.339	3.526	6.701	4.93
12	3.526	2.868	1.752	4.073	2.50
13	6.258	26.153	25.846	29.129	80.66
14	3.438	25.846	26.269	27.777	44.36
15	3.448	26.269	27.096	28.407	44.56
16	27.096	24.257	29.660	40.507	309.42
17	2.953	24.257	21.947	24.579	21.21
18	12.075	21.947	14.622	24.322	82.84
19	3.524	14.622	13.592	15.869	23.58
20	4.263	13.592	13.470	15.663	28.47
21	1.635	13.470	13.741	14.423	10.95
22	3.038	29.660	28.357	30.528	39.75
23	28.357	20.712	18.674	33.872	193.28
24	1.192	18.674	17.886	18.876	8.17
25	1.165	17.886	17.347	18.199	9.09
26	3.889	17.347	13.883	17.560	13.69
27	2.812	13.883	11.384	14.040	8.09
28	5.833	11.384	6.446	11.832	13.08
29	1.781	6.446	5.432	6.830	4.30
30	3.510	5.432	2.874	5.908	4.52
31	1.397	2.874	2.472	3.372	1.73

基準点座標一覧表			
測点名	X	Y	
K-1	-54284.386	22875.440	
K1-1	-54288.212	22855.685	
K1-2	-54282.811	22910.474	
T1	-54306.927	22903.134	

世界測地系(測地成果2011)

地名地番：山梨県南都留郡富士河口湖町小立字京塚904番1

事業名	令和7年度 第4源泉施設建設工事（1期工事）		
図面名称	敷地求積図・面積表		
縮尺	1:100 (A1)	図面番号	A-09
事業者	富士河口湖町		

建築概要	
建築物名	ポンプ棟
敷地面積	1,204.00㎡
構造・規模	RC造 地上1階
建築面積	64.64㎡
延べ面積	64.24㎡
軒高	4.36m
最高の高さ	4.46m

地域・地区等	
法令・条項	項目
都市計法	都市計画区域・準都市計画区域
建築法 第43条	敷地等と道路との関係
建築法 第48条	用途地域
建築法 第52・53条	容積・建ぺい率(全施設)
建築法 第56・56条の2	建築物の各部分の高さ
建築法 第61・62条	防火・準防火地域内の建築物

法令・条項	該当事項
関係法、同条例、同規定等	・自然公園法施行規則第11条 国立公園 第2種特別地域 ・建築物のエネルギー消費性能の向上に関する法律 ※建築物省エネ法第18条第1号 上下水道に係るポンプ場

その他の確認事項	
項目	摘要
防火対象物	法15項
管廊・別棟との接続	該当なし
ポンベハウス等の構造	該当なし
条例等による制限の付加の有無	

建 築 基 準 法 (令)					建 築 基 準 法 (令)					消 防 法 (令)									
審査項目		法令条項 法令		チェック	判定	審査項目		法令条項 法令		チェック		判定	審査項目		法令条項 法令		チェック		判定
耐火・準耐火構造等	地域・規模による構造	61 62		防火地域一階数() 延べ面積(㎡)構造 () [階数3以上又は延べ面積100㎡を超えるもの耐火、左記以外の準耐火又は耐火] 準防火地域一階数() 延べ面積(㎡)構造 () ・ [地上4以上又は延べ面積1,500㎡] を超えるもの耐火] ・ [地上3又は延べ面積500㎡を超え、1,500㎡以下準耐火又は耐火]	該当なし	防火区画	36	112	[別表の計算書による・すべて1,500㎡以内]		該当なし	消火設備	消火器具	17	10	延べ面積 (64.24㎡) 地階・無窓階・3階以上の階の床面積 (地階部分:0.00㎡) ・ 設置[延べ面積300㎡以上又は地階等の部分で床面積50㎡以上] ○不要		不要	
	屋根葺材	22 63	109の5 136の2の2	構造 (造) 屋根材 () ・ 法第22条の区域[H12建告第1361号][H12建告第1434号] ・ 法第63条の区域[H12建告第1365号][H12建告第1434号] ○区域外	該当なし	防火区画に接する部分の構造等		112-10、 11、14	90cm以内の壁面等の構造 () [準耐火構造・H12建告第1358号] 防火戸面積 (㎡≦3㎡) ・ 常時閉鎖式 ・ 随時閉鎖式 [防火設備等の構造: S48建告第2563号] [遮煙性能を有する防火設備等の構造: S48建告第2564号] [特定防火設備の構造: H12建告第1369号]		該当なし		屋内消火栓設備		11	延べ面積 (64.24㎡) 構造 (耐火構造) 地階・無窓階又は4階以上の階の床面積 (地階部分:0.00㎡) ・ 設置[耐火構造で延べ面積3,000㎡以上又は地階等の部分で床面積600㎡以上] (主要構造部を耐火構造とし、かつ、壁・天井の仕上げを難燃材料) ○不要		不要	
居室の採光および換気	28		[別表の計算書による]	※居室なし	該当なし	防火区画を貫通するダンパーの構造等	112-16	AM No. (図) による [防火設備の構造: S48建告第2565号] [風道に防火設備を設ける方法: H12建告第1376号]		該当なし	水噴霧消火設備等			13～18	発電機室・電気室・ボイラー室等の床面積 (電気室部分:64.24㎡) ・ 設置[発電機室等の部分で床面積200㎡以上] ・ 緩和申請する (スプリンクラー設備を設置) ○不要		不要		
換気設備の技術的基準		20の2 20の3	居室の換気のための窓その他開口部[別表の計算書による] ・ 換気上有効な面積 (㎡) /居室の床面積 (㎡) ≧1/20 換気方法 () 火を使用する室の有無 ・ 有-室名 ()、換気方法 () ○無	※居室なし	OK	防火戸その他の防火設備	109	延焼のおそれのある部分 ・ 有 ○無		該当なし	屋外消火栓設備			19	地上階の1階又は、1及び2階の部分の床面積の合計(64.24㎡)、耐火建築物等(耐火建築物) 建築物相互の外壁間の中心線からの水平距離が1階にあっては3m以下、2階にあっては5m以下の部分を有するものは1の建築物とみなす ・ 設置[耐火建築物で床面積9,000㎡以上] ○不要		不要		
換気設備 (自然換気)		20の2 129の2の6	給気口高さ(㎡) /天井高さ(㎡) ≦1/2 排気口高さ(㎡) >給気口高さ(㎡)	※居室なし	該当なし	排煙設備の設置	35	126の2	居室の面積100㎡ (全ての居室) ・超えない・超える 超える場合の措置法 (・防煙壁を設置) 居室の排煙面積1/50 ・ 以上 ・ 未満 未満の場合の措置法 () [H12建告第1436号]		※居室なし 該当なし		自動火災報知器設備		21	延べ面積 (64.24㎡) 地階・無窓階・3階以上の階の床面積 (地階部分:0.00㎡) ・ 設置[延べ面積1,000㎡以上又は地階等の部分で床面積300㎡以上] ○不要		不要	
窓その他開口部を有しない居室等	35	116の2	無窓 (採光) 居室 ・ 有 (室名:) ・ 無	※居室なし	該当なし	排煙設備の構造		126の3	各部分から排煙口までの水平距離 (㎡) ≦30m ・ 手動開放装置の床面からの高さ壁付1.5m ≧ (㎡) ≧0.8m ・ 天井吊下げ (㎡) ≧FL+1.8m 排煙口面積[別表計算 書による] ・ 全て自然排煙 ・ 一部機械排煙		該当なし	非常警報設備		24	地階階数 (1) ・ 設置[地階階数3以上但し自火設備無し] ○不要[地階階数2以下又は自火設備有り]		不要		
無窓居室 主要構造部	35の3		構造 () [耐火構造又は不燃材料]	※居室なし	排煙	非常照明	35	126の4	・ 設置 ・ [階数3以上で延べ面積500㎡を超える建築物の居室] ・ [延べ面積1,000㎡を超える建築物の居室] ・ [無窓居室[最高に有効な窓等の合計が当該居室の1/20未満]] ・ [廊下・階段・その他通路] ○不要		OK	その他	消防水		27	敷地面積 (1,788.36㎡) 床面積 (113.63㎡) 耐火建築物等 (耐火建築物) 建築物相互の外壁間の中心線からの水平距離が1階にあっては3m以下、2階にあっては5m以下である部分を有するもので、これらの建築物の床面積を耐火建築物 (準耐火建築物その他) にあっては15,000㎡ (10,000㎡・5,000㎡) でそれぞれ除した商の和が1以上となるものは1の建築物とみなす ・ 設置[敷地面積が20,000㎡以上かつ、耐火建築物で床面積が15,000㎡以上] ○不要		不要	
2以上の直通階段 (5階以下の階の場合)	35	121の1～3	居室の床面積避難階の直上階(㎡) >400㎡・2カ所 (㎡) ≦400㎡・1カ所 その他の階(㎡) >200㎡・2カ所 (㎡) ≦200㎡・1カ所	該当なし	非常照明の構造		126の5	設置を要する部分 () [S45建告第1830号] ・ 1Lx (蛍光灯2Lx) ≦ (電灯の種類: Lx) ・ 予備電源 (30分間継続点灯)		該当なし	連結散水設備			28の2	地階の床面積合計 (0.00㎡) ・ 設置[地階の床面積の合計700㎡以上] ○不要		不要		
避難階段の設置 および特別避難階段		122 123	地上 (1) 階、地下 () 階 ・ 避難階段[5階以上、地下2階以下] ・ 特別避難階段[15階以上、地下3階以下] ○該当せず	該当なし	非常用進入口の設置		126の6	階数 (1) ・設置の階[≧3階] ・ 代用進入口の間隔 (㎡≦10㎡) ・ 非常用進入口の間隔 (㎡≦40㎡) ○不要		OK	無窓階		規則 5-2	避難上消火活動上有効な開口部[別表の計算書による] ・ 各階床面積の1/30以上有り ○床面積の1/30未満の階有り (地階)		無窓階あり			
直通階段・歩行距離		120 121 125	[主要構造部が準耐火構造又は、不燃材料で作られている場合] 無窓居室: 歩行距離 (㎡) ≦30㎡・ (40㎡: 廊下・階段・その他通路を準不燃材料以上で内装) その他の居室: 歩行距離 (㎡) ≦50㎡・ (60㎡: 廊下・階段・その他通路を準不燃材料以上で内装) [2以上の直通階段を設ける場合] 重複距離 (㎡) ≦当該歩行距離の2分の1	該当なし	非常用進入口の構造		126の7	代用進入口の幅、高さ、大きさ、並びに開閉方法 ・ (幅㎡≧0.75、高さ㎡≧1.2m、大きさ㎡≧直径1.0mの円が内接) ・ 開閉方法 (引違い・片開き・嵌殺し) ・ ガラスの種類厚さ (・mm) 非常用進入口の幅、高さ、下端の床面からの高さ ・ (幅㎡≧0.75m、高さ㎡≧1.2m、床面からの高さ≦0.8m) ・ バルコニー奥行き・長さ (㎡≧1.0㎡・㎡≧4.0㎡) ・ ガラスの種類・厚さ (・mm)		該当なし	危険物の貯蔵・取扱い 制限等	10		軽油・重油・潤滑油等の使用量及び保管場所		該当なし			
階段・踊場の幅・けあげ・路面寸法	36	23	直上階居室の合計 (㎡) >200㎡地階若しくは地下工作物の居室の合計 (㎡) >100㎡ ・ 階段幅1.2㎡≦ (㎡)、踊場の幅1.2㎡≦ (㎡)、けあげ20cm≧ (cm)、路面24cm≦ (cm) 上記外 ・ 階段幅0.75㎡≦ (㎡)、踊場の幅0.75㎡≦ (㎡)、けあげ22cm≧ (cm)、路面21cm≦ (cm)	該当なし	内装制限	制限を受ける特殊建築物等	35の2	128の4	・ 該当する ・ 階数3以上で、延べ面積500㎡を超える ・ 階数2で延べ面積1,000㎡又は階数1で延べ面積3,000㎡を超える ・ 耐火構造以外でこころ、ボイラー等火を使用する部屋がある ○該当しない		OK	(危険物の規制に関する政令)			少量危険物 ・ 一般取扱所室名 () ・ 貯蔵所		該当なし		
踊場の位置および直階段の路幅		24	階高 (㎡) ・ 4mまで ・ 階高4㎡≦ (㎡)、踊場 () カ所、踏幅 (㎡) ≧1.2m	該当なし	その他	特殊建築物の内装		129	制限を受ける特殊建築物に該当する場合 [H12建告第1439号・H21国交告第225号] 居室の壁・天井の仕上げ材 () 廊下・階段・通路の壁・天井の仕上げ材 ()		該当なし				危険物の量 () 構造及び仕上 ()		該当なし		
階段および踊場の手すり等		25	階段の幅: (㎡) >3.0m、高さ (㎡) >1.0m 一般手すり ・ 設置 中間手すり ・ 設置[幅>3m、かつ高さ>1m] ・ 不要[けあげ: (cm) ≦15cm、路面: (cm) ≧30cm]	該当なし		避雷設備	33	129の14	・ 設置 ・ 最高の高さ (5.80m) >20m ・ 指定数量の10倍以上の危険物の製造所・貯蔵庫 ＊消防法 (危険物の規制に関する政令: 第9条第1項第十九号、第10条第1項第十四号) ○不要		OK	路上広場・バルコニー等の手摺		126	高さ (㎡) ≧1.1m		該当なし		
階段に代わる傾斜路		26	勾配 (°) ≦1/8表面仕上材 ()	該当なし	石綿その他の物質の飛散または発散	28の2	20の4 20の5 20の6 20の7	化学物質を発散する建築材料を使用する居室[H14国交告第1112、1113、1114、1115、H15国交告第273、274] ・ 有室名 () 換気方式 () ○無		OK									
廊下幅		149	その階の居室の床面積の合計【A】 (㎡2)、廊下幅 (㎡) [A>200㎡(地階の場合は100㎡)は、両側居室1.6m以上、片側居室1.2m以上] ※居室なし	該当なし															
屋外階段		23 121の2	直通階段の幅 (145cm) ≧90cm、その他の階段 (cm) ≧60cm 直通階段の構造 (RC造) [木造以外]	※居室なし	該当なし														
路上広場・バルコニー等の手摺		126	高さ (㎡) ≧1.1m	該当なし															

事業名	令和7年度 第4源泉施設建設工事 (1期工事)			
図面名称	ポンプ室 法規チェックリスト			
縮尺	-	図面番号	A-10	
事業者	富士河口湖町			

事業名	令和7年度 第4源泉施設建設工事（1期工事）		
図面名称	ポンプ室 法規チェックリスト		
縮尺	-	図面番号	A-10
事業者	富士河口湖町		

設計概要

一般事項

工事名称	富士河口湖町温泉事業 第4源泉（温泉）施設建設工事	事業主体	南都留郡富士河口湖町
建設地	山梨県南都留郡富士河口湖町小立字京塚904番1地		
主要用途	温泉施設		
工事種別	新築	工期	

敷地現況

敷地面積	1,204.00㎡		
都市計画	都市計画区域内 非線引き区域		
用途地域	指定なし	防火地域	指定なし
その他の地域地区	自然公園法施行規則第11条 国立公園 第2種特別地域		
建ぺい率	基準建ぺい率	70 %	日影規制 平均地盤からの高さ 敷地境界線より5mを超え10m以内の範囲 時間以内 " 10mを超える範囲 "
容積率	" 容積率	400 %	

構造

構造	RC造	形式	ラーメン構造
基礎	直接基礎		
増築予定	有		

高さ

階数	地上1階		
最高高さ	4.460m	最高軒高	4.360m

面積

	申請部分	申請以外の部分			合 計	建ぺい率・容積率	
		既設建築物-1	既設建築物-2	既設建築物 計			
建築面積	64.63㎡	(0.00㎡)	(0.00㎡)	0.00㎡	64.63㎡	5.37 % ≤ 許容	70 %
延床面積	64.24㎡	(0.00㎡)	(0.00㎡)	0.00㎡	64.24㎡	5.34 % ≤ 許容	400 %

階別概要

原水滞留槽									
階	計画部分	計画以外の部分	階 高	主要用途	階	計画部分	計画以外の部分	階 高	主要用途
1階	64.24㎡	－㎡	－m	ポンプ室					

有効開口部建具表（㎡）

階	建 具 記 号	床からの高さ	幅 × 高さ × 箇所	開口部面積	開口部種別	ガラスの厚み、種別
1階						

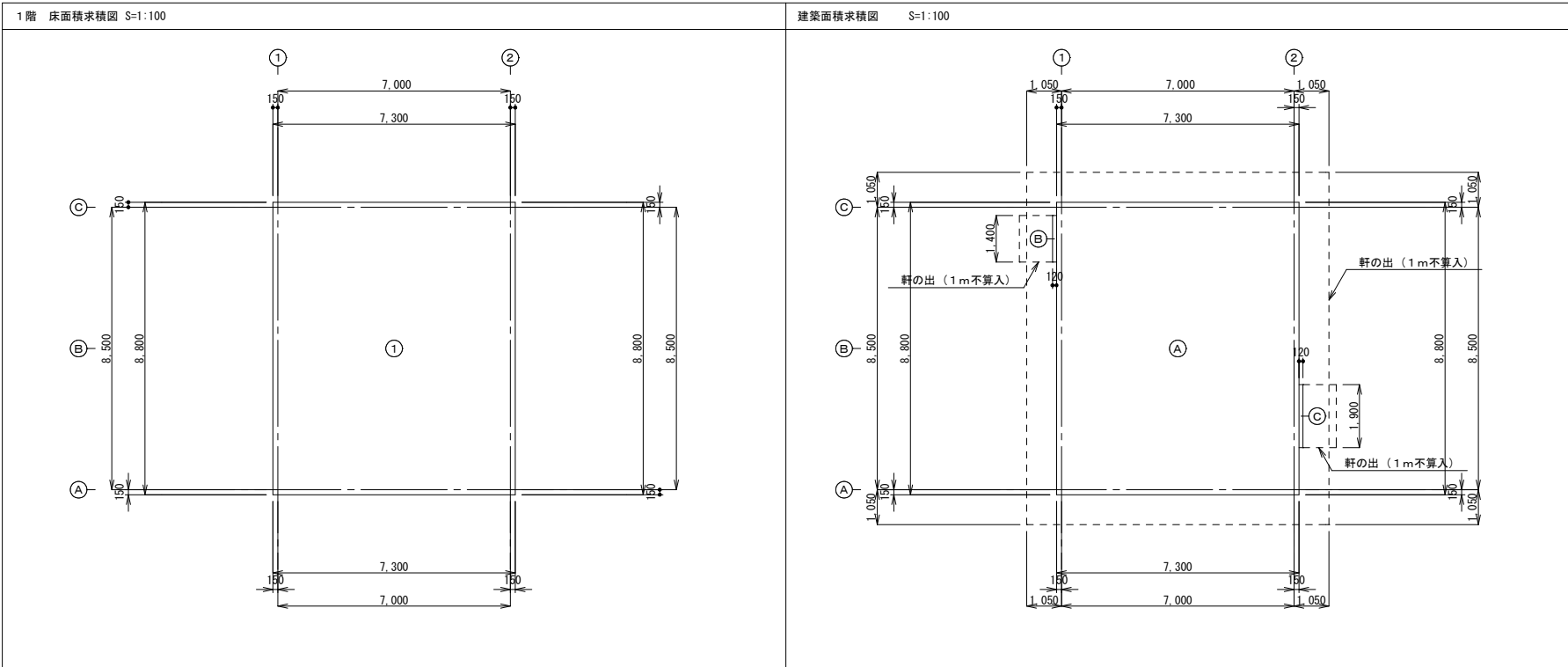
有窓階・無窓階の判定表（㎡）（消防法施行規則5の2の1、5の2の2）

階	有効開口部計算式	有効開口部面積合計	床面積	必要開口部面積(N/30)	判 定
1階	有効な建具無し	－	64.24	2.14	無 ・ 有

斜線制限の検討

道路斜線 （前面道路）	建物最高の高さ 4.01 m 9.94m（道路後退）＋6.60m（道路幅員）＋9.94m（道路後退）＝26.48m 擁用距離 20m以上 ∴0.K
隣地斜線	建物最高の高さ 4.46 m 20mを超える部分の建物なし ∴0.K
北側斜線	用途地域 指定なし ∴該当なし

面積計算



面積計算表

床面積			㎡	建築面積			㎡
1 階				Ⓐ	7.30 × 8.80		64.2400
①	7.30 × 8.80		64.2400	Ⓑ	0.12 × 1.40		0.1680
				Ⓒ	0.12 × 1.90		0.2280
				計			64.6360
				改			64.63
計			64.24				

事業名	令和7年度 第4源泉施設建設工事（1期工事）		
図 面 名 称	ポンプ室 設計概要書		
縮 尺	FREE、1:100	図面番号	A-11
事業者	富士河口湖町		

共 通 事 項	略 号				
1. 特記以外の木、鉄部の塗装は S O P とする。但し、和室回りは除く。 2. 付属物のうち、室名札、床点検口、掲示板、案内板、ビクトグラフ、階段表示板等は、平面図による。 3. 付属物のうち、カーテンボックス、ブラインドボックス、ブラインド、天井点検口等は天井伏図による。 4. P F 板、木毛板等打込み箇所は、別図による。 5. 内壁の見え掛りとなる P F 板打込み部分は、G B 厚 1 2、5 直張り（継目処理工法）とし、塗装は、その部屋の壁面と同様とする。 6. 壁のボード張りは水平方向に継手は設けない。 7. 天井仕上ボード張りのうち、G B－N C（N T）及び D R（下地 G B 共）は突付け張りとし、天井回り縁は、アルミ製、天井付き目地とする。 8. 直接地床工事に接する内部床のコンクリート下地には、防湿層としてポリエチレンフィルム厚 0. 1 5 の敷込みを行う。ただし、床仕上げがビニル床タイル、ビニル床シート及び合成樹脂塗床、床用塗料の場合とする。	C C B W S G B－R G B－N C（N） G B－N C（N T） G B－D（W） G B－S G B－F ケイカル板 D R D R（凹凸） D R（軒天） D R（軒天凹凸） P F 板 木毛板 T B E C P 外装薄塗材（E） 内装薄塗材（S i） 内装薄塗材（E） 複層塗材（S i）	コンクリート下地 コンクリートブロック下地 木造下地 軽量鉄骨下地 せっこうボード 不燃積層せっこうボード（化粧無し：下地張り用） 不燃積層せっこうボード（化粧有り：トラバーチン模様） 木目化粧せっこうボード シージングせっこうボード 強化せっこうボード けい酸カルシウム板（タイプ 2） ロックウール化粧吸音板　トラバーチン模様 ロックウール化粧吸音板　凹凸模様 ロックウール化粧吸音板　軒天井用：トラバーチン模様 ロックウール化粧吸音板　軒天井用：凹凸模様 押出法ポリスチレンフォーム保温材 木質系セメント板 テラゾーブロック 押出し成形セメント板 外装合成樹脂エマルション系薄付け仕上塗材 内装けい酸質系薄付け仕上塗材 内装合成樹脂エマルション系薄付け仕上塗材 けい酸質系複層仕上塗材	C (B) C (C) M 軽量吹付	コンクリート下地（打放シ B） コンクリート下地（打放シ C） モルタル 軽量骨材仕上塗材	複層塗材（C E）ポリマーセメント系複層仕上塗材 複層塗材（E）合成樹脂エマルション系複層仕上塗材 複層塗材（R E）反応硬化形成樹脂エマルション系複層仕上塗材 C L　クリヤラッカー塗り F E　フタル酸樹脂エナメル塗り A E　アクリル樹脂エナメル塗り D P（U E）2 液形ポリウレタンエナメル塗り D P（A S E）アクリルシリコン樹脂エナメル塗り D P（F U E）常温乾燥形ふっ素樹脂エナメル塗り E P－G　つや有合成樹脂エマルションペイント塗り E P　合成樹脂エマルションペイント塗り E P－M　多彩模様塗料塗り E P－T　合成樹脂エマルション模様塗料塗り U C　ウレタン樹脂ワニス塗り O S　オイルステイン塗り S O P　合成樹脂調合ペイント塗り G P　グラファイトペイント塗り A C　アクリル樹脂ワニス塗り（アクリル樹脂クリヤ塗り） N A D　アクリル樹脂系非水分散形塗料塗り L E　ラッカーエナメル塗り W P　木材保護塗料塗り

外部仕上表			
屋 根	カラーガルバリウム鋼板t=0.4たてはげ葺(嵌合式) 働き幅400程度 改質アスファルトルーフィング t=2.0 ポリスチレンフォーム保温板 t=25 金属タルキ@500	庇(上端・軒先)	コンクリート直均しウレタン系塗膜防水X-2
		庇(軒天)	コンクリート打放し (B) 複層仕上塗材RE
雪止め	L-50×50×4 溶融亜鉛メッキ 電解着色塗装 2段	外巾木 (東、南)	コンクリート打放し (B) 薄塗モルタル H=200
軒 樋	落葉除け付き軒樋 両面 ガルバリウム鋼板 t=0.5 固定金具 @450	外巾木 (西、北)	コンクリート打放し (B) 地下防水立上げの上 薄塗モルタル H=200
豎 樋	カラーガルバリウム鋼板 φ75 つかみ金物 溶融亜鉛メッキ仕上げ 屋根同色	打継目地 (東、南)	ポリサルファイド系シーリング PU-2 25×15
軒 先	コンクリート打放し (B) 複層仕上塗材RE	打継目地 (西、北)	ポリウレタン系シーリング PU-2 25×15
軒 天	コンクリート打放し (B) 複層仕上塗材RE	誘発・化粧目地	ポリウレタン系シーリング PU-2 20×10 @3,500以内
外 壁	コンクリート打放し (B) 複層仕上塗材RE ※(地中西、北)コンクリート打放し (B) ケイ酸質系 塗布防水	ポーチ	コンクリート直均し

内部仕上表										
階	室名	床	巾 木		壁	廻り縁	C H	天 井	梁 型	備 考
			仕 上	H						
共 通	ポンプ室	無筋コンクリート直均し t=100 溶接金網 φ6×100×100入り エポキシ系防塵塗装（防滑仕様）	エポキシ系防塵塗装立上げ	100	コンクリート打放し（B）	－	直天	コンクリート打放し（B） 軽量骨材吹付（パーライト系） t=5	天井に同じ	機器基礎、排水溝、配管ビット、溝蓋(配管ビット用)
機 械 基 礎	ろ過機操作壁 機械基礎	コンクリート直均し t=200（1FL+100） エポキシ系防塵塗装	エポキシ系防塵塗装立上げ	100	－	－	－	－	－	吊フック 1か所
	動力・計装壁 機械基礎	コンクリート直均し t=200（1FL+100） エポキシ系防塵塗装	エポキシ系防塵塗装立上げ	100	－	－	－	－	－	吊フック 2か所
	圧送ポンプ、ろ過ポンプ 機械基礎	コンクリート直均し t=300（1FL+200）	－	－	－	－	－	－	－	圧送ポンプ設置用吊フック 4か所
防 液 堤	防液堤、踏台	コンクリート直均し t=400（1FL+300） ビニルエステル樹脂 耐薬品性塗床	ビニルエステル樹脂 耐薬品性塗床立上げ	100		－	－	－	－	
	防液堤内	無筋コンクリート直均し t=200 溶接金網 φ6×100×100入り ビニルエステル樹脂 耐薬品性塗床（防滑仕様）	－	－	－	－	－	－	－	
その他	配管ビット	勾配防水モルタル直均し	ケイ酸質系 塗布防水立上げ	100	ケイ酸質系 塗布防水	－	－	－	－	

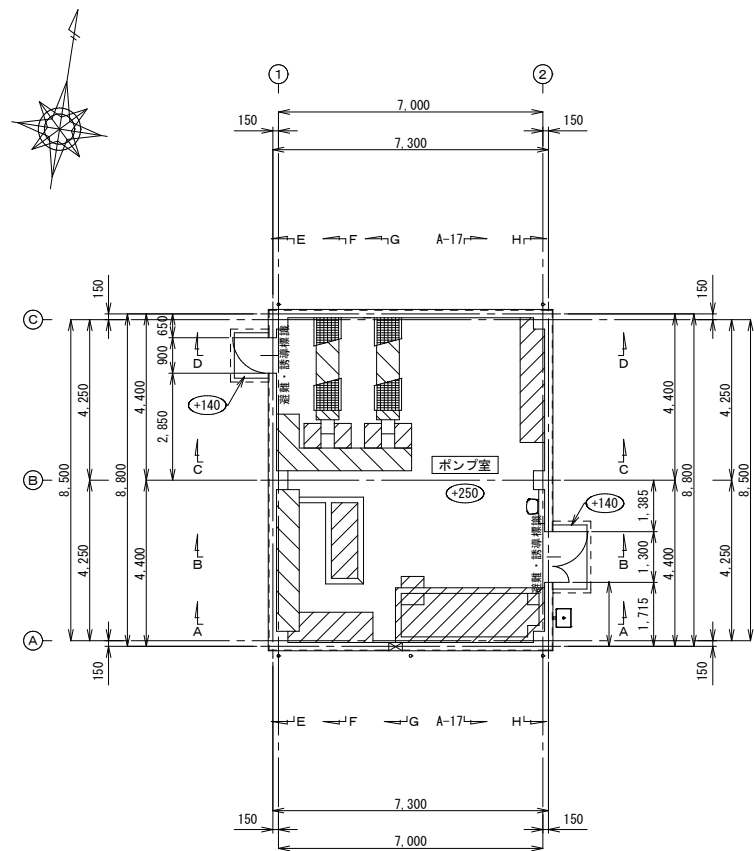
内部仕上共通事項
・床排水溝内仕上は、勾配防水モルタル直均しとする
・内装仕上（建具・家具を含む、天井裏、小屋裏、床裏等の下地材、断熱材その他の面材に使用する建築材料（接着剤・塗料含む）は、全てJIS、JAS F☆☆☆☆表示品とし、環境ホルモンの溶出ししない材料とする
・使用建築材料は、法第37条に適合するものとし、石綿を添加した建築材料を使用しない
・軽量骨材吹付（パーライト系）、JISA6909、不燃材料NM-8572
・全ての壁、天井の仕上・下地は、不燃とする

仕上材料の厚さ	材料名	種別	壁(m/m)	天井(m/m)	備 考	材料名	種別	壁(m/m)	天井(m/m)	備 考
	GB-R	仕上	12. 5	12. 5	NM－8619	けい酸カルシウム板(タイプ2)		12	10	NM－8578
		下地	12. 5			押出法ポリスチレンフォーム保温材		25	25	
	GB-NC (N)	下地		9. 5	NM－8613 又は同等	壁 紙				
	GB-NC (NT)			9. 5						
	GB (W)			12. 5	NM－8614	GB-S	仕上12. 5	仕上12. 5		NM－8639
	DR			12	NM－8599					

事業名	令和7年度 第4源泉施設建設工事（1期工事）			
図 面 名 称	ポンプ室 仕上表			
縮 尺	－	図面番 号	A-12	
事業者	富士河口湖町			

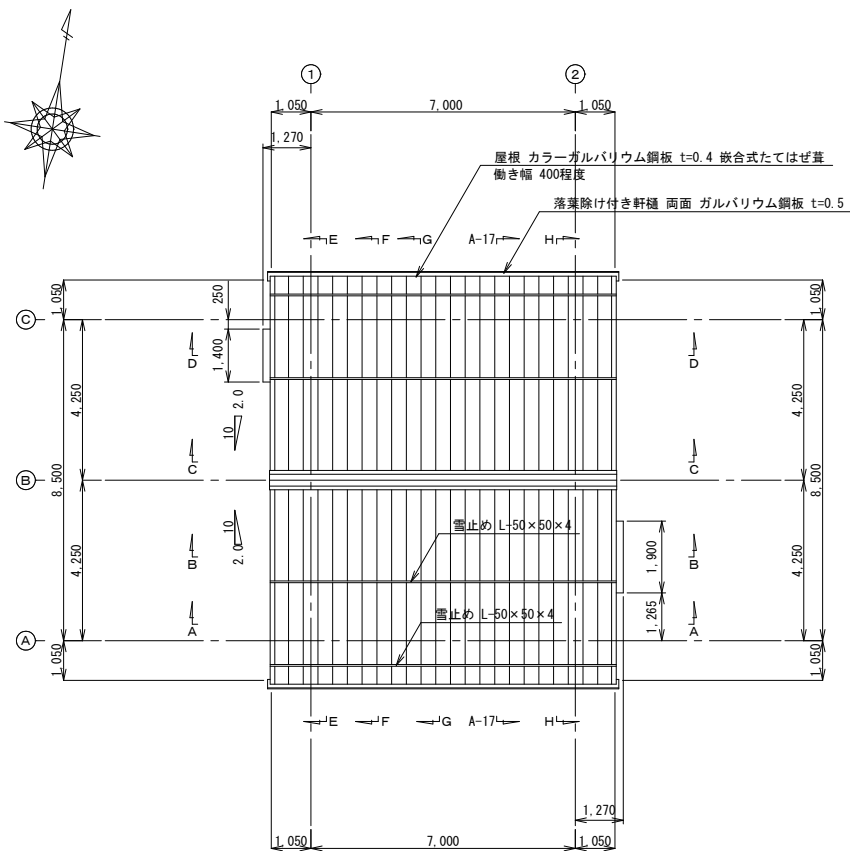
ポンプ室 平面図・屋根伏図 S=1:100

平面図



- 凡 例
1. (○+○○○) 設計 G.L. (835.80) からの床高を示す
 2. [斜線] コンクリート機械基礎
 3. [斜線] 配管ピット
 4. [斜線] 壁開口
 5. ・ 壁礎 φ75

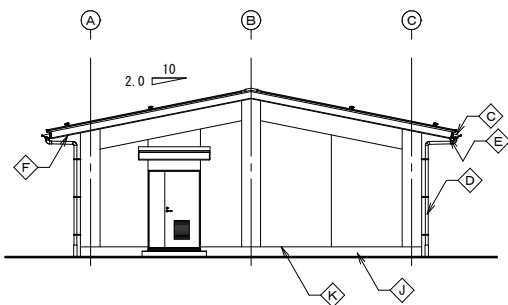
屋根伏図



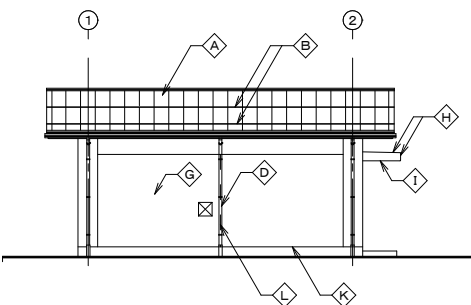
事業名	令和7年度 第4源泉施設建設工事(1期工事)		
図面名称	ポンプ室 平面図・屋根伏図		
縮尺	1:100 (A1)	図面番 号	A-13
事業者	富士河口湖町		

ポンプ室 立面図 S=1:100

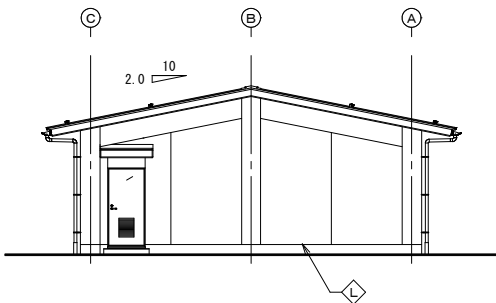
東面



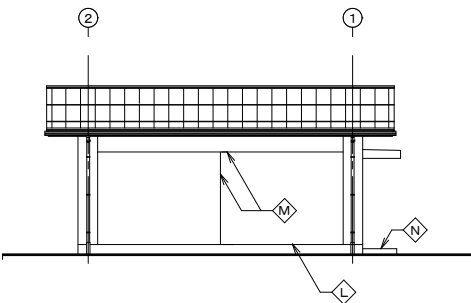
南面



西面



北面

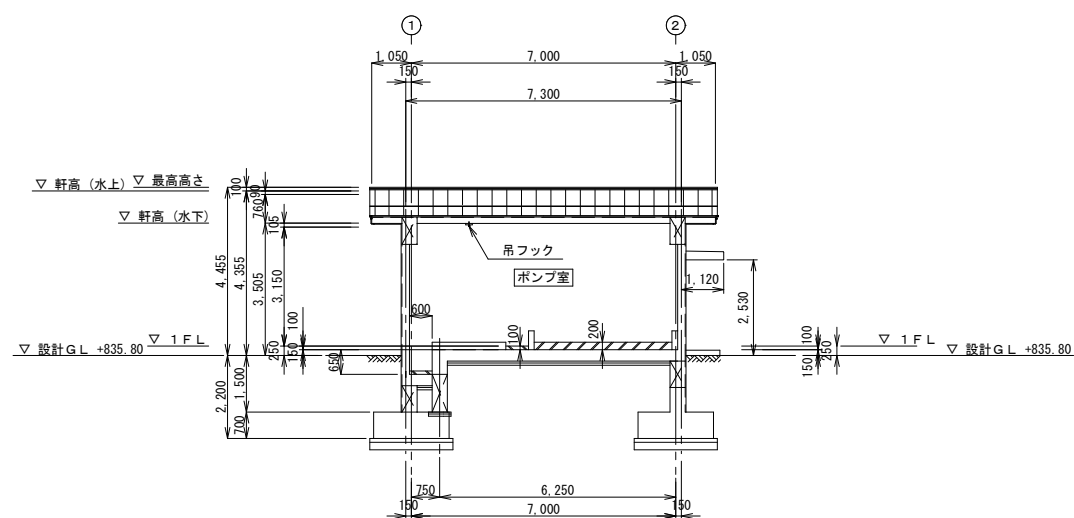


外 部 仕 上 表		
A	屋 根	カラーガルバリウム鋼板t=0.4たてはげ葺(嵌合式) 働き幅400程度 改質アスファルトルーフィングt=2.0 ポリスチレンフォーム保温板t=25金属タルキ@500
B	雪止め	L-50×50×4 2段 溶融亜鉛メッキ 電解着色塗装
C	軒 樋	落葉除け付き軒樋 両面 ガルバリウム鋼板 t=0.5 固定金具 φ450
D	壁 樋	カラーガルバリウム鋼板 φ75 つかみ金物 溶融亜鉛メッキ仕上げ
E	軒 先	コンクリート打放し (B) 複層仕上塗材RE
F	軒 天	コンクリート打放し (B) 複層仕上塗材RE
G	外 壁	コンクリート打放し (B) 複層仕上塗材RE
H	庇(上端・軒先)	コンクリート直均しウレタン系塗膜防水X-2
I	庇(軒天)	コンクリート打放し (B) 複層仕上塗材RE
J	外巾木	コンクリート打放し (B) 薄塗リモルタル (設計GL+250)
K	打継目地 (東、南)	ポリサルファイド系シーリング PS-25×15
L	打継目地 (西、北)	ポリウレタン系シーリング PU-25×15
M	誘発・化粧目地	ポリウレタン系シーリング PU-20×10@3,500以内
N	ポーテ	コンクリート直均し

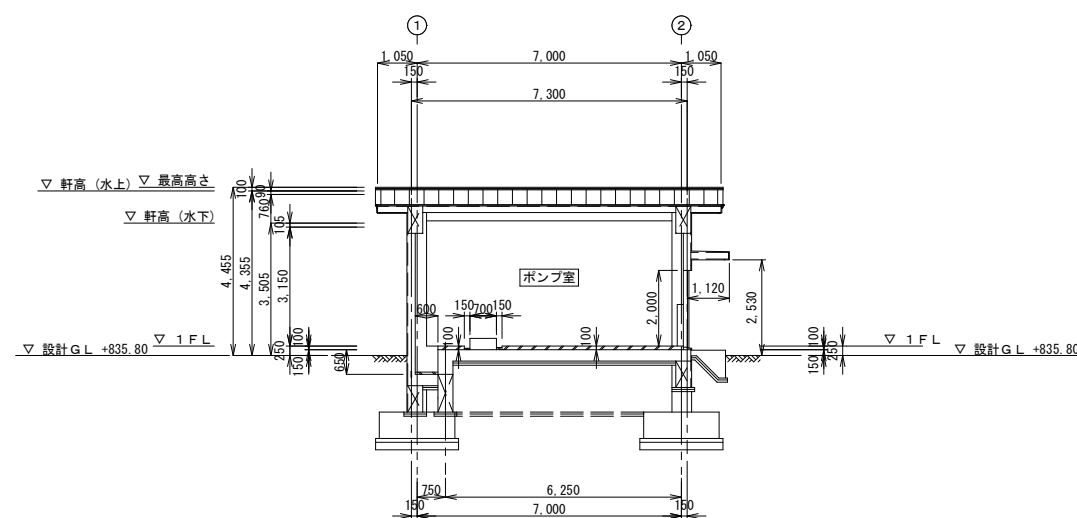
事業名	令和7年度 第4源泉施設建設工事（1期工事）		
図 面 名 称	ポンプ室 立面図		
縮 尺	1:100 (A1)	図 面 番 号	A-14
事業者	富士河口湖町		

ポンプ室 横断面図 (1) S=1:100

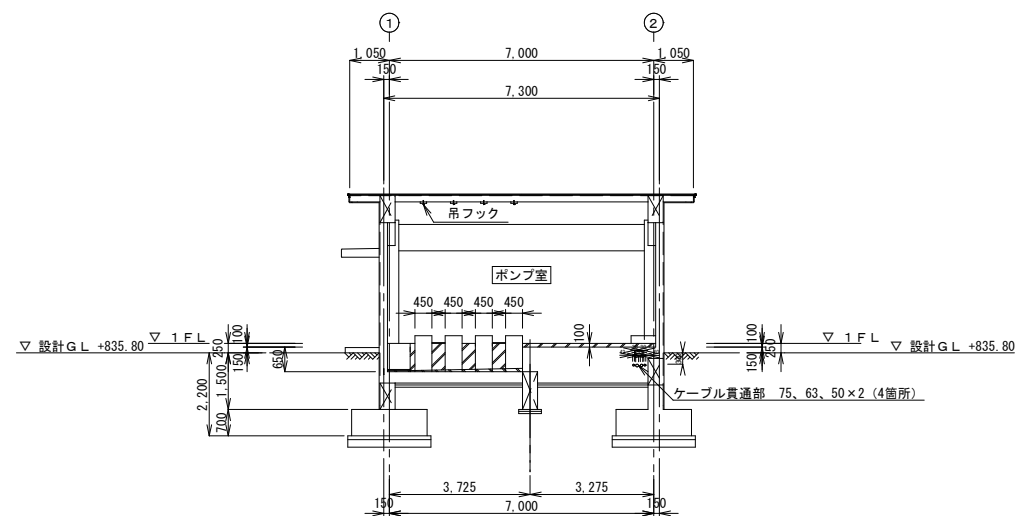
A-A横断面图



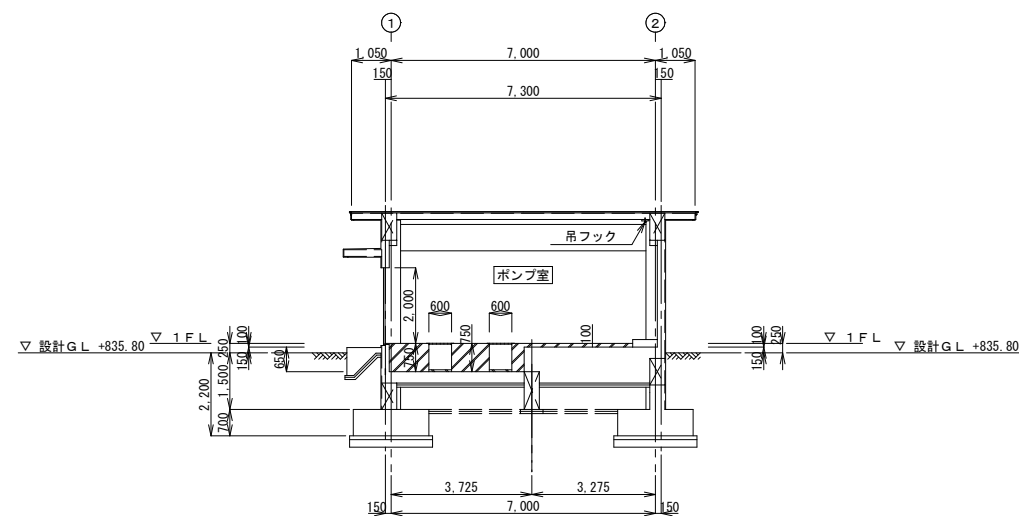
B-B横断面图




C-C横断面图



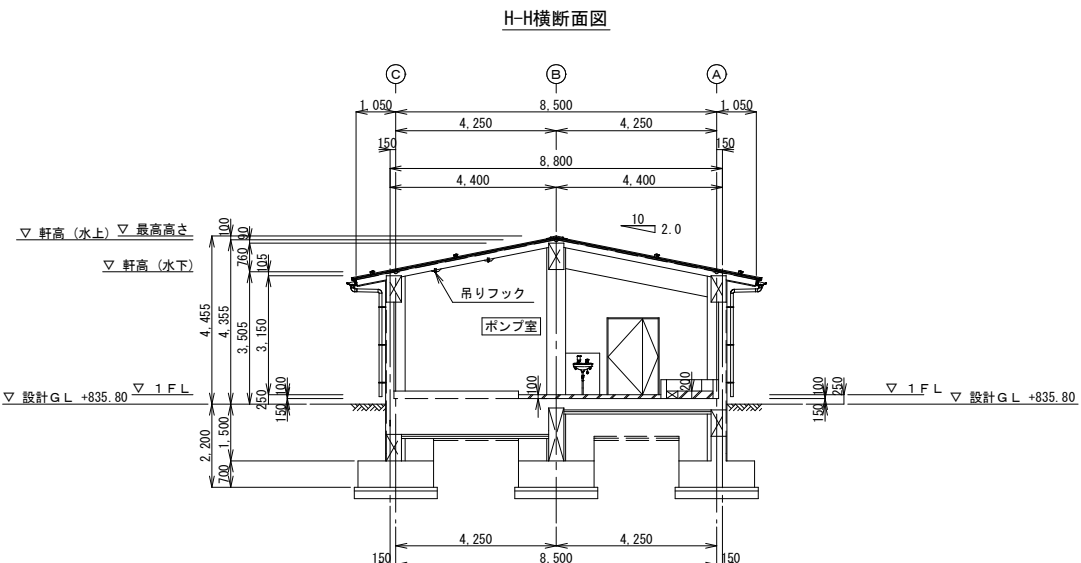
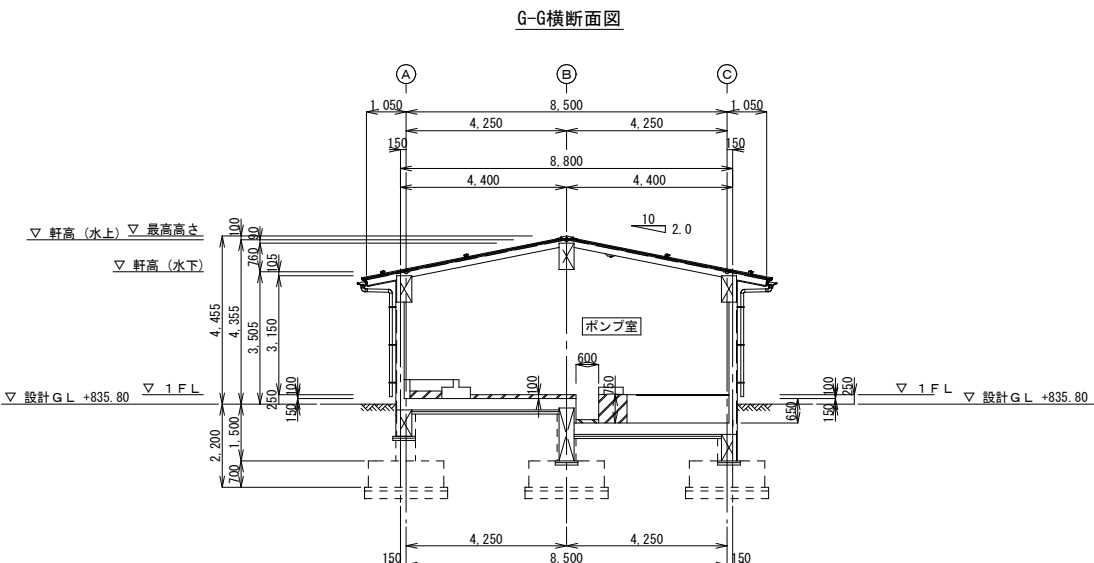
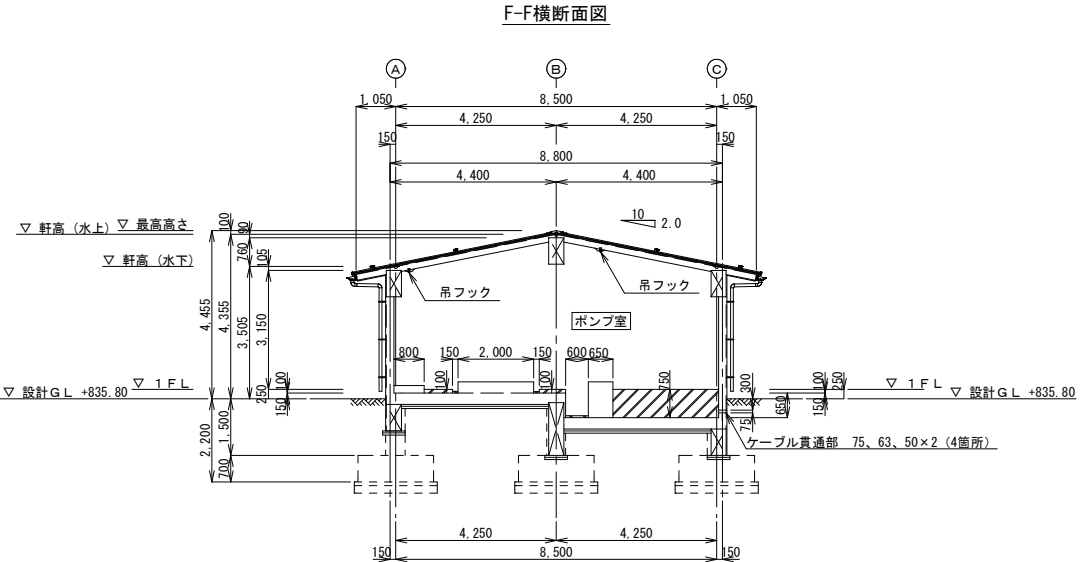
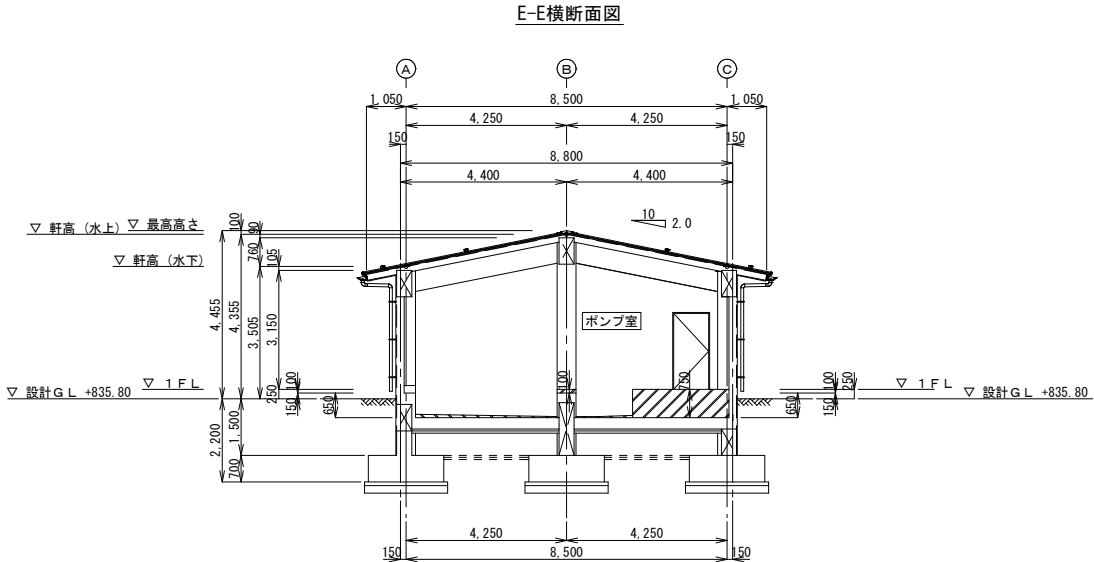
D-D横断面图



- 凡 例 1. 無筋コンクリート 溶接金網 $\phi 6 \times 100 \times 100$
2.  勾配防水モルタル

事業名	令和7年度 第4源泉施設建設工事（1期工事）		
図面名称	ポンプ室 横断面図（1）		
縮尺	1:100（A1）	図面番号	A-15
事業者	富士河口湖町		

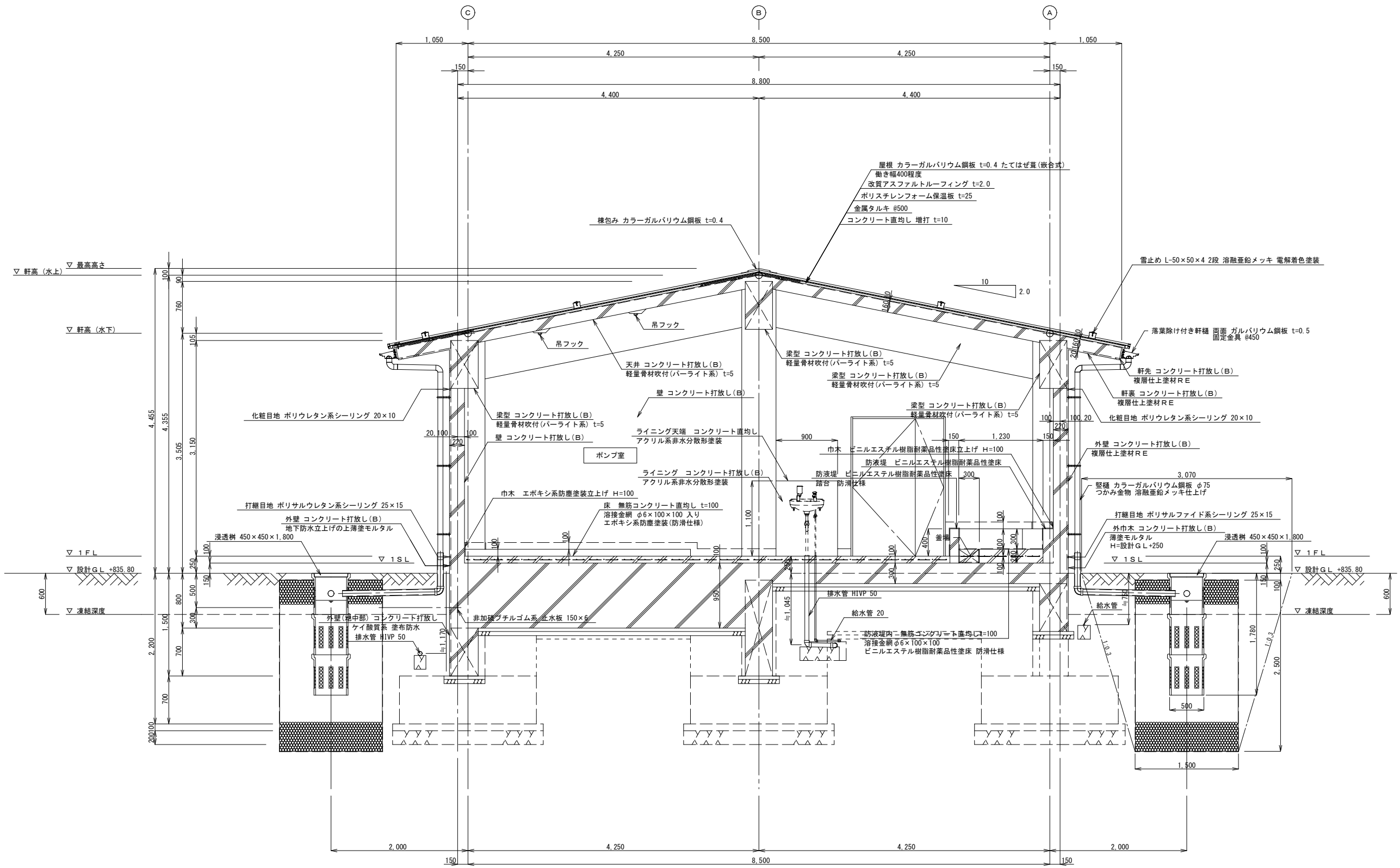
ポンプ室 横断面図 (2) S=1:100



- 凡 例
1. 無筋コンクリート 溶接金網 $\phi 6 \times 100 \times 100$
 2. 勾配防水モルタル

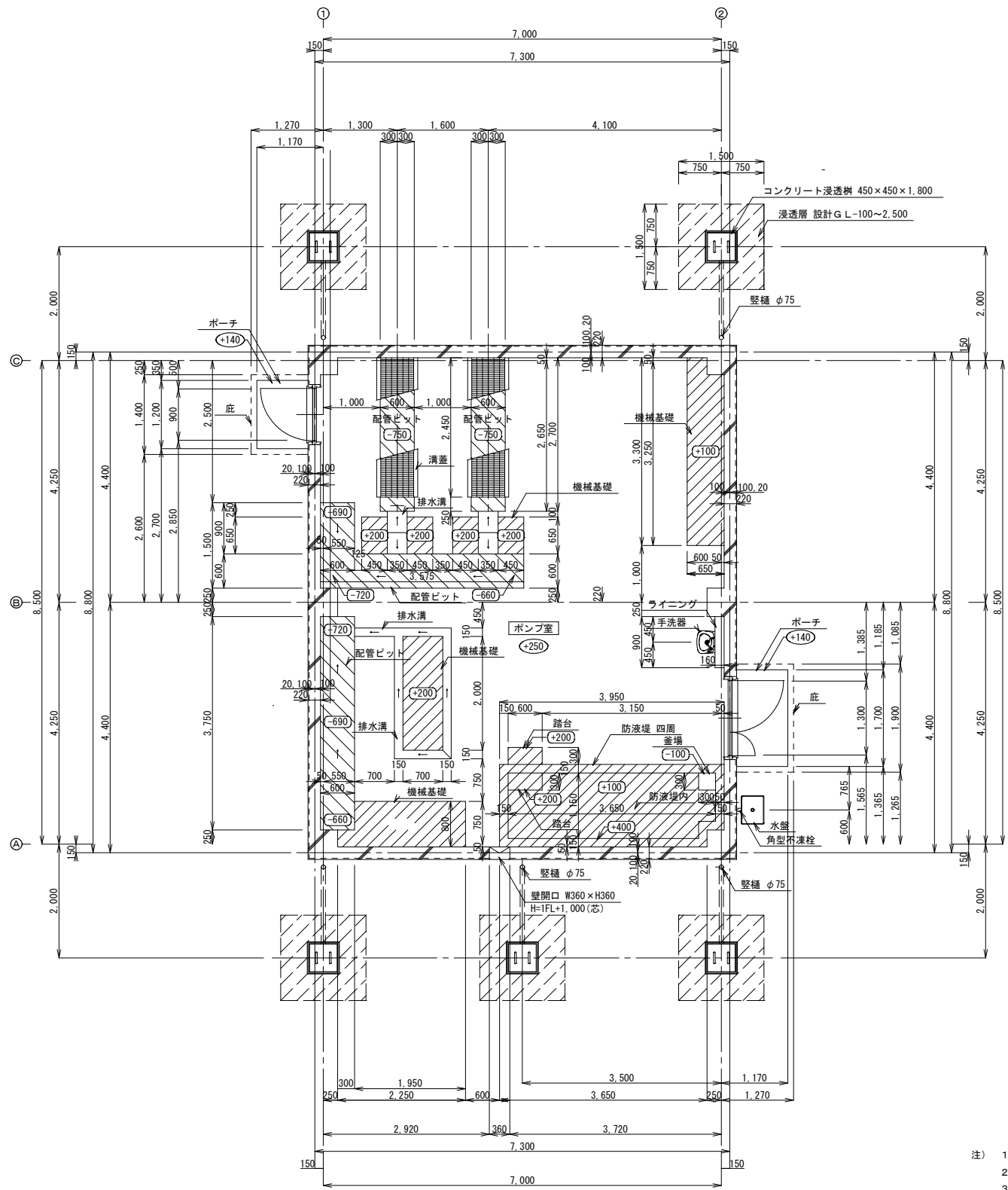
事業名	令和7年度 第4源泉施設建設工事 (1期工事)		
図面名称	ポンプ室 横断面図 (2)		
縮尺	1:100 (A1)	図面番号	A-16
事業者	富士河口湖町		

ポンプ室 矩計図 S=1:30



事業名	令和7年度 第4源泉施設建設工事(1期工事)		
図面名称	ポンプ室 矩計図		
縮尺	1:30 (A1)	図面番号	A-17
事業者	富士河口湖町		

ポンプ室 平面詳細図 S=1:50



- 注) 1. 図記開口部 (スリーブ・箱抜き) は本工事とする
2. 手洗器の給排水設備は本工事とする
3. 角型不凍栓および水盤の給排水設備は本工事とする
4. 換気設備 (有圧換気扇) は本工事とする

- 凡 例
1. ± 0.00 設計 G.L. (835.80) からの床高を示す
 2. ± 0.00 F.L. (設計 G.L.+250) からの天端を示す
 3. コンクリート機器基礎
 4. 配管ビット
 5. 壁開口
 6. 換気設備 (有圧換気扇)

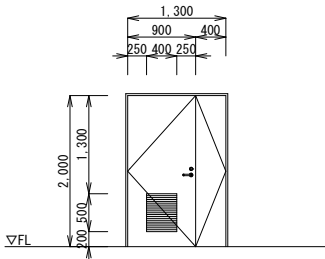
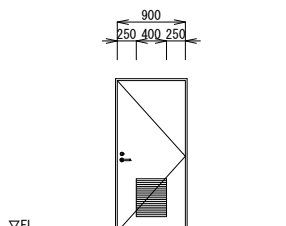
事業名	令和7年度 第4源泉施設建設工事 (1期工事)		
図面名称	ポンプ室 平面詳細図		
縮尺	1:50 (A1)	図面番 号	A-18
事業者	富士河口湖町		

ポンプ室 キープラン・建具表・建具廻り詳細図

建具表 S=1:50

※シリンダー本締錠は特記無き限りサムターン付とする。
※建具金物は全てSUS304とする。
※防火設備大臣認定品の番号は各メーカーにより違うので参考とする。

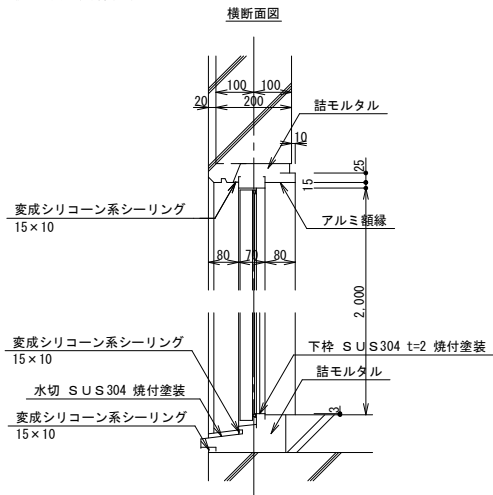
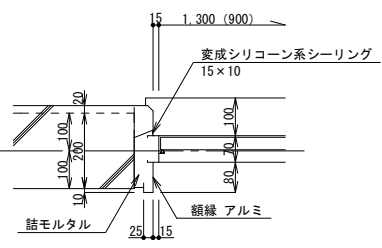
※他施設との共通キーを作成のこと。（監督職員との協議による）

符号・名称・個数				①		アルミ製親子開きフラッシュ戸		1か所		②		アルミ製片開きフラッシュ戸		1か所	
場 所				ポンプ室						ポンプ室					
仕上（枠共）				アルミ（カラー）						アルミ（カラー）					
建具	見込（ランマ）			—						—					
	硝子（ランマ）			—						—					
	ガラリ（額）記号			—						—					
枠見込	障子見込	番 指		—		70		SUS304（焼付塗装）		—		70		SUS304（焼付塗装）	
枠記号 番指（水切）記号				—						—					
建具金物				シリンダー本締り錠、レバーハンドル、上げ落とし、丁番、DC（ストッパー付） ステンレス水切り（上下）、開閉式給気ガラリ、その他付属金物一式						シリンダー本締り錠、レバーハンドル、丁番、DC（ストッパー付） ステンレス水切り（上下）、開閉式給気ガラリ、その他付属金物一式					
その他				サッシ内部 グラスウール充填						サッシ内部 グラスウール充填					
形状寸法															

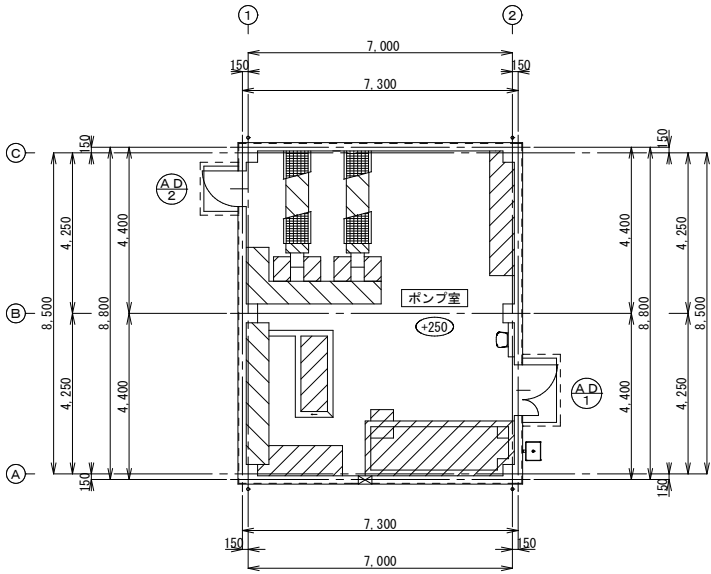
※必要換気量（m3/h）＝毎時必要回数（回/h）×部屋の容積（m3）
＝4×(((4.12×3.26)÷2×4.3×2)×7.1+(0.5×0.75×14))
ポンプ棟容積 配管ピット容積
＝4×230.56
＝922.24（m3/h）

注1) 換気回数目安：機械室＝4～6（回/h）

建具枠廻り詳細図 S=1:10

A D－1 アルミ製親子開きフラッシュ戸、A D－2 アルミ製片開きフラッシュ戸
※ ① 内寸法は、片開き戸

横断面図

平面図

建具キープラン S=1:100



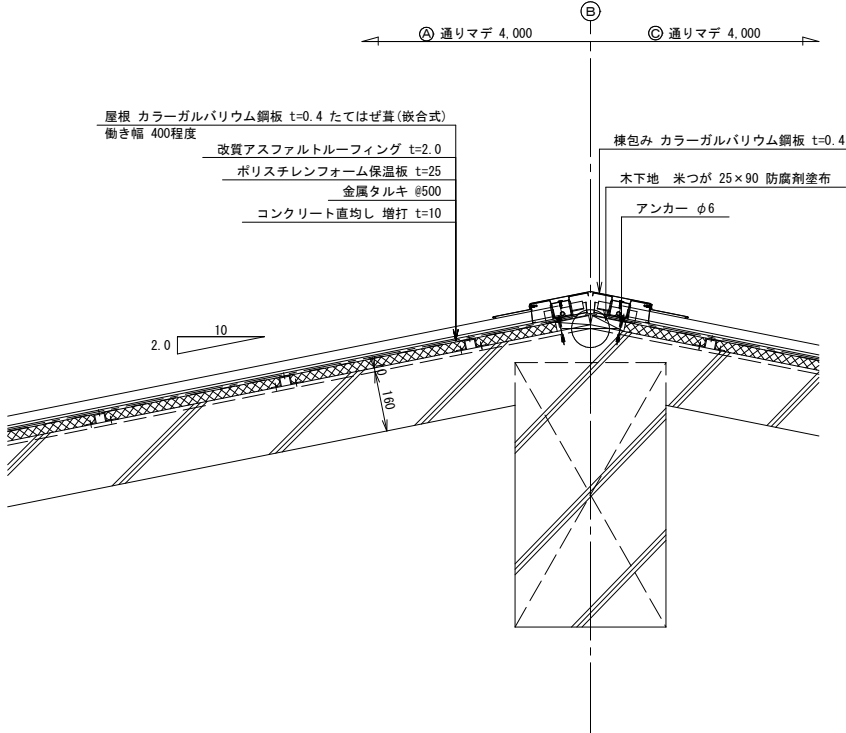
共通事項	1. 特記なき限り外部はシリンダ箱錠（内部サムターン）とし内部は本締り付きモノロックとする。 但し、押板、押棒の場合は、シリンダ本締り錠とする。	8. 特記なき限り内部建具ガラリはI型とする。	建	種 別	戸	窓	ガラリ	オートハットドア	紙障子	トイレ	シャッター	網戸	三方枠
	2. バイブスペース、ダクトスペースの点検扉の鍵はシリンダ本締り錠（特記なき限り同一キー）とする。（内部サムターン付）	9. 特記なき限り鋼製戸の見込みは4 0mmとする。	具	アルミニウム製	A D	AW	A G	A O D			A S	a W	
	3. 便所等の施錠を必要としない箇所は空錠とし、押板、押棒の場合は錠不要とする。	10. 防火戸の位置は建具配置図による。	略	鋼 製	S D	SW	S G	S O D			S S		
	4. A H、F Hを除きD Cの有無にかかわらず出入口には戸当り、あおり止め（防火戸を除く）をつける。 壁仕上げボード類等の場合は床付とする。（但し、通行に支障のあるものは除く。）	11. 特記なき限り気密扉・簡易気密扉の吸音材の充填は行わないものとする。	号	鋼 製 軽 量	L D						L S		
	5. 特記なき限り外部に面するガラリは防鳥網付きとする。	12. 階段室の施錠を必要としない箇所は空錠とする。	ガ	ステンレス製	S S D	S S W	S S G				S S		S N
ラ	6. アルミニウム製窓の締り金物、排煙口操作レバーの位置は床から1, 5 0 0以内とする。	13. 特記なき限り面開きの防火戸は順位調整器付とする。	ス	木 製	W D	W W	W G		P	T B			
	7. 大型、気密鋼製建具はシリンダ本締り錠付きとする。	14. 特記なき限り扉の取手はレバーハンドルとする。	略	F 型板ガラス				金 D C	ドアクローザー				
		15. A T-2、A T-4の補強材は、アングル（L-50×50×6）の通し物とする。	号	P フロート板ガラス				物 A H	オートヒンジ				
			略	N 網入型板ガラス				略 F H	フロアヒンジ				
			号	N P 網入みがき板				号 P H	ガラスビボットヒンジ				

事業名	令和7年度 第4源泉施設建設工事（1期工事）		
図面名称	ポンプ室 キープラン・建具表・建具廻り詳細図		
縮 尺	1:10、50、100	図面番号	A-19
事業者	富士河口湖町		

ポンプ室 各部詳細図 (1)

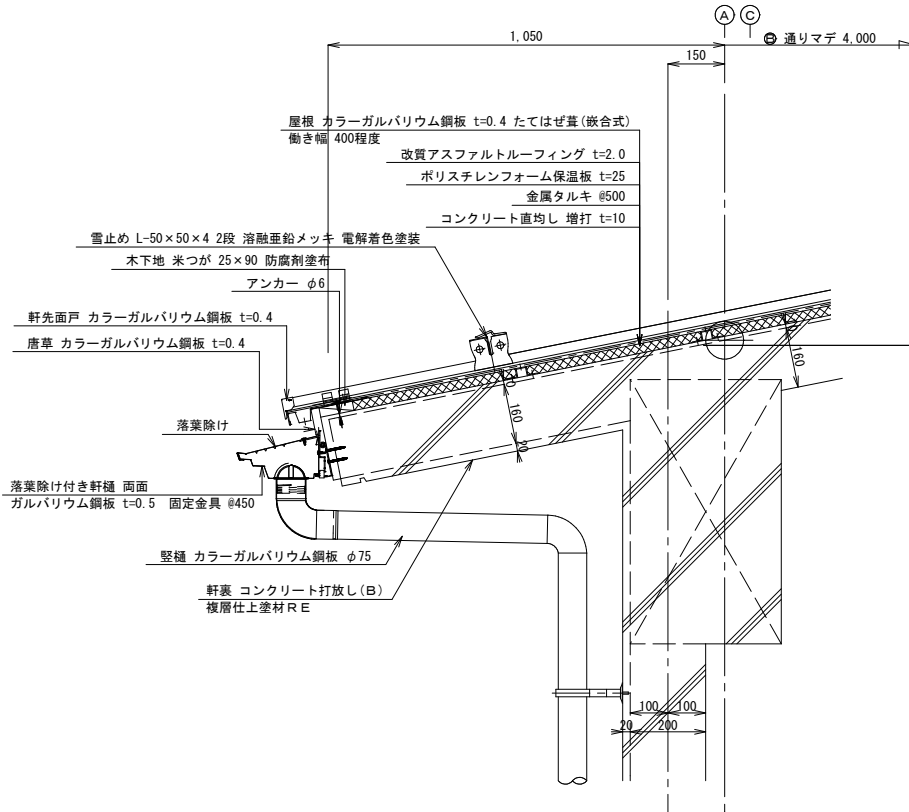
棟 (水上) $S=1:10$

※本図は参考とし、詳細はメーカー仕様による
※支持金物等のサイズ、間隔については耐風圧計算によること



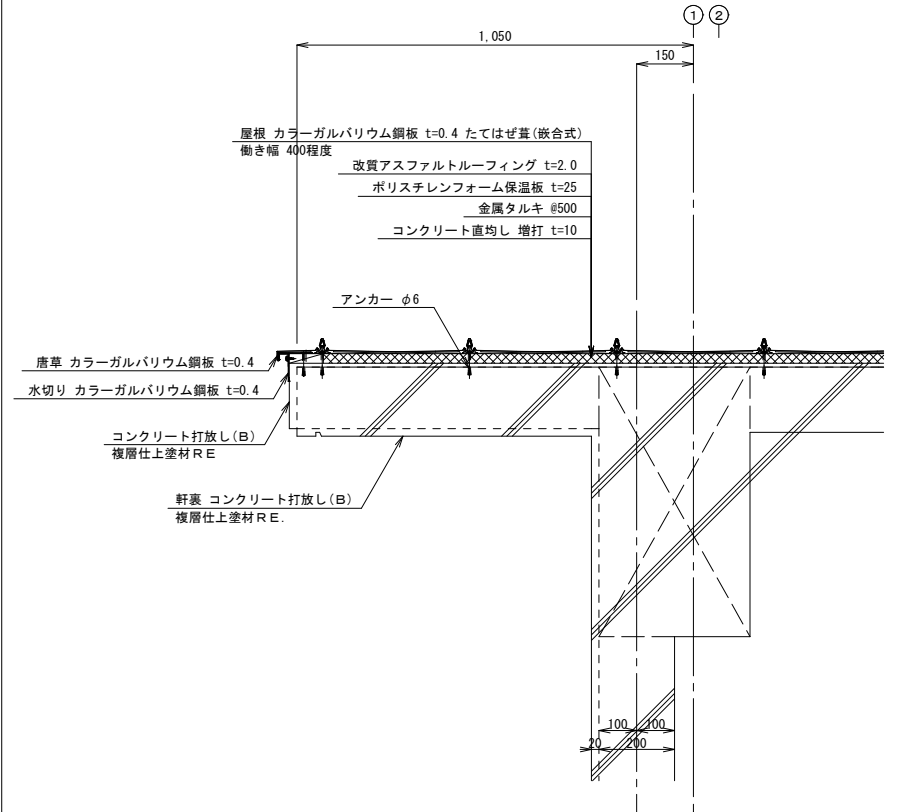
軒先（水下） $S=1:10$

※本図は参考とし、詳細はメーカー仕様による
※支持金物等のサイズ、間隔については耐風圧計算によること

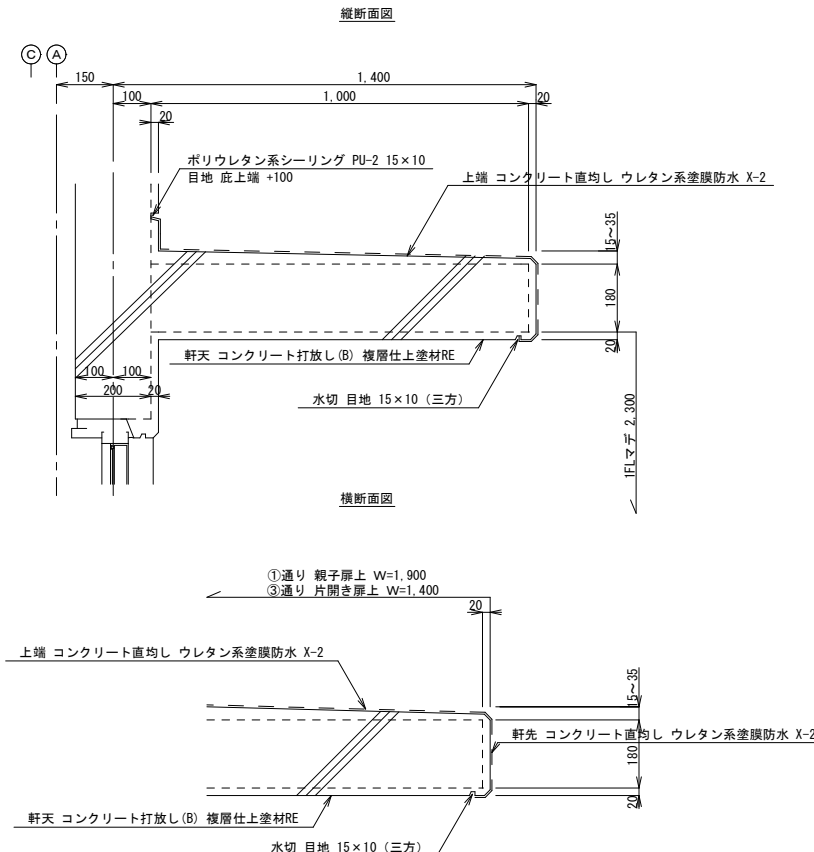


ければ $S=1:10$

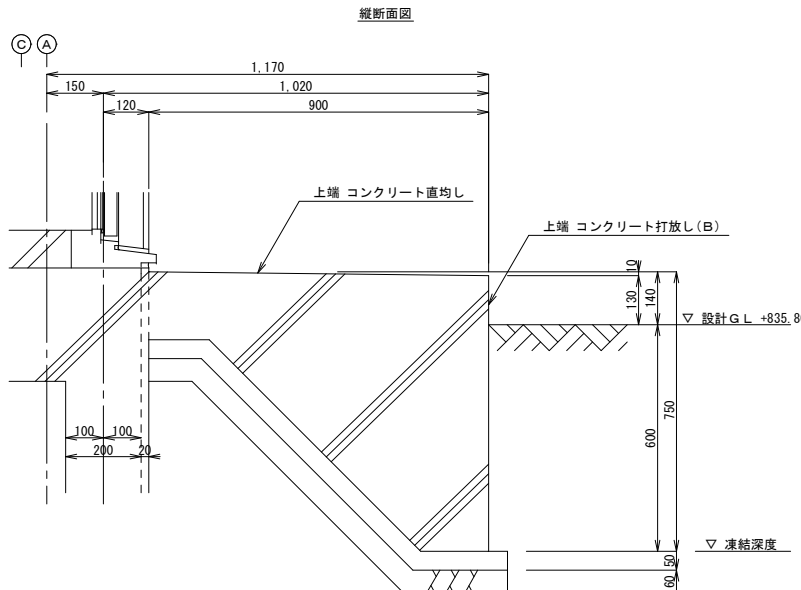
※本図は参考とし、詳細はメーカー仕様による
※支持金物等のサイズ、間隔については耐風圧計算によること



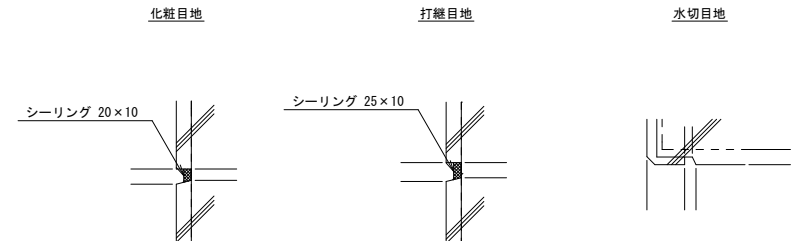
底 $S=1:10$



ポーチ $S=1:10$

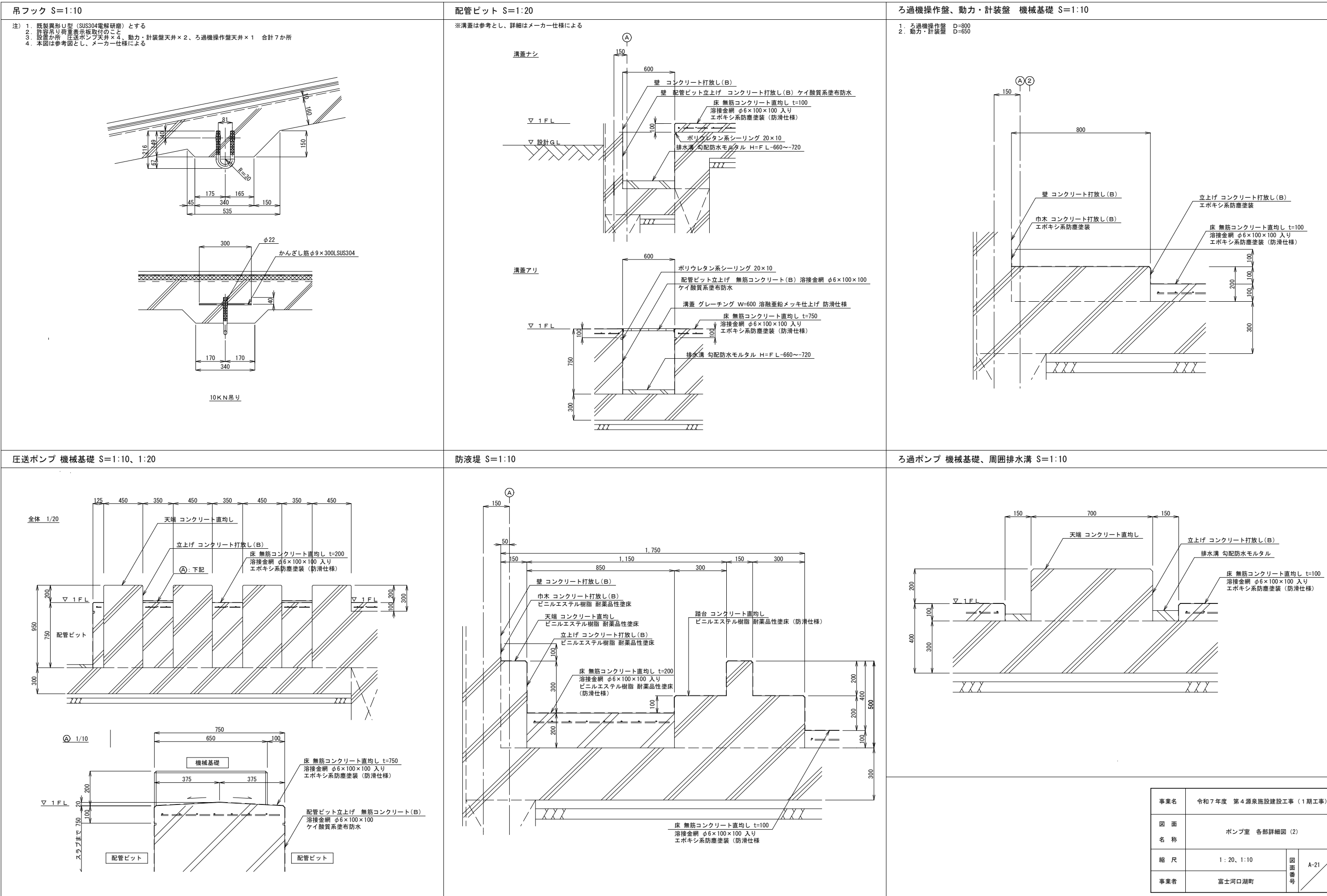
目地 $S=1:5$

注) 1. シーリング種別は、表面仕上により区別する
仕上なし ポリサルファイド系シーリング
仕上あり ポリウレタン系シーリング



事業名	令和7年度 第4源泉施設建設工事（1期工事）		
図面名称	ポンプ室 各部詳細図（1）		
縮尺	1：10、1：5	図面番号	A-20
事業者	富士河口湖町		

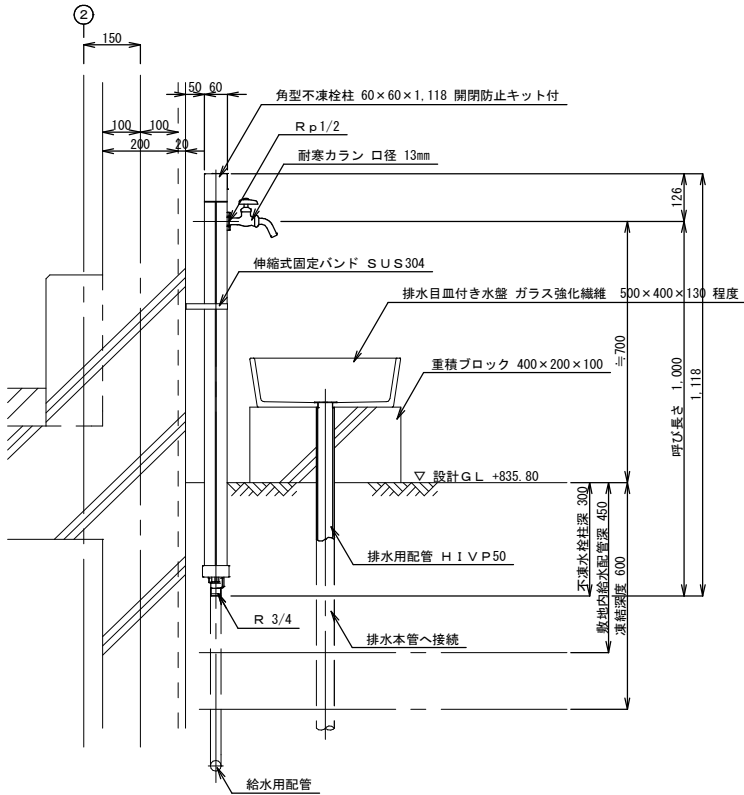
ポンプ室 各部詳細図（２）



ポンプ室 各部詳細図（3）

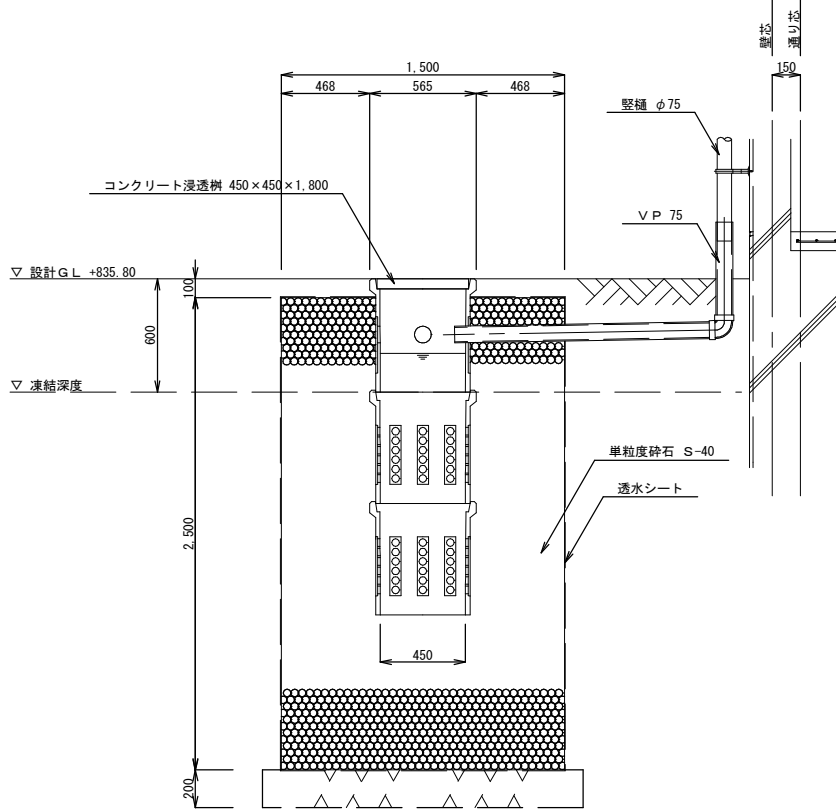
外水道 S=1:10

※本図は参考とし、詳細はメーカー仕様による



浸透井 S=1:20

※本図は参考とし、詳細はメーカー仕様による
※北側2か所、南側3か所設置

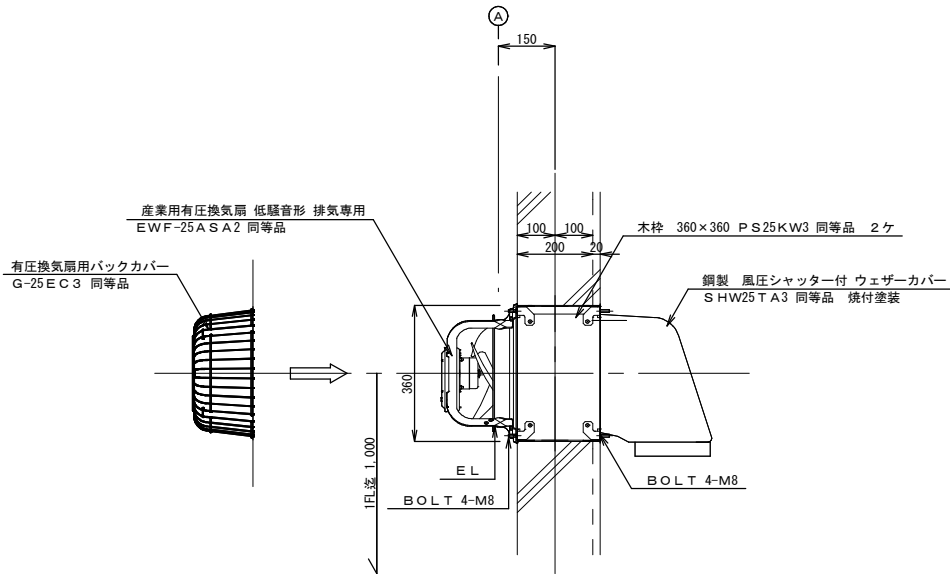


手洗器、ライニング S=1:20



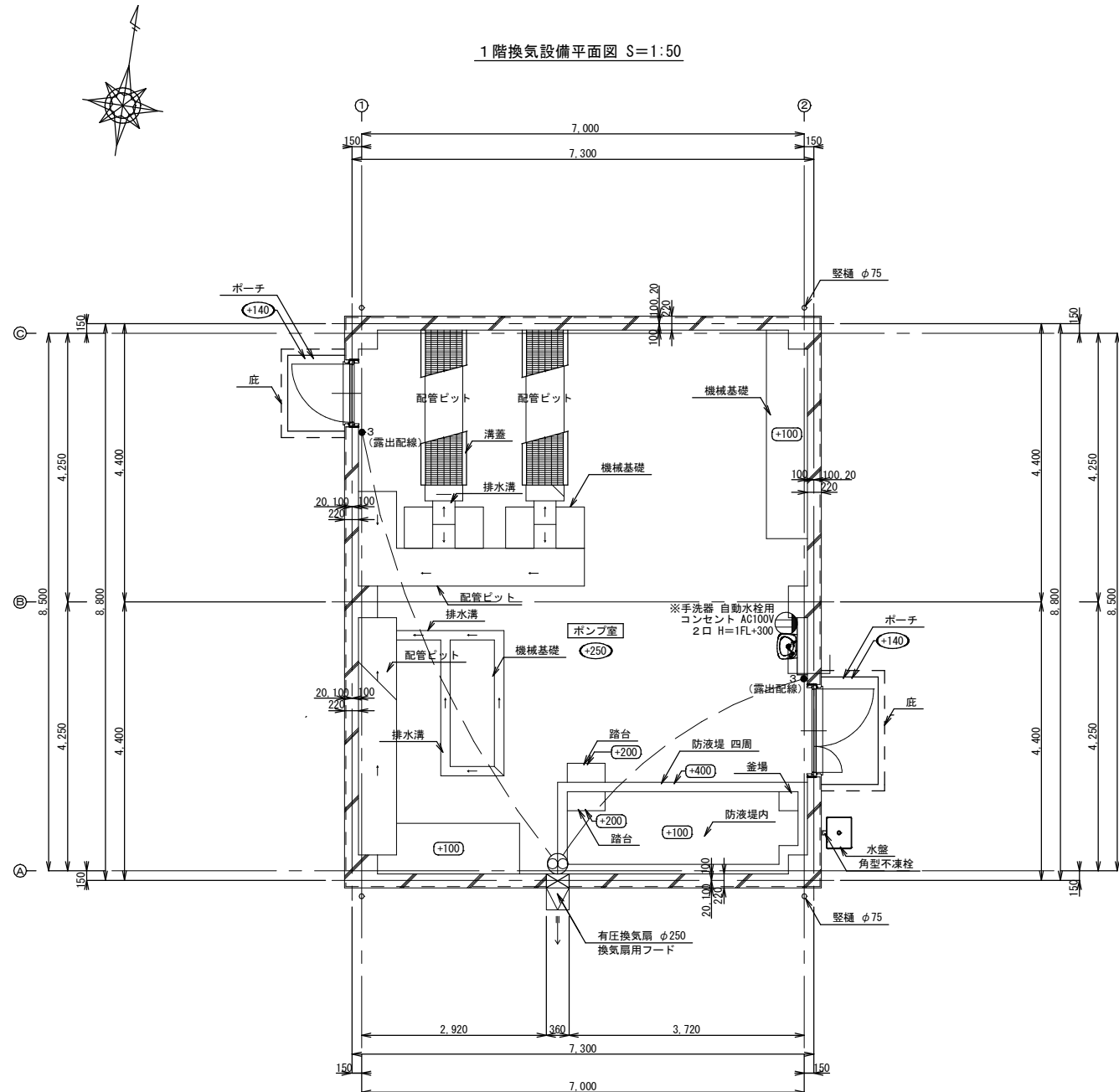
有圧換気扇 S=1:10

※本図は参考とし、詳細はメーカー仕様による

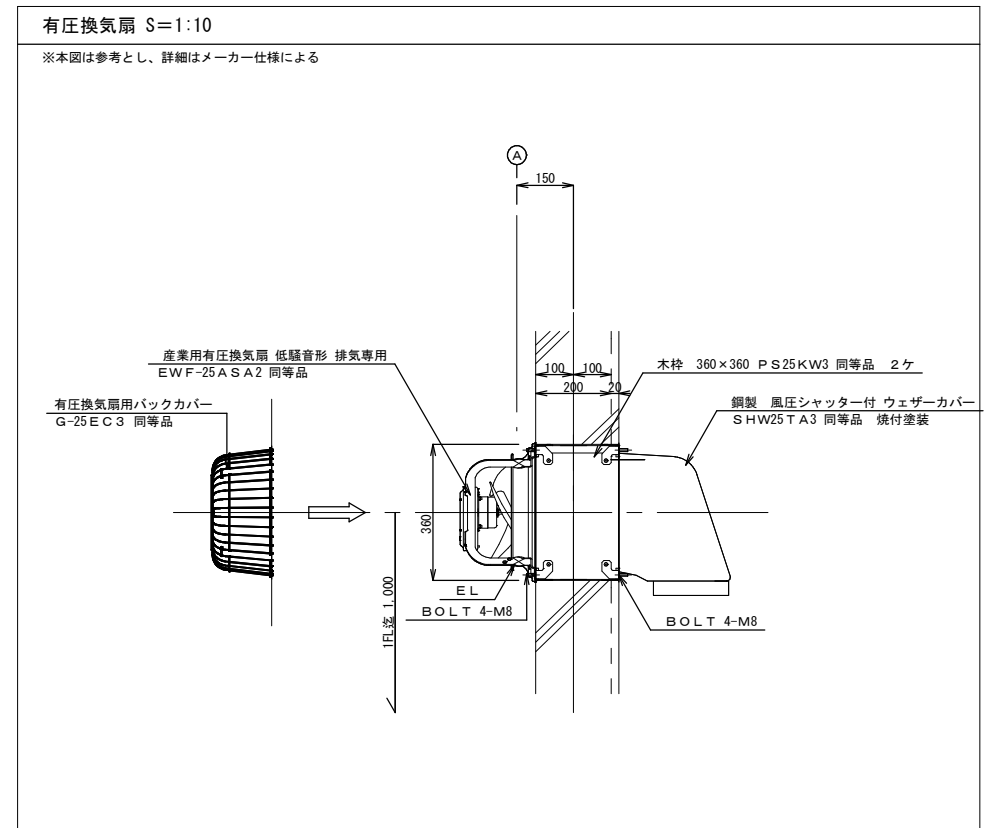


事業名	令和7年度 第4源泉施設建設工事（1期工事）		
図面名称	ポンプ室 各部詳細図（3）		
縮尺	1:10, 20	図面番号	A-22
事業者	富士河口湖町		

ポンプ室 1階換気設備平面図、換気扇詳細図



換気扇詳細図



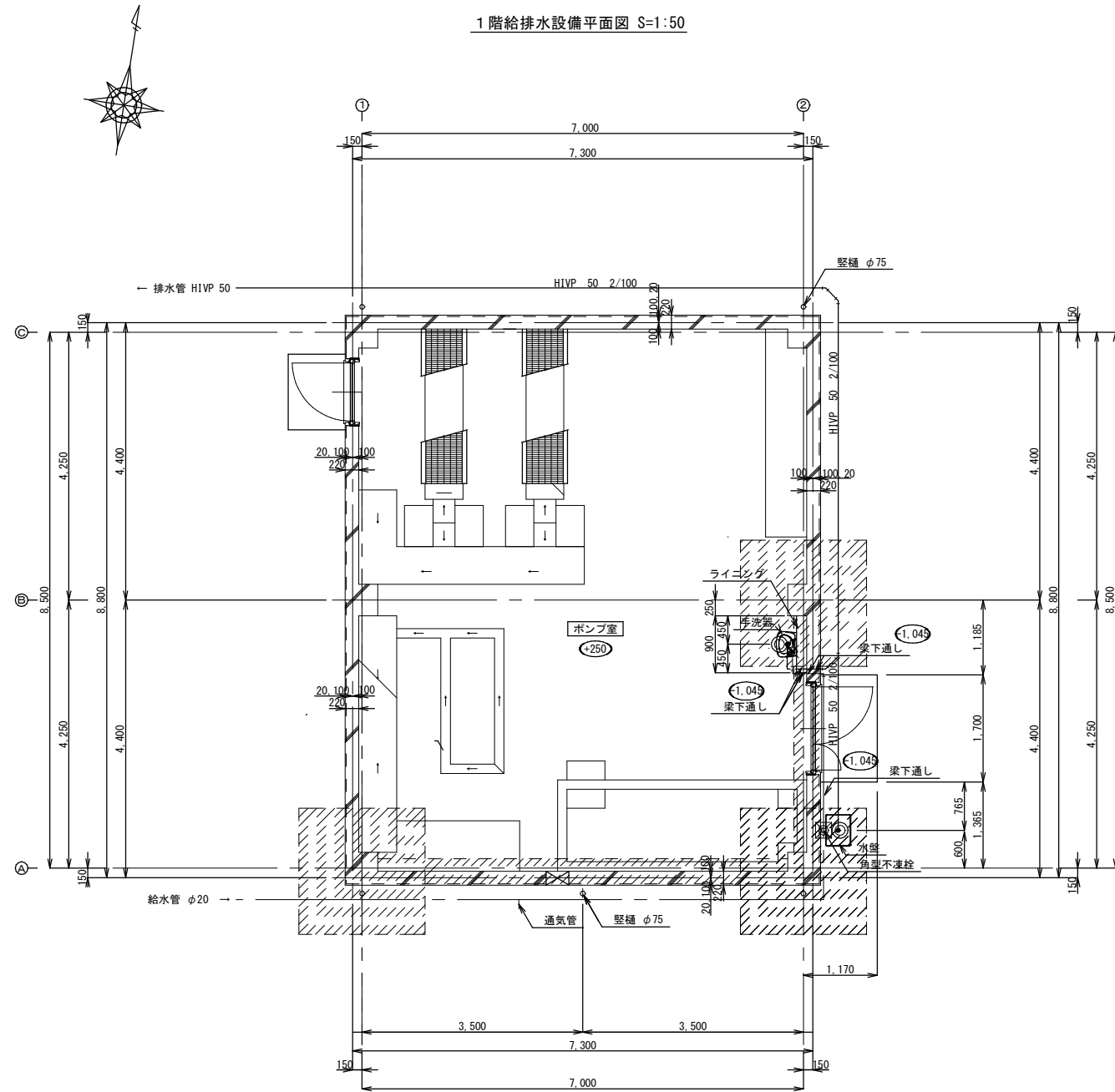
- 凡 例
1. ±100 設計 G.L. (835.80) からの床高を示す
 2. ±1000 F.L. (設計 G.L.+250) からの天端を示す
 3. 壁開口
 4. 有圧換気扇
 5. ●3 3路スイッチ
 6. 手洗器 自動水栓用コンセント AC100V H=1FL+300 2口

換気設備 機器リスト

1. 有圧換気扇 産業用 低騒音形 排気専用 EWF-25ASA2 同等品
2. 木枠 360×360 PS25KW3 同等品 2ヶ
3. ウェザーカバー 銅製 風圧シャッター付 SHW25TA3 同等品 焼付塗装
4. バックガード 有圧換気扇用 G-25EC3 同等品

事業名	令和7年度 第4源泉施設建設工事(1期工事)		
図面名称	ポンプ室 換気設備平面図、換気扇詳細図		
縮尺	1:10, 50	図面番号	AM-01
事業者	富士河口湖町		

ポンプ室 1階給排水設備平面図、各部詳細図



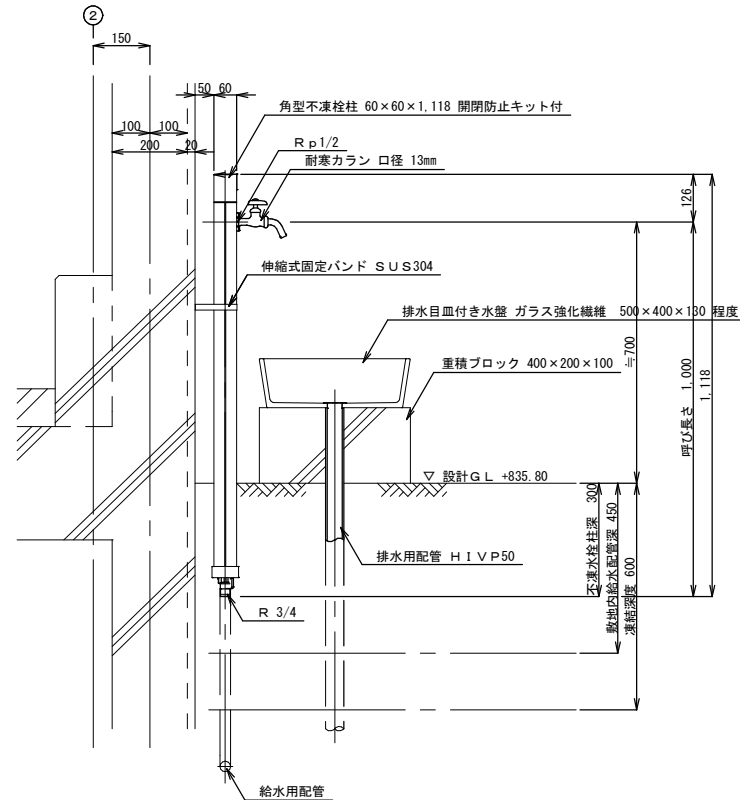
- 注) 1. 排水管レベル建築設計図に記載あり (参考)
2. 凍結深度 設計G.L.-600
3. 排水管接続合流所 屈曲45°

- 凡 例
- 設計G.L. (835.80) からの床高を示す
 - コンクリート基礎、基礎梁
 - 給水栓
 - 屋外給水栓 (立水栓)
 - 排水口
 - 給水管 20
 - 排水管 HIVP 50 2/100
 - 管接続部

各部詳細図

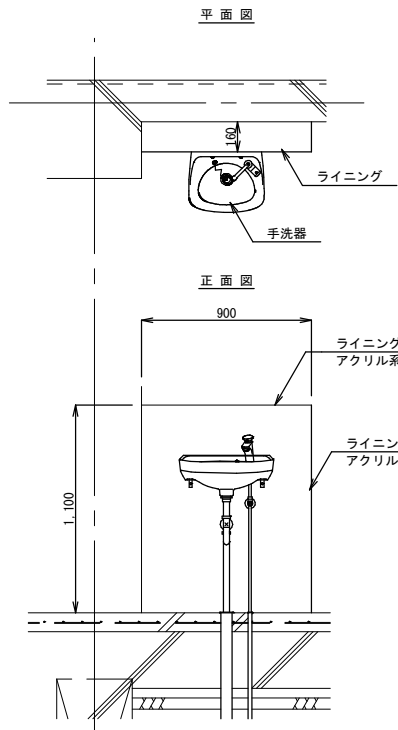
外水道 S=1:10

※本図は参考とし、詳細はメーカー仕様による



手洗器、ライニング S=1:20

※本図は参考とし、詳細はメーカー仕様による



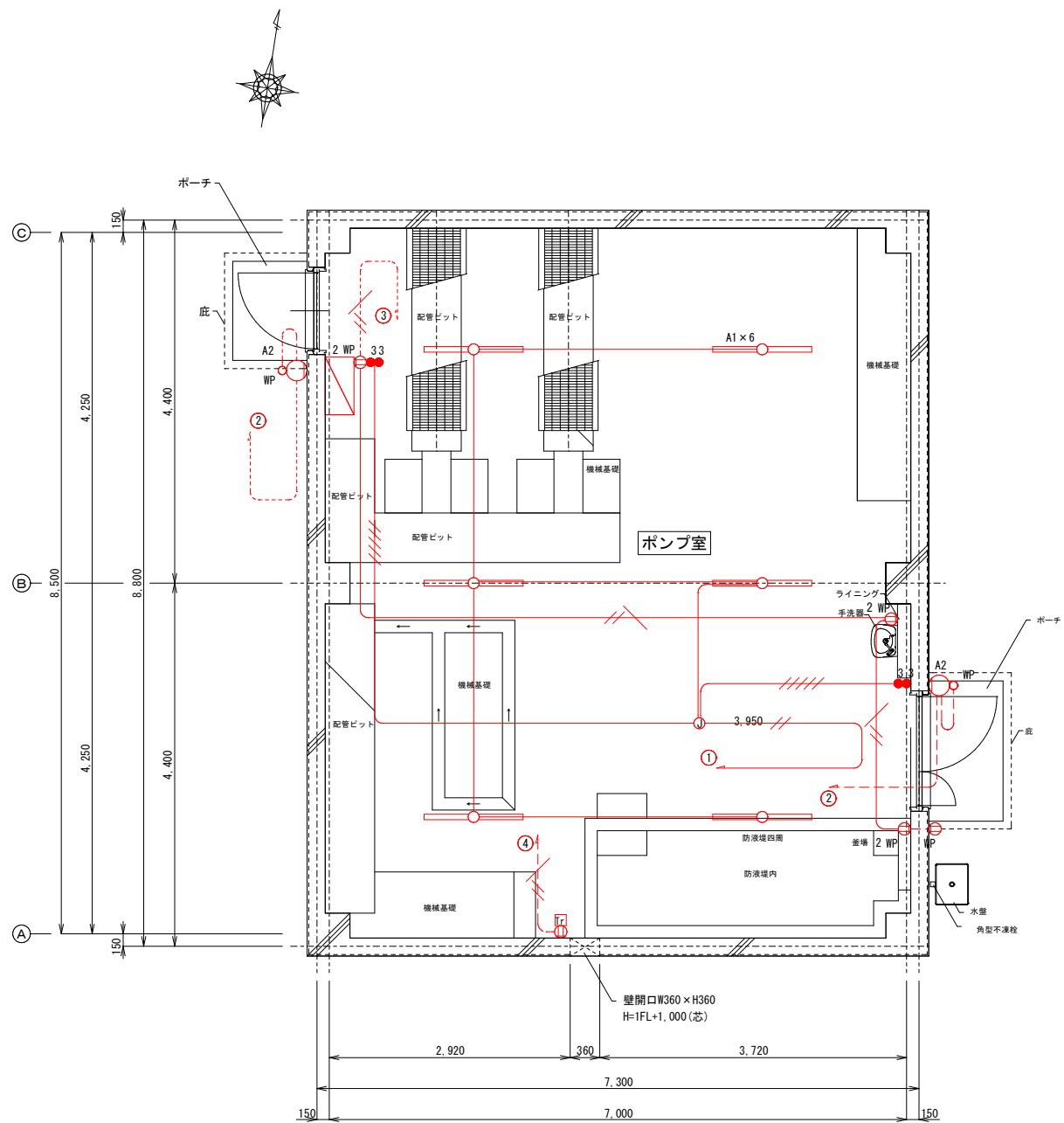
機器リスト (メーカー同等品とする)

項目	品番	メーカー
1. 壁掛洗面器	L210C #NW1	TOTO
2. 台付自動水栓	TLE28S1A	TOTO
3. 取付金具	TL250D	TOTO
4. 床給水金具	T6BR	TOTO
4. 床排水金具	TLDS2105JA	TOTO

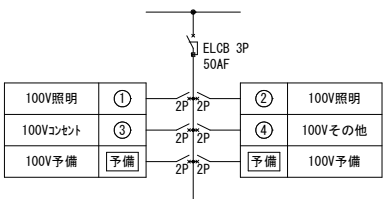
事業名	令和7年度 第4源泉施設建設工事 (1期工事)		
図面名称	ポンプ室 給排水設備平面図、各部詳細図		
縮尺	1:10、20、50	図面番号	AM-02
事業者	富士河口湖町		

ポンプ室 電気設備図

A1:S=1:40
A3:S=1:80



電灯分電盤 結線図



凡 例

記 号	名 称	備 考
	電灯分電盤	
	LEDHf32W x 2灯相当	
	ブラケットライト	
	有圧換気扇 φ250	
	露出タンブラスイッチ 3W15A x 1 (防水)	H=1300
	露出タンブラスイッチ 1P15A x 1 (防水)	H=1300
	露出コンセント 2P15A x 2 (防水)	H=600
	露出コンセント 2P15A x 1 (防水)	H=600
	露出コンセント 2P15A x 1 (サーモ付)	
特 記		
	図中明記なき配管配線は下記とする。	
	隠ぺい配線	
	露出配線	

照明器具

A1	LSS1MP/RP-4-46	注1、電灯回路は1E1.6φとする。
A2	LGC47024相当	注2、コンセント回路は1E2.0φとする。 注3、露出部の電線管はHIVE22とする。

凡 例

- 換気設備 (有圧換気扇) ※別途工事
- 壁開口
- 設計 G L (835.80) からの床高を示す
- F L (設計 G L +250) からの天端を示す

事業名	令和7年度 第4源泉施設建設工事 (1期工事)		
図 面 名 称	ポンプ室 電気設備図		
縮 尺	1:40	図 面 番 号	AE-01
事業者	富士河口湖町		

特記仕様(構造関係)

I 建物構造概要等

建物概要				
主要用途	ポンプ棟		延べ面積	64.24 m ²
階 数	地上 1 階	地下 階	塔屋 階	
建物高さ	4.46 m		軒高	4.36 m
工事種別	○ 新築 ・ 増築 ・ 改築 ・ 移転			
増築計画	○ 有り ・ 無し			
構造種別	地上 R C 造		地下 造	
架構形式	X 方向	耐震壁付ラーメン 構造		
	Y 方向	耐震壁付ラーメン 構造		
耐震構造方式	○ 耐震構造 ・ 免震構造 ・ 制振構造			
耐震安全性の分類	・ I 類 (I=1.50) ○ II 類 (I=1.25) ・ III 類 (I=1.00)			

2. 構造計算条件				
a 耐震設計条件				
地震荷重	建物一次固有周期		(0.069) 秒	
	地盤種別		第 (1) 種地盤	
	地域係数		Z = 1.0	
計算ルート	X 方向		※ 許容応力度計算 (ルート 1)	
			・ その他	
	Y 方向		※ 許容応力度計算 (ルート 1)	
		・ その他		
		・		
設計層間変形角	X 方向	一次設計	1/9999	
		二次設計	――	
	Y 方向	一次設計	1/9999	
		二次設計	――	

b 耐風設計条件				
基準風速 (V0)		30 m/秒		
地表面粗度区分		・ I ・ II ※ III ・ IV		

c 耐積雪設計条件				
建設地の標高		(835.8) m		
多雪区域の指定		・ 有り ○ 無し		
設計垂直積雪量		(80) cm		

II 建築工事仕様(構造関係)

1. 共通仕様
- 図面及び特記仕様に記載されていない事項は、すべて国土交通省大臣官房官庁営繕部制定の「公共建築工事標準仕様書・同指針（建築工事編）（最新版）」（以下、「標仕」という）による。
2. 特記仕様
- (1) 項目は、番号に ○印の付いたものを適用する。
- (2) 特記事項は、○ 印の付いたものを適用する。
- 印の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。
- 印と ⊗ 印の付いた場合は、共に適用する。
- (3) 特記事項に記載の () 内表示番号は、標仕の当該項目、当該図又は当該表を示す。
- (4) ⊕ 印は「国等による環境物品等の調達等に関する法律」（以下「グリーン購入法」という。）の特定調達品目を示す。なお、特定調達品目か否かの判断基準は監督職員との協議による。

適用範囲

特記仕様(構造関係)の適用範囲は下記の工事種目とする。
※ 特記仕様書(Ⅰ) 仕様書 Ⅰ工事概要 Ⅱ工事種目に掲げる下記の工事種目番号(番号○～番号○までの工事種目)

④ 地業工事

1 試験及び報告書	・杭基礎 (4.2.1) (4.2.2) (4.3.4) (4.3.5) (4.5.5) (4.5.6) 支持地盤の位置及び土質（基礎ぐいの先端位置含む） ・ 図示による (S-09) 試験杭の位置 ・ 図示による (S-10) ○ 直接基礎 (4.2.1) 支持地盤の位置及び土質（基礎底部の位置含む） ・ 図示による 試験掘り（根切り底の状況の確認等） ・ 行わない ・ 行う 位置等 ・ 図示による ・杭の載荷試験 (4.2.3) 載荷試験の方法 ・鉛直載荷試験 ・ 地盤工学会基準JGS () による ・ 水平載荷試験 ・ 地盤工学会基準JGS 1831 による ・ 試験の位置、本数、載荷荷重 ・ 図示による 報告書の記載事項 ・ ○ 地盤の載荷試験 (4.2.4) 載荷試験の方法 ○ 平板載荷試験 ・ 地盤工学会基準JGS 1521 による ・ 試験の位置、載荷荷重 ・ 図示による 報告書の記載事項
-----------	--

2 既製コンクリート杭

種類等 (4.3.2)	
・ 連心力高強度プレストレストコンクリート杭 (PHC杭) ・ プレストレスト鉄筋コンクリート杭 (PRC杭) ・ 外殻鋼管付きコンクリート杭 (SC杭) SC杭の鋼管材料 ・SKK400 ・SKK490 ・ 杭の種類、性能及び曲げ強度区分（種別）、寸法、継手の箇所数等 (4.2.2) (4.3.3)	
試験杭	上杭 中杭 下杭
本杭	上杭 中杭 下杭

- 杭先端部形状 (4.3.3)
- ・ 開放形 ・ 半開放形 ・ 閉塞形 ・
- ・セメントミルク工法 (4.3.1) (4.3.4)
- 掘削深さ
・ 図示による
杭の支持層への根入れ長さ
・ 図示による
杭の水平方向の位置ずれ精度
・ 杭径の1/4かつ100mm以下
根固め液及び杭周囲固定液の管理試験
・ 標準仕様書 4.3.4(6) (3) による

・特定埋込杭工法 (4.3.1) (4.3.5)
・ 平成13年国土交通省告示第1113号第6による地盤の許容支持力式で $\alpha=250$ を採用できる工法
・ 平成13年国土交通省告示第1113号第6による地盤の許容支持力式のうち α 、 β 、 γ が以下の値を採用できる工法
 α = ()、 β = ()、 γ = ()
工法
・ プレポーリング拡大根固め工法
・ 中掘り拡大根固め工法
・

- 杭継手工法 (4.3.3) (4.3.6) (7.2.5)
- ・ アーク溶接継手
溶接材料
・ 標準仕様書7.2.5(1) (2) による
・ 機械式継手（溶接部に接続金具を用いた方式のもの）

- 杭頭の処理 (4.3.8)
- ・ 処理しない
・ 処理する
処理方法（切断に伴う補強方法含む）
・ 図示による

杭の種類（材料）、寸法、継手等 (4.2.2) (4.4.3) (4.4.5)	
	種類 杭径 (mm) 板厚 (mm) 杭長 (m) 継手数 セット数 長期設計支持力 (kN/本) 備 考
試験杭	上杭 中杭 下杭
本杭	上杭 中杭 下杭

- 特定埋込杭工法 (4.3.5) (4.4.4)
- ・ 平成13年国土交通省告示第1113号第6による地盤の許容支持力式で $\alpha=250$ を採用できる工法
・ 平成13年国土交通省告示第1113号第6による地盤の許容支持力式のうち α 、 β 、 γ が以下の値を採用できる工法
 α = ()、 β = ()、 γ = ()
工法
・ 中掘り拡大根固め工法

杭の継手の工法 (4.4.3) (4.4.5) (7.2.5)
・ アーク溶接継手
溶接材料
・ 標準仕様書7.2.5(1) (2) による
・ 機械式継手

- 杭頭の処理 (4.4.6)
- ・ 処理しない
・ 処理する
処理方法（切断に伴う補強方法含む）
・ 図示による

- 工法 (4.5.1) (4.5.4~4.5.6)
- ・ アースドリル工法
・ オールケーシング工法
・ 場所打ち鋼管コンクリート杭工法
鋼管の材料（・SKK400 ・SKK490 ・）
・ リバース工法
・ 拡底杭工法

⑤ 砂利事業

6 砂地業

⑦ 捨コンクリート地業

寸法等 (4.2.2) (4.5.4)	
	鋼管厚 (mm) 鋼管径 (mm) 軸径 (mm) 拡底径 (mm) 杭長 (m) セット数 長期設計支持力 (kN/本) 備考
試験杭	本杭
・ 孔壁の確認（超音波測定器による） (4.5.5) 測定箇所 ・ 試験杭 () 箇所、本杭 () 箇所 杭の支持層への根入れ長さ ・ 図示による 杭の水平方向の位置ずれ精度 ・ 杭径の1/4かつ100mm以下 鉄筋の種類 (4.5.4) (5.2.1)	
種類	
・ SD295	
・ SD345	
帯筋の加工及び組立 (4.5.4)	
・ 図示による	
鉄筋の最小かぶり厚さ (4.5.4)	
・ 100mm	
鉄筋かごの補強 (4.5.4)	
・ 図示による	
組み立てた鉄筋の節ごとの継手 (4.5.4) (5.3.4)	
・ 重ね継手 重ね継手の長さ ※ 標準仕様書 表5.3.2による	
主筋の基礎底盤への定着長さ (4.5.4) (5.3.4)	
・ 図示による	
セメントの種類 (4.5.4)	
※ 高炉セメントB種	
コンクリートの設計基準強度 (4.5.4)	
・ 図示による	
コンクリートの種別 (4.5.4) (表4.5.1)	
・ A種 ・ B種 ・ 評定等の内容による	
スランプ (4.5.4)	
・ 18cm ・ 21cm ・ () cm	
構造体強度補正值(S) (4.5.4)	
※ 3N/mm2	
・ 図示による ・ 評定等の内容による	
材料 (4.6.2)	
○ 再生クラッシュラン ・ 切込砂利 ・ 切込砕石	
砂利の厚さ (4.6.3)	
○ 60mm	
範囲	
○ 基礎下、基礎梁下、土に接するスラブ下、土間コンクリート下 ・ 図示による	
材料 (4.6.2)	
・ シルト ・ 山砂 ・ 川砂 ・ 砕砂	
砂の厚さ (4.6.3)	
○ 60mm	
範囲	
・ 図示による	
捨てコンクリートの厚さ (4.6.4)	
※ 50mm ○100mm	
範囲 (4.6.4)	
○ 基礎下、基礎梁下、土に接するスラブ下 ・ 図示による	
コンクリートの種類 (4.6.4) (6.14.1)	
※ 普通コンクリート	
設計基準強度 (4.6.4) (6.14.1)	
※ 18N/mm2	
スランプ (4.6.4) (6.14.1)	
※ 15cm又は18cm	
材料 (4.6.2)	
※ ポリエチレンフィルム厚さ0.15mm以上	
範囲 (4.6.5)	
・ 建物内の土間スラブ及び土間コンクリート下(ピット下を除く) ・ 図示による	
工法	
・ 浅層混合処理工法 改良範囲、仕様(計測、試験等含む。)は構造図()による。	
・ 深層混合処理工法 改良範囲、仕様(計測、試験等含む。)は構造図()による。	
形状等	
・ 構造図()による	
支持地盤の長期設計支持力 () kN/m ²	
支持地盤	
・ 構造図()による	
型枠使用の有無	
・ 無し ・ 有り (型枠の使用箇所等は構造図S-〇〇による)	

⑤ 鉄筋工事

- ① 鉄筋
- ② 溶接金網
- ③ 鉄筋の継手及び定着
- ④ 鉄筋のかぶり厚さ及び間隔(溶接金網含む)
- ⑤ 各部配筋
- ⑥ ガス圧完了後の試験
- 7 機械式継手
- 8 溶接継手

鉄筋の種類 ※構造細目共通図（建築構造物）による			(5.2.1)
種類の記号	呼び径 (mm)	備考	
○ SD295	○ D16以下		
○ SD345	○ D19以上		
加工			
・ 鉄筋の折曲げ角度が90° 未満の折曲げ内法直径(D) () 以上			
鉄線の形状等 (5.2.2)			
種類	種類の記号	網目の形状、寸法、鉄線の径 (mm)	仕様部位
○ 溶接金網	JIS G3551	6φ-100x100	無筋コンクリート
・ 鉄筋格子			
鉄筋の継手の方法等 ※構造細目共通図（建築構造物）による (5.3.4)			
適用箇所		継手方法と適用径の範囲	呼び径 (mm)
柱及び梁主筋		○ ガス圧接 ・ 機械式継手 ・ 溶接継手 ・ 重ね継手	○ D19以上
耐力壁の鉄筋		○ 重ね継手	○ D16以下
基礎、耐圧スラブ、土圧壁		○ 重ね継手 ・ ガス圧接	○ D16以上
上記以外		・ 重ね継手	・
継手位置 ○ 図示による（構造細目共通図（建築構造物）） (5.3.4)			
柱及び梁主筋の重ね継手の長さ (5.3.4)			
※ 標準仕様書 表5.3.2による			
○ 図示による（構造細目共通図（建築構造物））			
耐力壁の重ね継手の長さ (5.3.4)			
※ 標準仕様書 5.3.4(3) (7) による			
○ 図示による（構造細目共通図（建築構造物））			
先組み工法等で、柱及び梁の主筋のうち、隣り合う継手を同箇所に出せる場合 ・ 図示による			
鉄筋の定着長さ (5.3.4)			
※ 標準仕様書 表5.3.4による			
○ 図示による（構造細目共通図（建築構造物））			
標準仕様書 5.3.4(5) (i) の場合の折り曲げ定着の方法 ※ 標準仕様書 図5.3.3により5.3.4(5) (i) をすべて満足する			
機械式定着工法 (5.3.4)			
・ 適用する			
適用箇所 ・ 図示による			
種類 ・ 図示による			
最小かぶり厚さ(目地底から算出を行う) (5.3.5)			
※ 標準仕様書 表5.3.6 による			
柱及び梁の主筋にD29以上の使用の有無			
・ あり 適用箇所()			
主筋のかぶり厚さの径の1.5倍以上確保する			
軽量コンクリートの適用の有無			
・ あり 適用箇所()			
・ 最小かぶり厚さに加える厚さ () mm			
耐久性上不利な個所の有無（塩害等を受けるおそれのある部分等）			
・ あり 適用箇所()			
・ 最小かぶり厚さに加える厚さ () mm			
○ 図示による（構造細目共通図（建築構造物））			
各部配筋 ○ 図示による ○ 構造細目共通図（建築構造物） (5.3.7)			
抜取試験（第三者試験期間による） (5.4.10) (5.4.11)			
⊗ 超音波探傷試験 標準仕様書 5.4.10 (i) (a) による			
・ 引張試験			
試験方法等 ※標準仕様書5.4.10 (i) (b) による			
適用箇所 ・ 図示による (5.5.3)			
平成12年建設省告示第1463号に適合する性能 (5.5.3)			
・ A級			
機械式継手の種類 (5.5.3)			
・ 図示による			
鉄筋相互のあき (5.5.3)			
・ 評定等の内容による ・ 図示による			
施工完了後の継手部の試験 (5.5.5)			
・ 外観試験（全ての圧接部）			
試験項目、試験方法			
・ 図示による			
・ 超音波測定試験			
試験対象			
・ 図示による			
不合格となった場合の措置 (5.5.5)			
・ 図示による			
適用箇所 ・ 図示による (5.6.3)			
平成12年建設省告示第1463号に適合する性能 (5.6.3)			
・ A級			
溶接継手の工法 (5.6.3)			
・ 図示による			
鉄筋相互のあき (5.6.3)			
・ 評定等の内容による ・ 図示による			
施工完了後の継手部の試験 (5.6.5)			
・ 外観試験（全ての圧接部）			
試験項目、試験方法			
・ 図示による			
・ 超音波探傷試験			
試験対象			
・ 図示による			
不合格となった場合の措置 (5.6.5)			
・ 図示による			

事業名	令和7年度 第4源泉施設建設工事（1期工事）		
図面名称	建築工事特記仕様書（構造関係）（1）		
縮尺	—	図面番号	AS-01
事業者	富士河口湖町		

コンクリート工事	①	コンクリートの種別等	コンクリートの類別 (6.2.1) (表6.2.1) ⊗ Ⅰ類 (JIS A 5308への適合を認証されたコンクリート) ・ Ⅱ類 (JIS A 5308に適合したコンクリート) ⊙ 普通コンクリート (6.2.1～6.2.4) (表6.2.2) 設計基準強度 (N/mm ²) スラブ (cm) 適用箇所 ⊙ 24 ・ ※ 15又は18 ⊙ 15 基礎、基礎梁、土間スラブ 1階梁・スラブ ⊙ 24 ・ ⊗ 18 1階柱・壁、R階梁・スラブ ・ ・ ・ 軽量コンクリート (特記事項は、「9. 軽量コンクリート」に示す) ・ 建築基準法第37条第二号の規定に基づき認定を受けたコンクリート 適用箇所 (・) 構造体強度補正值 ※ 標準仕様書 表6.3.2による ・ ② セメント 種類 ⊗ 普通ポルトランドセメント、高炉セメントB種、シリカセメントA種又はフライアッシュセメントA種 適用箇所 ⊗ 下記以外全て ・ 高炉セメントB種 適用箇所 (・) ・ フライアッシュセメントB種 適用箇所 (・) ・ 普通エコセメント 適用箇所 (・) ・ 再生骨材Hを使用する 適用箇所 (・) 湿潤養生の期間 (・) 日以上 型枠の最小存置機関 (・) ③ 骨材 フェロニッケルスラグ骨材、銅スラグ細骨材及び電気が酸化スラグ骨材 ・ 適用する 適用箇所 (・) アルカリシリカ反応性による区分 ※ A ・ B ④ 混和材料 ⊙ 混和剤 混和剤の種類 ※ 標準仕様書 6.3.1(4) (a)による ・ 混和材 混和材の種類 ※ 標準仕様書 6.3.1(4) (b)による 標準仕様書 6.3.2(4) (f)の①～③以外の混和材料 ・ 混和剤 (・) ・ 混和材 (・) 使用方法 使用量 ⑤ 打継ぎの位置、ひび割れ誘発目地、打継目地 打継ぎの位置 梁及びスラブ ⊗ スパンの中央又は端から1/4の付近 ・ 図示による 柱及び壁 ⊗ スラブ、壁梁又は基礎の上端 ・ 図示による 目地寸法 (ひび割れ誘発目地を含む) ※ 標準仕様書 9.7.3(1) (7)による ⊙ 図示による ひび割れ誘発目地の位置、形状 ⊙ 図示による ⑥ コンクリートの仕上り 合板せき板を用いるコンクリートの打放し仕上げ (6.2.5) (表6.2.4) 種類 適用箇所 ・ A種 ・ 図示 ⊙ B種 ⊙ 図示 ⊙ C種 ⊙ 図示 コンクリートの仕上りの平たんさ (6.2.5) (表6.2.5) 種類 適用箇所 ⊙ a種 ⊙ 図示 ⊙ b種 ⊙ 図示 ・ c種 ・ 図示 ⑦ 打増し厚さ (打放し仕上げ部) 打増し厚さ ⊙ 打放し仕上げの打増し厚さ(外部に面する部分に限る) ⊙ 20mm ・ 打放し仕上げの打増し厚さ(内部に面する部分に限る) ・ 10mm ・ 20mm 打増し範囲 ⊙ 図示による ⑧ 型枠 せき板の材料 ※ 標準仕様書 6.8.2(1) (7)、(4)による ⊙ 合板 (厚さ ※ 12mm ・) ・ ・ 断熱材を兼用した型枠 使用箇所 ・ 図示による ・ MCR工法用シート 適用箇所 ・ 図示による スリーブの材種・規格等 ⊙ 図示による 9 軽量コンクリート 適用箇所 ・ 図示による 種類 ・ 1種 ・ 2種 気乾単位容積重量 (・) t/m ³ スラブ ※ 21cm	⑩ 寒中コンクリート 適用期間 ・ 図示による 構造体強度補正值 (S) ⊙ 標準仕様書 6.11.2(3) (7)による ・ 積算温度を基に定める (・) ⑪ 暑中コンクリート 構造体強度補正值 (S) ※ 6N/mm ² (・) N/mm ² 12 マスコンクリート 適用箇所 ・ 図示による セメントの種類 ・ 普通ポルトランドセメント ・ 高炉セメントB種 ・ 中熱ポルトランドセメント ・ フライアッシュセメントB種 ・ 低熱ポルトランドセメント ・ シリカセメント 混和材料 ・ 混和剤 混和剤の種類 ※ 標準仕様書 6.13.2(2) (7)による 混和材の種類 ※ 標準仕様書 6.13.2(2) (4)による スラブ ※ 15cm 構造体強度補正值 (S) ※ 標準仕様書 6.13.1による ⑬ 無筋コンクリート コンクリートの種類 ⊗ 普通コンクリート 設計基準強度 ⊗ 18(N/mm ²) スラブ ⊗ 15cm又は18cm 適用箇所 ※ 標準仕様書 6.14.1(4)による ⊙ 図示による ・ 標準仕様書 表 6.2.1以外のコンクリートを用いる場合 (・) 14 流動化コンクリート 適用箇所 ・ 図示による ⑮ コンクリート強度及び試験方法 ※ 構造体コンクリートで、10m ³ 未満かつ構造上重要でない部分については、監督員の承諾を受けてフレッシュコンクリートの試験、コンクリートの強度試験を省略することができる。 ⑯ コンクリートの単位水量測定 ・ 行う ⊙ 行わない 実施要領 (1)単位水量の測定は、150m ³ に1回以上及び荷下し時に品質の異常が認められた時に実施する。 (2)単位水量の上限値は、標準仕様書6.3.2(4) (c)による。 (3)単位水量の管理目標値は次の通りとして、施工する。 1)測定した単位水量が、計画調合書の設計値(以下、「設計値」という。)±15kg/m ³ の範囲にある場合はそのまま施工する。 2)測定した単位水量が、設計値±15を超え±20kg/m ³ の範囲にある場合は、水量変動の原因を調査するとともに生コン製造者に改善を指示し、その運搬車の生コンは打設する。その後、設計値±15kg/m ³ 以内で安定するまで、運搬車の3台毎に1回、単位水量の測定を行う。 3)設計値±20kg/m ³ を超える場合は、生コンを打込まずに持ち帰らせ、水量変動の原因を調査するとともに生コン製造者に改善を指示しなければならない。その後の全運搬車の測定を行い、設計値±20kg/m ³ 以内であることを確認する。更に、設計値±15kg以内で安定するまで、運搬車の3台毎に1回、単位水量の測定を行う。 4)上記の不合格生コンを確実に持ち帰ったことを確認する。 (4)単位水量管理についての記録を書面(計画調合書、製造管理記録、打込み時の外気温、コンクリート温度等)と写真により提出する。 (5)単位水量の測定方法は、高周波誘電加熱乾燥法(電子レンジ法)、エアメータ法又は静電容量測定法による。 7 鉄骨工事 1 鉄骨製作工場 製作工場の加工能力 ・ 国土交通省から構造方法等の認定を取得している鉄骨製作工場又は同等以上の能力のある工場 (・) (・) グレード以上 ・ 監督職員の承諾する製作工場 ※ 適用する 2 施工管理技術者 3 鋼材 種類等 <table><tr><th>種類の記号</th><th>適用箇所 (主要な部分)</th><th>規格等</th></tr><tr><td>・ S S 400</td><td></td><td>※ JISによる</td></tr><tr><td>・ S N 400 B ・ S N 490 B</td><td></td><td>※ JISによる</td></tr><tr><td>・ S N 400 C ・ S N 490 C</td><td></td><td>※ JISによる</td></tr><tr><td>・ B C R 295 ・ S T K R 400</td><td></td><td>※ JISによる</td></tr><tr><td>・ S S C 400</td><td></td><td>※ JISによる</td></tr></table> 形状及び寸法 ・ 図示による 板厚方向に引張力を受ける鋼材の試験 ・ 行う (適用箇所:) ・ 行わない 4 高力ボルト 高力ボルトの種類 ・ トルシア形高力ボルト ・ JIS形高力ボルト ・ 溶融亜鉛めっき高力ボルト ・ 建築基準法に基づき認定を受けた高力ボルト ボルトの寸法 ねじの呼び ・ 図示による ボルトの繰端距離、ボルト間隔、ゲージ等 ・ 図示による 摩擦面の性能及び処理 ・ すべり試験 試験の方法等 ・ 図示による ・ 溶融亜鉛めっき面の摩擦面の処理方法 ※ 標準仕様書 7.12.5(1) (7)、(4)による	種類の記号	適用箇所 (主要な部分)	規格等	・ S S 400		※ JISによる	・ S N 400 B ・ S N 490 B		※ JISによる	・ S N 400 C ・ S N 490 C		※ JISによる	・ B C R 295 ・ S T K R 400		※ JISによる	・ S S C 400		※ JISによる	JIS形高力ボルトの締付け (本締め) ナット回転法の場合で、ボルトの長さがねじの呼びの5倍を超える場合の回転量 ・ 図示による 5 普通ボルト ボルト及びナットの材料 ※ 標準仕様書 表7.2.3 による ボルトの形状及び寸法 ねじの呼び ・ 図示による ボルトの繰端距離、ボルト間隔、ゲージ等 ・ 図示による 母屋又は鋼線の取付けに使用するボルトの孔径 ※ ねじの呼び径+1.0mm 6 アンカーボルト 種類 ・ 構造用アンカーボルト ・ ABR400 ・ ABR490 ・ 建方用アンカーボルト ・ SS400 アンカーボルト及びナットのねじの交差域クラス及び仕上げの程度 ※ 標準仕様書 表7.2.3 による ボルトの繰端距離、ボルト間隔、ゲージ等 ・ 図示による 7 溶接材料 溶接材料 ※ 標準仕様書 表7.2.5(1)、(2) による ・ 図示による 8 ターンバックル 種類 建築用ターンバックルボルト ※ 羽子板ボルト 建築用ターンバックル胴 ※ 割枠式 ねじの呼び等 ・ 図示による 9 構造用デッキプレート 材質、形状及び寸法 <table><tr><th>工法の種別</th><th>適用箇所</th><th>材質、形状、寸法</th><th>備考</th></tr><tr><td>・ デッキプレート単独の構法</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>・ デッキプレートとコンクリートとの合成スラブ構法</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>・</td><td></td><td></td><td></td></tr></table> 鉄骨部材への溶接方法 ・ 図示による 10 スタッド 種類等 <table><tr><th>呼び名</th><th colspan="3">呼び長さ (mm)</th><th>適用箇所</th></tr><tr><td>・ 16</td><td>・ 80</td><td>・ 100</td><td>・ 120</td><td></td></tr><tr><td>・ 19</td><td>・ 80</td><td>・ 100</td><td>・ 130</td><td>・ 150</td></tr><tr><td>・ 22</td><td>・ 80</td><td>・ 100</td><td>・ 130</td><td>・ 150</td></tr></table> 11 柱底均しモルタル ・ 無収縮モルタル 無収縮モルタルの材料及び調合 ※ 標準仕様書 7.2.9(2) による ・ 標準仕様書 7.2.9(1) によるモルタル 12 鉄骨の仮組 ※ 行う 仮組を行う範囲 ・ 図示による 13 溶接作業者の技量付加試験 試験の要領 ・ 図示による 14 溶接接合 開先の形状 ・ 図示による 鋼線エンドタブを切断する箇所及び切断範囲 ・ 図示による 切断面の仕上げ ※ 標準仕様書 7.6.7(1) (a) (b)②による スカラップの形状 ・ 図示による 低応力高サイクル疲労を受ける部位 ・ 図示による 15 溶接部の試験 溶接部の外観試験 平成12年建設省告示第1464号第二号に関する試験 試験の方法 ・ 「実合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル(鉄骨製作管理技術者登録機構)」3.5.2受入検査による ・ 抜き取り検査① ※ 抜き取り検査② ・ JASS 6 付則6の付表3「溶接」に関する試験 試験の方法 ・ JASS 6 10.4「受入検査」e.溶接部の外観検査(1)から(5)までによる。ただし、完全溶け込み溶接部の外観検査の抜取箇所は、超音波探傷試験の試験箇所と同一とする。 ・	工法の種別	適用箇所	材質、形状、寸法	備考	・ デッキプレート単独の構法				・ デッキプレートとコンクリートとの合成スラブ構法				・				呼び名	呼び長さ (mm)			適用箇所	・ 16	・ 80	・ 100	・ 120		・ 19	・ 80	・ 100	・ 130	・ 150	・ 22	・ 80	・ 100	・ 130	・ 150	(7.6.12) (7.8.2) (7.9.2～7.9.8) (7.10.3) (7.10.3) (表 7.10.1) (7.10.3) (表 7.10.2) (7.11.2)
	種類の記号	適用箇所 (主要な部分)	規格等																																																									
	・ S S 400		※ JISによる																																																									
	・ S N 400 B ・ S N 490 B		※ JISによる																																																									
	・ S N 400 C ・ S N 490 C		※ JISによる																																																									
	・ B C R 295 ・ S T K R 400		※ JISによる																																																									
	・ S S C 400		※ JISによる																																																									
	工法の種別	適用箇所	材質、形状、寸法	備考																																																								
	・ デッキプレート単独の構法																																																											
	・ デッキプレートとコンクリートとの合成スラブ構法																																																											
・																																																												
呼び名	呼び長さ (mm)			適用箇所																																																								
・ 16	・ 80	・ 100	・ 120																																																									
・ 19	・ 80	・ 100	・ 130	・ 150																																																								
・ 22	・ 80	・ 100	・ 130	・ 150																																																								
	16 錆止め塗装	完全溶込み部の超音波探傷試験 ※ 自社 100% ※ 第三者検査機関 ・ 工場溶接の場合 AQL(%) ※ 4.0 ・ 2.5 <table><tr><th>部</th><th>・ 全て</th><th></th></tr><tr><td>検査水準</td><td>※ 第6水準</td><td></td></tr></table> ・ 工事現場溶接の場合 ※ 全数 塗料の範囲 耐火被覆材の接着する面の塗装範囲 ・ 図示による 耐火被覆材の接着する面以外の塗装範囲 ※ 標準仕様書 表7.8.2(1) による ・ 図示による 下記以外の塗料の種類は、18章による ・ 鉄骨鉄筋コンクリート造の鋼製スリーブで鉄骨に溶接されたものの内側の錆止めの塗料の種類 ※ A種 ・ B種 ・ 耐火被覆が接着する面の塗料の種類 種類、材料、工法等 <table><tr><th>種類</th><th>材料・工法</th><th>耐火性能 (時間)</th><th>適用箇所 (部位・部分)</th></tr><tr><td>・ 耐火材吹付け</td><td>・ 乾式吹付けロックール ・ 半乾式吹付けロックール ・ 湿式ロックール</td><td></td><td></td></tr><tr><td>・ 耐火板張り</td><td>・ 繊維混入けい酸加シム板 ・</td><td></td><td></td></tr><tr><td>・ 耐火材巻付け</td><td>・ 高耐熱ロックール ・</td><td></td><td></td></tr><tr><td>・ 珪藻土モルタル塗り</td><td>・</td><td></td><td></td></tr><tr><td>・ 耐火塗料</td><td>・</td><td></td><td></td></tr></table> 構造用アンカーボルトの形状及び寸法 ・ 図示による 構造用アンカーフレームの形状及び寸法 ・ 図示による 建て方用アンカーボルトの保持及び埋込み工法 種別 ・ A種 ・ B種 柱底均しモルタルの厚さ及び工法の種別 厚さ ・ mm 種別 ※ A種 ボルト接合の方法 ・ 普通ボルト接合	部	・ 全て		検査水準	※ 第6水準		種類	材料・工法	耐火性能 (時間)	適用箇所 (部位・部分)	・ 耐火材吹付け	・ 乾式吹付けロックール ・ 半乾式吹付けロックール ・ 湿式ロックール			・ 耐火板張り	・ 繊維混入けい酸加シム板 ・			・ 耐火材巻付け	・ 高耐熱ロックール ・			・ 珪藻土モルタル塗り	・			・ 耐火塗料	・			(7.6.12) (7.8.2) (7.9.2～7.9.8) (7.10.3) (7.10.3) (7.10.3) (表 7.10.1) (7.10.3) (表 7.10.2) (7.11.2)																											
部	・ 全て																																																											
検査水準	※ 第6水準																																																											
種類	材料・工法	耐火性能 (時間)	適用箇所 (部位・部分)																																																									
・ 耐火材吹付け	・ 乾式吹付けロックール ・ 半乾式吹付けロックール ・ 湿式ロックール																																																											
・ 耐火板張り	・ 繊維混入けい酸加シム板 ・																																																											
・ 耐火材巻付け	・ 高耐熱ロックール ・																																																											
・ 珪藻土モルタル塗り	・																																																											
・ 耐火塗料	・																																																											
	17 耐火被覆																																																											
	18 アンカーボルトの設置等																																																											
	19 軽量形鋼構造																																																											
	その他	1 軽微な変更の対応 (あらかじめ検討)	施工の関係上やむを得ず発生する可能性の高い変更事項への対応方法について、あらかじめの検討を行っている部分 本検討は、計画通知の変更を要しない範囲及び対応方法を定めるものであり、品質管理上の施工誤差を許容するものではない。 ・ くいのおずれを考慮した検討 あらかじめ検討の範囲及び対応方法 ※ 構造図による。 ・ くいの変化を見込んだ検討 あらかじめ検討の範囲及び対応方法 ※ 構造図による。 ・ はり貫通孔の大きさと位置の変更を見込んだ検討 あらかじめ検討の範囲及び対応方法 ※ 構造図による。																																																									

事業名	令和7年度 第4源泉施設建設工事 (1期工事)		
図面名称	建築工事特記仕様書 (構造関係) (2)		
縮尺	—	図面番号	AS-02
事業者	富士河口湖町		

構 造 細 目 共 通 図（建築構造物）				
＜ 令和 4 年版 ＞				
※本図面は（一社）全国上下水道コンサルタント協会が著作権を有するものである。 使用にあたっては、上記協会への使用願いの提出と、配布番号の記載が必要である。 枠外右下の【協会員番号】と【配布番号】の記載が無い図面は無効とする。				
1 特記事項				
1. 1 適用範囲				
(1) 本構造細目共通図は上水道施設における建築構造物に適用する。 (2) 図面及び構造細目共通図に記載されていない事項は、下記に基づくものとし、これらに相違がある場合は監督職員に確認し指示を受ける。				
1) 建築工事特記仕様書 2) 建築改修工事特記仕様書 3) 建築工事一般仕様書 4) 公共建築工事標準仕様書（建築工事編） 5) 公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編）	(別紙による。) (別紙による。) (令和 年版) (令和 4 年版) (令和 4 年版)			
(3) 項目は、○印のついたものを適用する。○印のない場合は、※印のあるものを適用する。○印と※印のある場合は、共に適用する。				
1. 2 鉄筋の仕様				
鉄筋の種類及び継手は、別紙建築工事特記仕様書又は建築改修工事特記仕様書による。				
1. 1表 鉄筋の種類及び継手				
鉄筋の種類	種 別 径			
鉄筋の種類	SD 295 ※D16以下			
	SD 345 ※D19以上			
鉄筋の継手	重ね継手 下記以外			
	ガス圧接 ※D19以上、D29以下の柱、梁主筋			
	機械式継手 ※図示による。			
1. 3 コンクリートの仕様				
コンクリートの仕様は、別紙建築工事特記仕様書又は建築改修工事特記仕様書による。				
1. 2表 コンクリートの仕様				
分 類	コンクリート種別	設計基準強度 (N/mm ²)	スラブ (cm)	セメントの種類
鉄筋コンクリート	地上	※普通コンクリート	※18	※普通ポルトランドセメント
	地下基礎、基礎梁	※普通コンクリート	※15	※普通ポルトランドセメント
無筋コンクリート	※普通コンクリート	※18	※15	※ 普通ポルトランドセメント
注1：無筋コンクリートには捨てコンクリートを含む。				
1. 4 砕石及び捨てコンクリート				
砕石及び捨てコンクリートの厚さは、特記がなければ1. 3表による。				
1. 3表 砕石及び捨てコンクリートの仕様				
種 別	厚さ (mm)			
砂利または砕石	※ 60			
捨てコンクリート	※ 50			

2 共通事項		
2. 1 記号及び符号		
設計図中で使用する記号及び符号は、2. 1表及び2. 2表を標準とする。		
2. 1表 鉄筋の断面表示		
径	D10 D13 D16 D19 D22 D25 D29 D32	
記 号	● × ∅ ● ○ ⊗ ⊗ ⊗	
2. 2表 一般凡例		
記 号・符 号	内 容	※印の説明及び注意事項
F※	フーチング断面種別	※ 番号
※1C※2	柱断面種別	※1 階数 ※2 その階の番号
※1G※2	大梁断面種別	※1 階数、地中大梁はFとする ※2 その階の番号 X方向1、2、3 - - - Y方向A、B、C - - -
CG※	片持大梁断面種別	※ 番号、階別区分はしない
※1B※2	小梁断面種別	※1 地中小梁のみFとする。 ※2 階別区分はしない 地中小梁を除く
CB※	片持小梁断面種別	※ 番号、階別区分はしない
※1W※2	壁配筋種別	※1 E：耐震壁、K：階段壁 D：土圧、水圧を受ける壁 階別区分はしない 壁厚 (cm)
※1S※2※3	床版配筋種別	※1 片持床版のみCとする ※2 床版厚 (cm) ※3 配筋種別（英大文字） 階別区分はしない
※1K※2	階段の配筋種別	※1 A：片持床版形 B：二辺固定床版形 ※2 配筋種別（数字） 階別区分はしない
CB※	コンクリートブロック壁	※ 壁厚 (cm)
斜線	打ち増し範囲	
斜線	梁・床版の上がり下がり	一般には基準FLよりの十、一に応じた凡例により表示
(※)	床用積載荷重	積載荷重の値 (k N/m ²)
STP	あばら筋、スターラップ	梁、基礎梁、小梁
HOOP	帯筋、帯鉄筋、フープ	柱
S.HOOP	スパイラル筋、らせん筋	柱
幅止筋	幅止め筋	柱、梁、壁
組立筋	組立て筋	床版、底版
2. 2 一般注意事項		
(1) 設計図は監督職員の承諾を得なければ変更してはならない。 変更の必要を生じた場合は、監督職員と協議すること。		

3 鉄筋の折曲げ加工				
鉄筋の折曲げ加工は、3. 1表を標準とする。				
(1) Dは、折曲げ内法直径を示す。 (2) dは、鉄筋直径（呼び名）を示す。				
3. 1表 鉄筋の折曲げ形状及び寸法（末端部）				
曲げ角度	折 曲 げ 図	折曲げ内法直径（D）		使 用 箇 所
		SD295 SD345		
		D16以下	D19 ～D38	
180°		3d以上	4d以上	柱、梁の主筋 杭基礎のベース筋 D16以上の鉄筋
135°		3d以上	4d以上	D13以下の鉄筋 あばら筋、帯筋、 スパイラル筋
90°		3d以上	4d以上	T形及びL形の梁の あばら筋
135° 90°		3d以上	4d以上	90° 幅止め筋
(注) 1. 片持スラブ先端、壁筋の自由端側の先端で90°フック又は135°フックを用いる場合は、余長を4d以上とする。 2. 90°未満の折曲げの内法直径は図面による。				

5 鉄筋のかぶり及び間隔					
5. 1 かぶり厚さ					
かぶり厚さとは、一番外側の鉄筋（幅止め筋、組立筋を除く）の外面から躯体面までの距離（5. 1図）をいう。 鉄筋組立後のかぶり厚さは、最小かぶり厚さ以上を確保し、最小かぶり厚さに許容施工誤差10mmを加えた厚さ以内に納めるものとする。					
	5. 1図 鉄筋のかぶり厚さ				
5. 2 最小かぶり厚さ					
最小かぶり厚さは、5. 1表による。 (1) 床版、梁、基礎及び擁壁で、直接土に接する部分のかぶり厚さには、捨てコンクリートの厚さを含まない。 (2) 柱及び梁の主筋にD29以上を使用する場合は、主筋のかぶり厚さを径の1. 5倍以上として最小かぶり厚さを定める。 (3) 溶接金網にも適用する。					
5. 1表 鉄筋の最小かぶり厚さ (mm)					
塩害区分 構造部分の種類	※ 通常の施工の場合	・ 塩害対策を 必要とする場合			
一 般	床、耐力壁以外の壁	30 40			
	柱、梁、耐力壁	40 50			
	底版	40 50			
土、水に 接する部分	柱、梁、床、壁	40 50			
	底版、基礎	60 70			
煙突等高熱を受ける部分	60 70				
1：打継目地部分は目地底より最小かぶり厚さを確保する。 2：杭基礎の場合の最小かぶり厚さは、杭先端からとし、「21 杭基礎の補強」を参照。 3：仕上なしの場合を標準とする。					
5. 3 鉄筋相互のあき及び間隔					
鉄筋相互のあきは、下記の最大値のもの以上とする。ただし、機械式継手及び溶接継手の場合はあきは図面による。 (1) 粗骨材の最大寸法の1. 25倍 (2) 最小のあき25mm (3) 隣り合う鉄筋の平均径（呼び名の数値）の1. 5倍					
	(注) D：鉄筋の最外径 d：鉄筋直径（呼び名）				
5. 2図 鉄筋相互のあき及び間隔					
5. 2表 鉄筋径と鉄筋間隔の関係一覧					
鉄筋径 (mm)	鉄筋相互のあき：a			最小鉄筋芯間隔	
鉄筋径 d	最外径 D	(1) 粗骨材径×1.25	(2) 最小あき	(3) 鉄筋径×1.5	a + D
D10	11	32mm 粗骨材 最大径 25mm の場合	25mm	15mm	43mm
D13	14			20mm	46mm
D16	18			24mm	50mm
D19	21			29mm	53mm
D22	25			33mm	58mm
D25	28			38mm	66mm
D29	33			44mm	77mm

事業名	令和7年度 第4源泉施設建設工事（1期工事）		
図 面 名 称	構造細目共通図（建築構造物）（1）		
縮 尺	—	図面 番号	AS-03
事業者	富士河口湖町		

6 鉄筋の継手及び定着

6. 1 継手及び定着

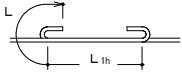
6. 1. 1 鉄筋の重ね継手

- (1) 鉄筋の重ね継手の長さは、6. 1表による。
- (2) 径が異なる鉄筋の重ね継手の長さは、細い鉄筋の径による。
- (3) 主筋及び耐震壁の鉄筋の重ね継手の長さは40dとする。ただし、SD390、SD490を使用する場合は特記による。

6. 1表 鉄筋の重ね継手の長さ

鉄筋の種 類	コンクリートの設計基準強度 F_c (N/mm ²)	L_1 (フックなし)	L_{1h} (フックあり)
SD295	24、27	35d	25d
	30	35d	25d
SD345	24、27	40d	30d
	30	35d	25d

- (注) 1. L_1 、 L_{1h} ：フックなし重ね継手の長さ及びフックあり重ね継手の長さ
2. フックありの場合の L_{1h} は、6. 1図に示すようにフック部分 h を含まない。



6. 1図

6. 1. 2 継手の特記事項

- (1) 継手は、極力応力の小さい位置に設ける。

6. 1. 3 鉄筋の定着

- (1) 鉄筋の定着の長さは、6. 2表による。

6. 2表 鉄筋の定着の長さ

鉄筋の種 類	コンクリートの設計基準強度 F_c (N/mm ²)	フックなし				フックあり			
		L_1	L_2	L_3		L_{1h}	L_{2h}	L_{3h}	
				小梁	スラブ			小梁	スラブ
SD295	24、27	35d	30d	20d	10d かつ 150mm	25d	20d	10d	—
	30	35d	30d			25d	20d		
SD345	24、27	40d	35d			30d	25d		
	30	35d	30d			25d	20d		

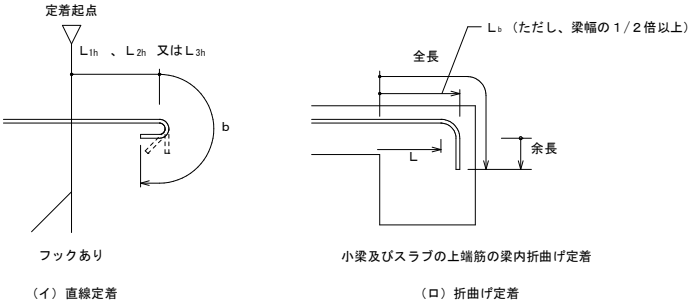
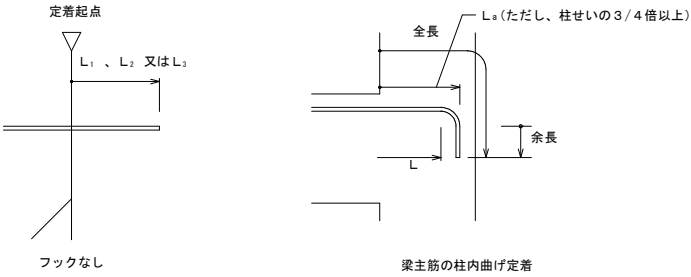
- (注) 1. L_1 、 L_{1h} ：2. 以外の直線定着の長さ及びフックありの長さ
2. L_2 、 L_{2h} ：割裂破壊の恐れのない箇所への直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ
3. L_3 ：小梁及びスラブの下端の直線定着の長さ（基礎耐圧スラブ及びこれを受ける小梁を除く）
- なお、片持小梁及び片持スラブの場合は、20d及び10dを25d以上とする。
4. L_{3h} ：小梁の下端筋のフックあり定着の長さ
5. フックあり定着の場合は、6. 2図（イ）に示すようにフック部分 h を含まない。また、中間部での折曲げは行わない。

6. 1. 4 定着の方法

定着の方法は6. 2図による。

なお、(ロ)折曲げ定着の梁主筋の柱内折曲げ定着において、仕口内に縦に折曲げて定着する鉄筋の定着長さ h が、6. 2表のフックあり定着の長さを確保できない場合は、全長を6. 2表に示すフックなし定着長さとし、かつ、余長を8d、仕口面から鉄筋外面までの投影定着長さを6. 3表に示す長さをのみ込ませる。

- (注) 1. L_a 、 L_b は、6. 3表の鉄筋の投影定着長さを示し、下記条件を満たすものとする。
- ・梁主筋の柱内定着においては、原則として柱せいの3/4倍以上
 - ・小梁主筋の大梁内定着においては、原則として大梁幅の1/2倍以上
 - ・スラブの梁内定着においては、原則として梁幅の1/2倍以上



6. 2図 定着の方法

6. 3表 鉄筋の投影定着長さ

鉄筋の種 類	コンクリートの設計基準強度 F_c (N/mm ²)	L_a	L_b
SD295	24、27	15d	15d
	30	15d	15d
SD345	24、27	20d	15d
	30	15d	15d

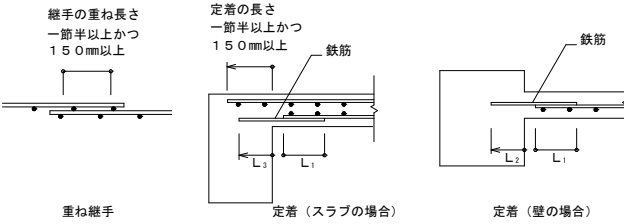
- (注) 1. L_a ：梁主筋の柱内折曲げ定着の投影定着長さ（基礎梁、片持ちスラブを含む。）
2. L_b ：小梁及びスラブの上端筋の梁内折曲げ定着の投影定着長さ（片持ち小梁及び片持ちスラブを除く。）

6. 2 隣り合う継手の位置及び定着

- (1) 隣り合う継ぎ手の位置は、6. 4表により、a寸法を守ること。ただし、壁の場合及びスラブ筋でD16以下の場合を除く。

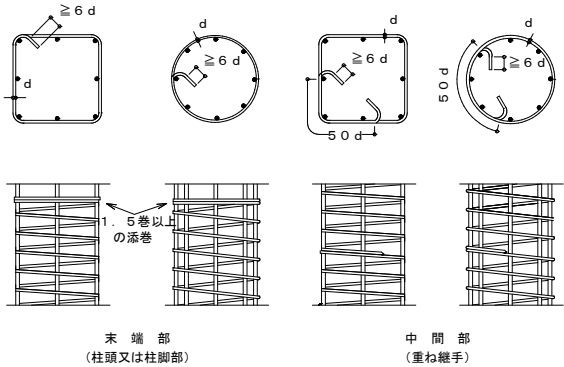
重ね継手	フック有りの場合	6. 4表 隣り合う継手の位置	
	フックなしの場合		
圧接継手	—	$a \geq 0.5 L_1$	$a \geq 0.5 L_1$
		$a \geq 400 \text{ mm}$	$a \geq 400 \text{ mm}$

- (2) 溶接金網の継手及び定着は、6. 3図による。



6. 3図 溶接金網の継手及び定着要領

(3) スパイラル筋の継手及び定着



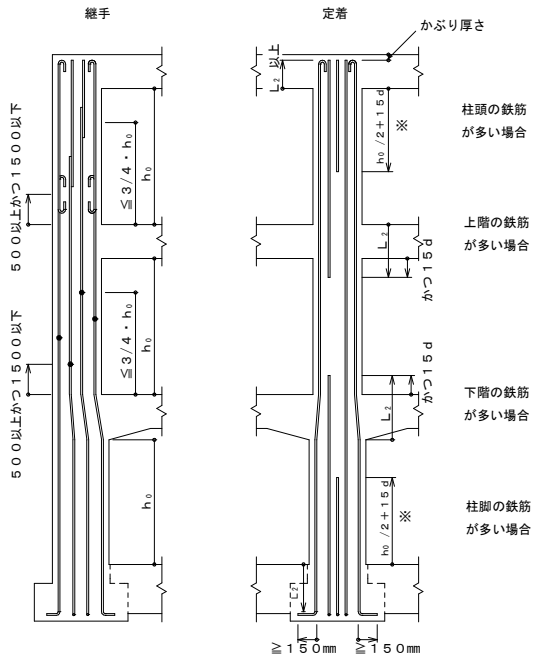
6. 4図 スパイラル筋の継手及び定着要領

7 (欠番)

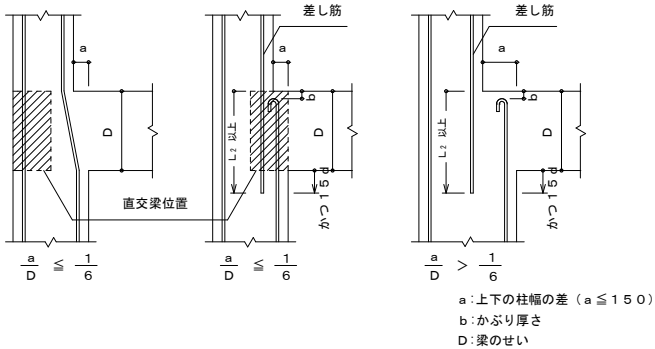
8 柱筋の継手及び定着

8. 1 一般事項

- (1) 継手長さは L_1 とし、定着及び余長は、8. 1図による。
- (2) 柱頭定着長さ L_2 が確保出来ない場合は、図面による。
- (3) 上下の柱断面が異なる場合の柱主筋の折曲げ及び定着は、8. 2図による。
- (4) 柱の継手及び圧接中心位置は、梁上端から500mm以上、1500mm以下かつ3/4 h_0 (h_0 は柱の内法高さ) 以下とする。
- (5) ※鉄筋のカットオフの位置及び長さは図面による。



8. 1図 柱主筋の継手、定着及び余長



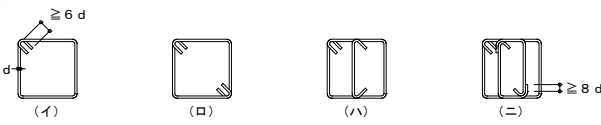
8. 2図 上下の柱断面が異なる柱主筋の折曲げ及び定着

9 帯筋

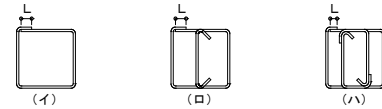
9. 1 帯筋の形状

- (1) 帯筋の形状は、9. 1図とし、種別は図面による。図面になければ下記による。
- (a) H形を標準とする。
- (b) H形の135°曲げのフックが困難な場合は、W-1形とする。
- (c) 溶接する場合の溶接長さ L は、両面フレア溶接の場合は5d以上、片面フレア溶接の場合は10d以上とし、組立前に行う。
- (d) S P形において、柱頭及び柱脚の端部は、1. 5巻以上の添巻きを行う。

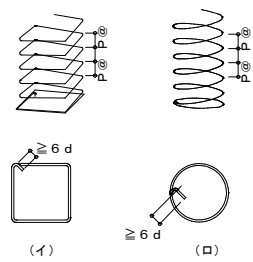
・H形



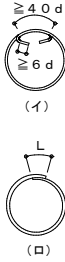
・W-1形（溶接を行う）



・S P形（スパイラル筋）



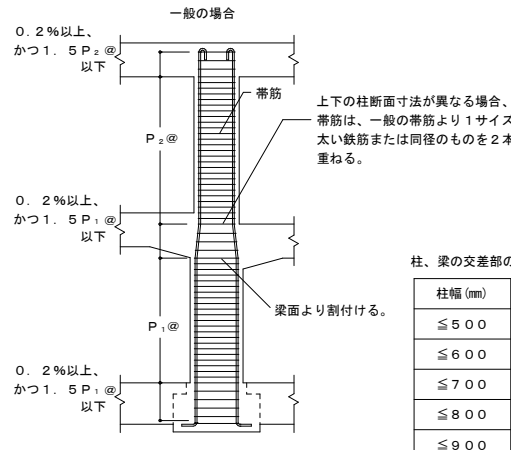
・丸形



9. 1図 帯筋組立の形

9. 2 帯筋の割付け

- (1) フック及び継手の位置は交互とする。
- (2) 帯筋の割付けは、9. 2図による。ただし、図面にある場合はそれによる。
- (3) 柱、梁の交差部（パネルゾーン）の帯筋のせん断補強比は、0. 2%以上を確保し、補強筋間隔 $\leq 1. 5 P$ とする。

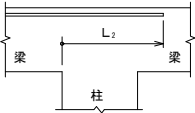
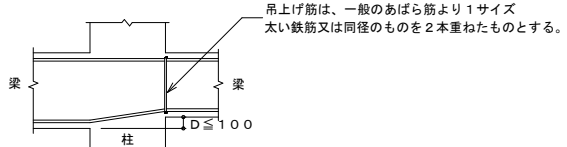
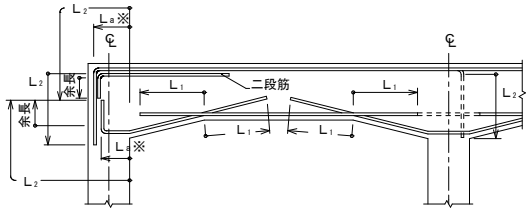
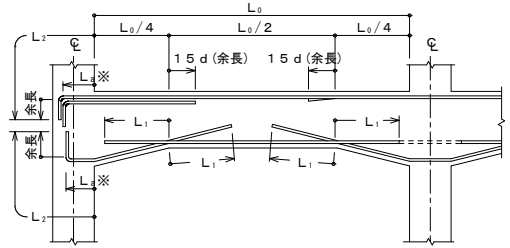
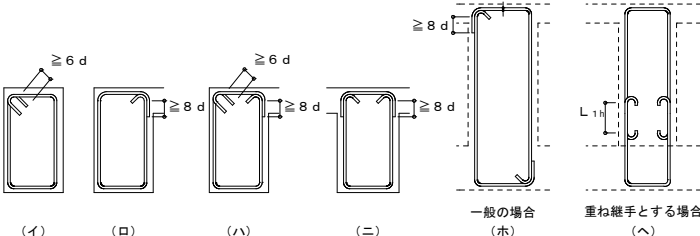
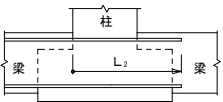
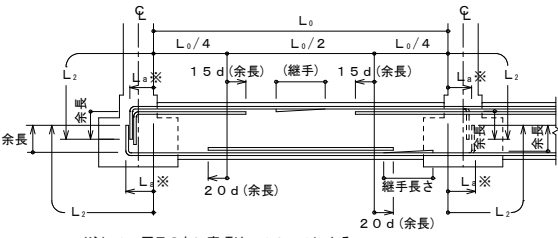
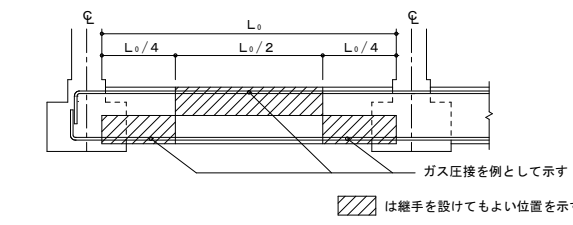
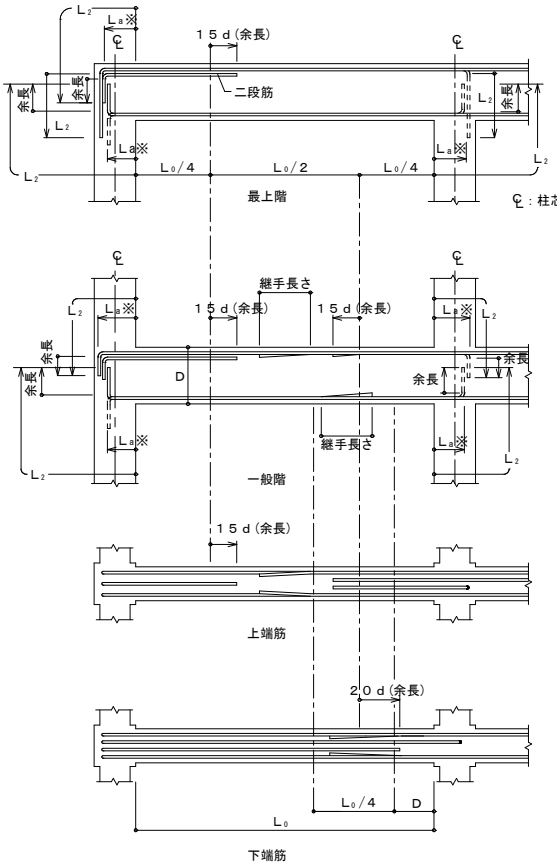
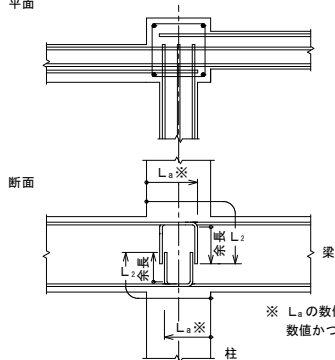
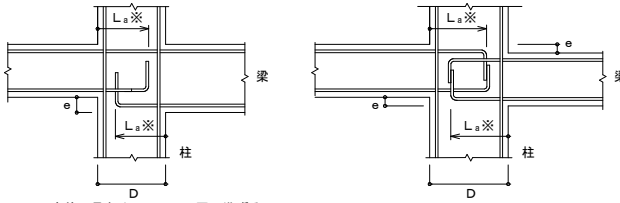
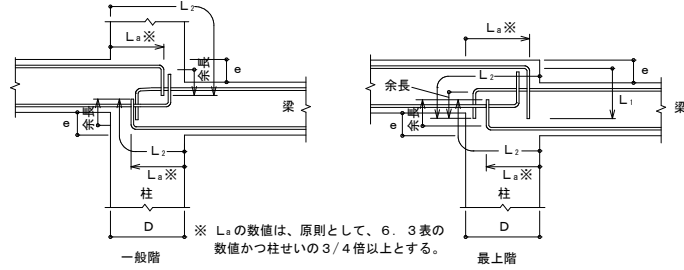
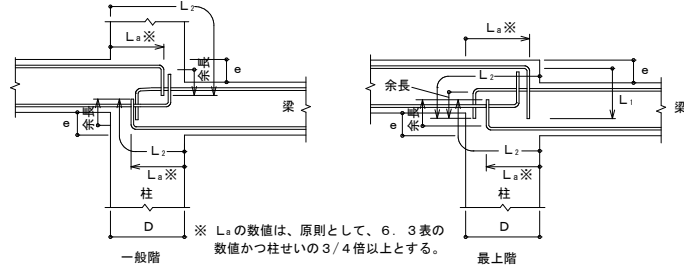
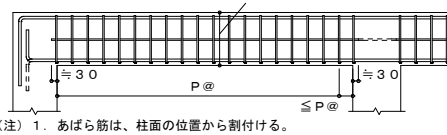
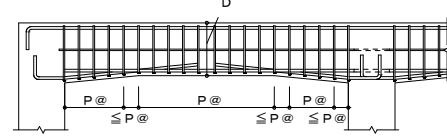
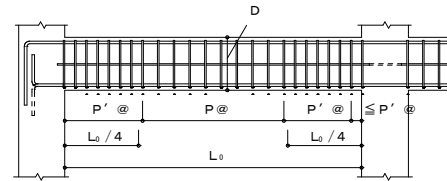
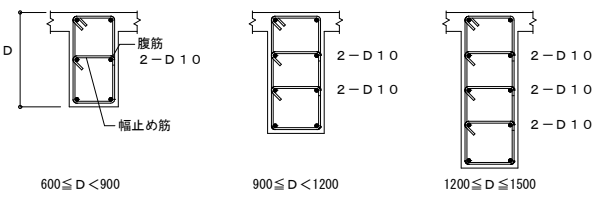
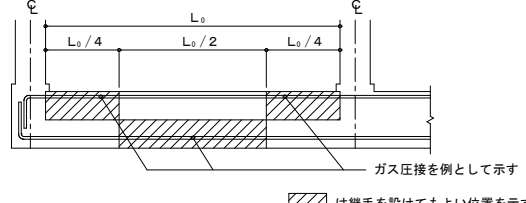


9. 2図 帯筋の割付け

柱幅 (mm)	パネルゾーン
≤ 500	D10 @125
≤ 600	D10 @100
≤ 700	D10 @100
≤ 800	D13 @150
≤ 900	D13 @125
≤ 1000	D13 @125
≤ 1100	D13 @100
≤ 1200	D13 @100

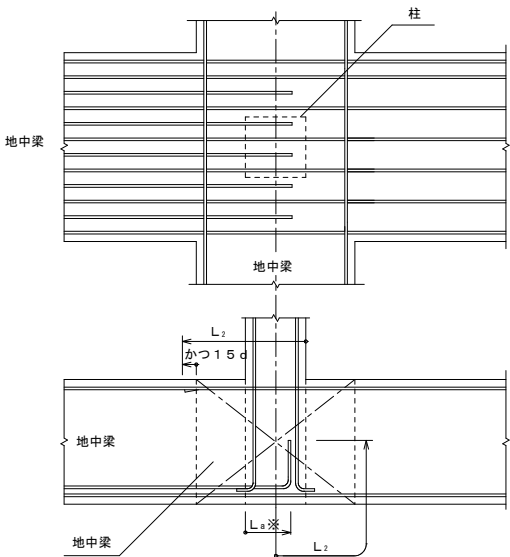
※1. 5 P1、1. 5 P2のピッチは150mm以下とする。

事業名	令和7年度 第4源泉施設建設工事（1期工事）		
図 面 名 称	構造細目共通図（建築構造物）（2）		
縮 尺	—	図 面 番 号	AS-04
事業者	富士河口湖町		

<div>10 大梁筋の継手及び定着</div> <div>10.1 大梁（基礎梁以外の大梁に限る）主筋の継手、定着及び余長</div> <div>大梁主筋の継手及び定着の一般事項</div> <div>a. 梁主筋は、原則として、柱をまたいで引き通すものとし、引き通すことが出来ない場合は、b. により柱内に定着することができる。 ただし、やむを得ず梁内に定着する場合は、10.1図による。</div> <div></div> <div>10.1図 梁主筋の梁内定着</div> <div>b. 梁主筋を、柱内に折曲げて定着する場合は次による。 なお、定着の方法は、6.1.4による。 上端筋：曲げ下ろす。 下端筋：原則として曲げ上げる。</div> <div>c. 段違い梁は10.2図による。</div> <div></div> <div>10.2図 段違い梁</div>	<div>10.3 ハンチのある場合</div> <div>(1) 最上階の場合</div> <div></div> <div>10.4図 ハンチのある大梁の定着及び余長（最上階）</div> <div>(2) 一般階の場合</div> <div></div> <div>10.5図 ハンチのある大梁の定着及び余長（一般階）</div> <div>(注) 1. 4. 異形鉄筋の末端部で定めた鉄筋には、フックを付ける。 2. 印は、継手及び余長を示す。 3. 梁内定着の端部下端筋が接近するときは、 ===== のように引き通すことができる。 4. 破線は、梁内定着の場合を示す。 5. 梁筋カットオフ位置及び余長は図面による。 ※ L_s の数値は、原則として、6.3表の数値かつ柱せいの3/4倍以上とする。</div>	<div>11 梁のあばら筋、腹筋及び幅止め筋</div> <div>11.1 一般事項</div> <div>(1) 腹筋に継手を設ける場合の継手長さは、150mm程度とする。 (2) 壁梁の場合、腹筋の定着長さ及び継手長さは、L_1 とする。 (3) 土圧、水圧を受ける梁は、図面による。 (4) 幅止め筋及び受け用幅止め筋は、D10～1000mmピッチ程度とする。</div> <div>11.2 あばら筋組立の形及びフックの位置</div> <div>(1) 形は、11.1図（イ）を標準とする。 ただし、（イ）によることが出来ない場合は、下記の方法によることが出来る。 a. 床版が片側に付く場合は、（ロ）又は（ハ） b. 床版が両側に付く場合は、（ロ）～（ニ）</div> <div>(2) フックの位置</div> <div>a. （イ）の場合は交互とする。 b. （ロ）の場合 床版が片側に付く場合は床版の付く側。床版が両側に付く場合は交互。 c. （ハ）の場合は床版の付く側を90°折曲げ、8d確保する。 d. （ホ）（ヘ）の場合は梁の上下にスラブが付く場合でかつ、梁せいが1.5m以上の場合に適用する事ができる。（基礎梁）</div> <div></div> <div>11.1図 あばら筋組立の形及びフックの位置</div>	<div>12 基礎梁及び底版の継手及び定着</div> <div>12.1 基礎梁主筋の継手、定着及び余長</div> <div>(1) 一般事項</div> <div>(a) 梁筋は、連続端で柱に接する梁筋が同数の時は柱をまたいで引き通すものとし、鉄筋の本数が異なる場合は柱内に定着する。やむを得ず梁内に定着する場合は、12.1図による。 (b) 梁筋を柱内に定着する場合は10.1（1）bによる。</div> <div></div> <div>12.1図 梁筋の基礎梁内への定着</div> <div>(2) 独立基礎で基礎梁（スラブなどの上載荷重を受ける場合）の主筋の継手、定着及び余長</div> <div></div> <div>12.2図 主筋の継手、定着及び余長（その1）</div> <div>(3) 連続基礎及びべた基礎の基礎梁（基礎梁の下方より地反力（杭反力）を受ける場合）の主筋の継手、定着及び余長</div> <div></div> <div>12.3図 主筋の継手、定着及び余長（その2）</div> <div><table><tr><td>事業名</td><td colspan="3">令和7年度 第4源泉施設建設工事（1期工事）</td></tr><tr><td>図面名称</td><td colspan="3">構造細目共通図（建築構造物）（3）</td></tr><tr><td>縮尺</td><td>—</td><td>図面番号</td><td>AS-05</td></tr><tr><td>事業者</td><td>富士河口湖町</td><td colspan="2"></td></tr></table></div>	事業名	令和7年度 第4源泉施設建設工事（1期工事）			図面名称	構造細目共通図（建築構造物）（3）			縮尺	—	図面番号	AS-05	事業者	富士河口湖町		
事業名	令和7年度 第4源泉施設建設工事（1期工事）																		
図面名称	構造細目共通図（建築構造物）（3）																		
縮尺	—	図面番号	AS-05																
事業者	富士河口湖町																		
<div>10.2 ハンチのない場合</div> <div></div> <div>10.3図 大梁の重ね継手、定着及び余長</div> <div>(注) 1. 継手中心位置は次による。 上端筋：中央$L_0/2$以内 下端筋：柱面より梁せい（D）以上離し、$L_0/4$を加えた範囲以内</div> <div>2. 4. 異形鉄筋の末端部で定めた鉄筋には、フックを付ける。 3. 印は、継手及び余長を示す。 4. 破線は、柱内定着の場合を示す。 5. 梁筋カットオフ位置及び余長は図面による。 ※ L_s の数値は、原則として、6.3表の数値かつ柱せいの3/4倍以上とする。</div>	<div>10.4 水平段差のある場合</div> <div>水平段差のある場合</div> <div>平面</div> <div></div> <div>10.6図 大梁の定着及び余長（水平段差のある場合）</div> <div>断面</div> <div></div> <div>10.7図 鉛直段差梁（その1）</div> <div>定着の長さは、10.3図に準ずる ※ L_s の数値は、原則として、6.3表の数値かつ柱せいの3/4倍以上とする。</div> <div>10.5 鉛直段差（e）のある場合</div> <div>(1) $e/D \leq 1/6$ の場合</div> <div></div> <div>10.8図 鉛直段差梁（その2）</div> <div>(2) $e/D > 1/6$ の場合</div> <div></div> <div>10.9図 鉛直段差梁（その3）</div>	<div>11.3 あばら筋の割付け</div> <div>(1) 間隔が一様でハンチのない場合</div> <div></div> <div>11.2図 あばら筋の割付け（その1）</div> <div>(2) 間隔が一様でハンチのある場合</div> <div></div> <div>11.3図 あばら筋の割付け（その2）</div> <div>(3) 梁の端部で間隔の異なる場合</div> <div></div> <div>11.4図 あばら筋の割付け（その3）</div> <div>11.4 腹筋及び幅止め筋</div> <div>(1) 一般の梁</div> <div>a. 腹筋及び幅止め筋</div> <div></div> <div>11.5図 腹筋及び幅止め筋</div> <div>(2) 特殊な梁</div> <div>腹筋及び幅止め筋は、図面による。</div>	<div>12.2 主筋の継手、定着及び余長（その1）</div> <div>(注) 1. 図示のない事項は、10.1による。 2. 印は、継手及び余長位置を示す。 3. 破線は、柱内定着の場合を示す。 ※ L_s の数値は、原則として、6.3表の数値かつ柱せいの3/4倍以上とする。 4. 基礎梁内の主筋カットオフ位置及び余長は図面による。</div> <div>12.3 主筋の継手、定着及び余長（その2）</div> <div></div> <div>12.3図 主筋の継手、定着及び余長（その2）</div>																

(4) 柱<梁幅の場合

(a) 交差部のスターラップを設ける場合は、図面による。



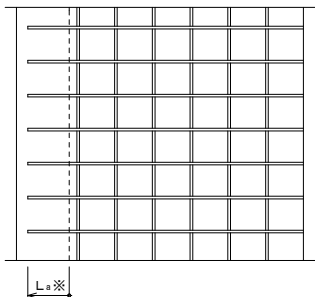
※ Laの数値は、原則として、6.3表の数値かつ柱せいの3/4倍以上とする。

12.4図 主筋の継手、定着及び余長 (その3)

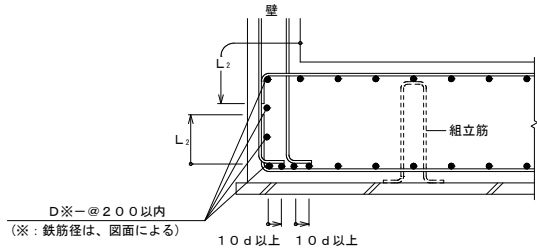
12.4 梁形を設けない場合の基礎底板 (オイルタンク等)

(1) 定着の取り方は、壁の面からとする。

(2) 途中で配筋が変わる場合の定着は、12.2図のように基礎底板筋を梁筋と読みかえる。

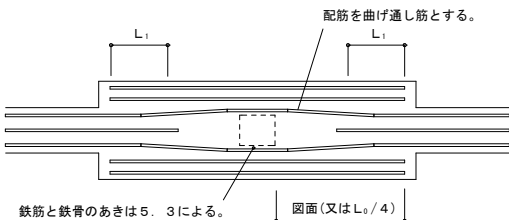


※ Laの数値は、原則として、柱せいの3/4倍以上とする。



12.5図 主筋の継手、定着及び余長 (その4)

(3) 鉄骨造のBOX柱等が埋め込まれる場合の端部と中央部の断面の異なる場合



12.6図 主筋の継手、定着及び余長 (その5)

13 小梁及び片持梁の配筋要領

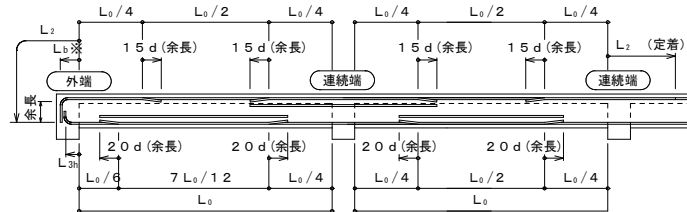
13.1 一般事項

(1) 図面でない事項は大梁、梁のあばら筋、及び基礎梁の項に準ずる。

(2) 印は、継手及び余長を示す。

13.2 小梁

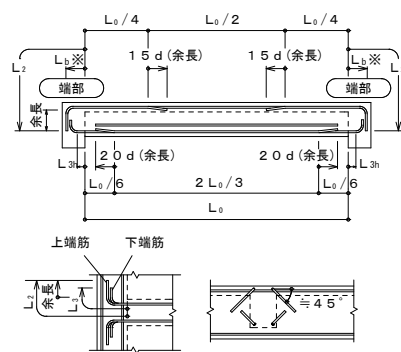
(1) 連続小梁の場合



※ Laの数値は、原則として、6.3表の数値かつ梁幅の1/2倍以上とする。

13.1図 小梁主筋の継手、定着及び余長 (その1)

(2) 単独小梁の場合



13.2図 小梁主筋の継手、定着及び余長 (その2)

(注) 1. 印は、継手及び余長を示す。

2. 梁内の定着筋において梁せいが小さく垂直で余長がとれない場合、斜めにしてもよい。

3. 図示のない事項は、10.1及び12.1に準ずる。

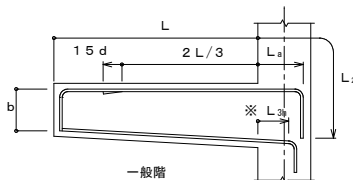
※ Laの数値は、原則として、6.3表の数値かつ梁幅の1/2倍以上とする。

13.3 片持梁筋の定着

(1) 先端に小梁のない場合

a. 先端の折曲げの長さbは、梁せいよりかぶり厚さを除いた長さとする。

b. 梁筋を引き通さない場合は、取り合い部材に定着する。ただし、柱に取り合う場合は、全数を引き通すことができる場合でも、上端筋は、2本以上を柱に定着する。



13.3図 片持梁主筋の定着及び余長 (先端に小梁のない場合)

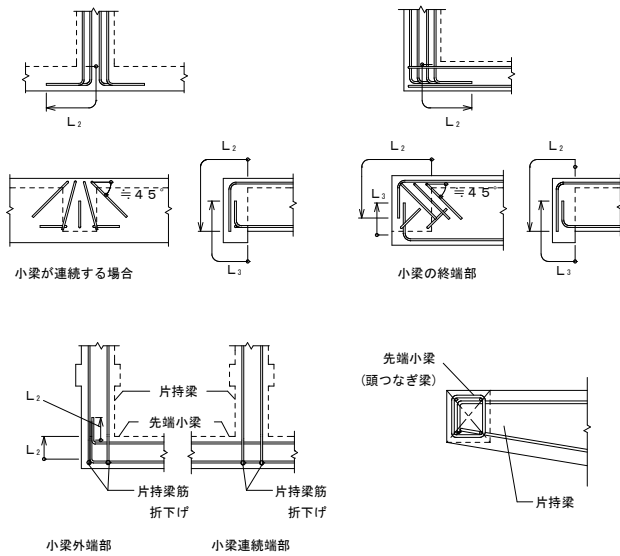
※ L3aをフックなしで定着させる場合は25dとする。

(2) 先端に小梁がある場合

a. 上端筋は、先端小梁内に斜めに定着する。

b. 先端小梁終端部の主筋は、片持梁内に水平定着する。

c. 先端小梁の連続端は、片持梁の先端を貫通する通し筋としてよい。



13.4図 片持梁主筋の定着

14 壁の配筋要領

14.1 一般事項

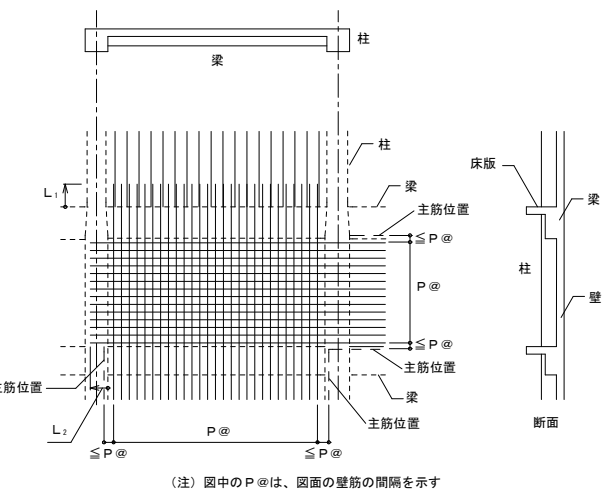
(1) 一般壁配筋の重ね継手の長さはL1とし、耐震壁の鉄筋の重ね継手の長さは40dとする。ただし、SD390、SD490を使用する場合は特記による。

また、定着の長さは、L2とし、鉄筋の継手位置は、柱・梁部以外とする。

(2) 幅止め筋は、縦、横ともD10-@1000を標準とする。

(3) 打増し部分に、壁及びスラブ等が取りつく場合は、壁及びスラブ筋等の定着長さには打増し部分は含まない。

(4) 土圧及び水圧などを受ける壁の配筋は、図面による。



14.1図 壁の配筋

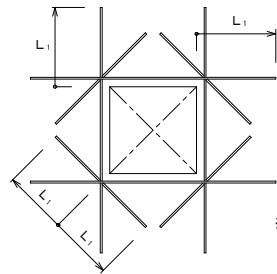
14.2 耐震壁の開口

(1) 耐震壁等の開口は、図面以外は設けてはならない。

(2) やむを得ず開口をあける場合は、H19国土交通省告示593号の規定を満足することを構造計算によって確認すること。

14.3 壁開口部の補強

(1) 壁開口部の補強は、図面による。補強筋の長さ及び位置は、14.3図を標準とする。



※：鉄筋径及び本数は、図面による

14.3図 壁開口部の補強の定着長さ

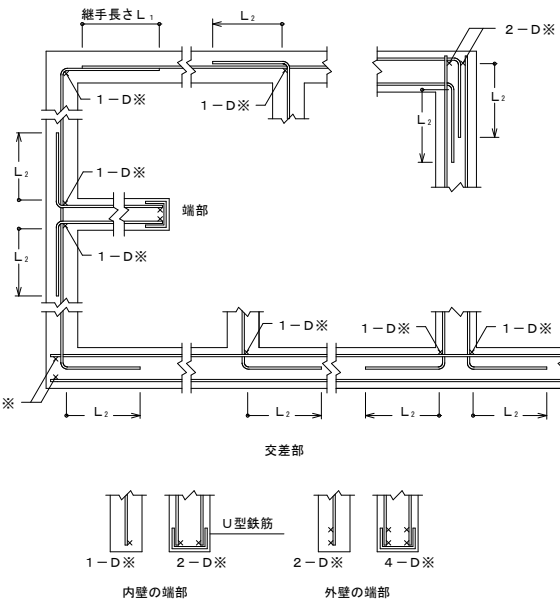
(2) 開口部は柱及び梁に接する部分又は鉄筋を緩やかに曲げることにより、開口部を避けて配筋出来る場合は、補強筋を省略することができる。

14.4 壁の交差部及び端部

壁の交差部及び端部の交差部は、14.4図による。

a. 交差部補強筋D※はD13以上、かつ壁主筋と同径とする。

b. 壁の端部にU型鉄筋を使用する場合の径及び間隔は、壁筋と同径及び同間隔とする。



14.4図 壁の交差部及び端部の配筋

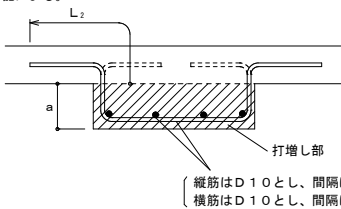
※壁構造の場合は、「壁構造配筋指針・同解説」(日本建築学会)に基づき図面による。

14.5 壁の打増し要領

コンセントボックス等を壁に埋め込む場合の補強は、特記によるほか、配管等での壁の打増し補強筋は、14.5図による。

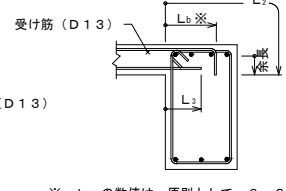
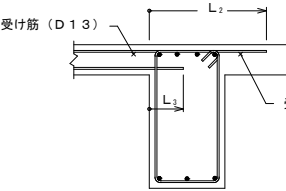
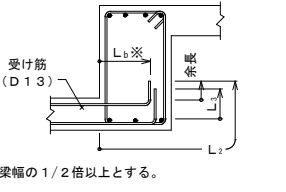
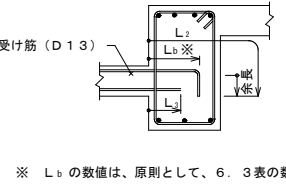
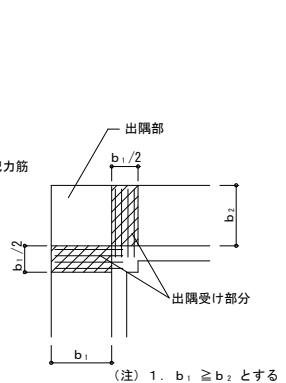
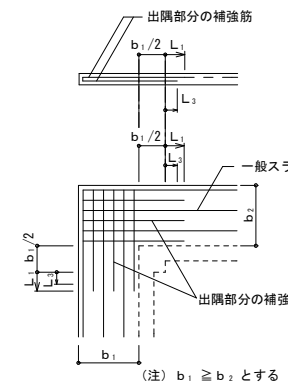
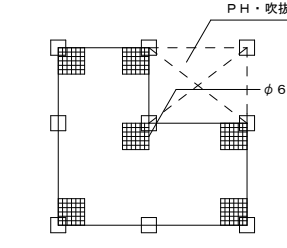
打増し厚さのaが50mm以上、200mm以下に適用する。

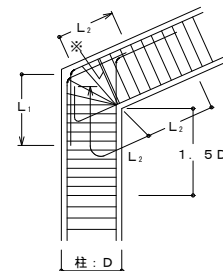
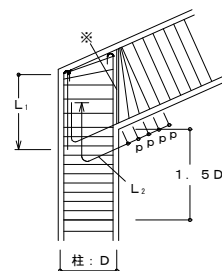
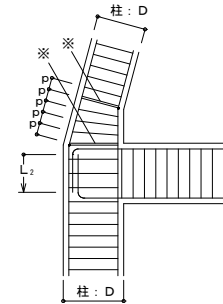
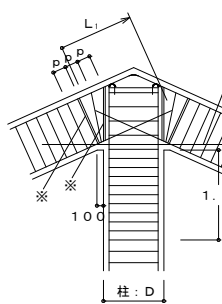
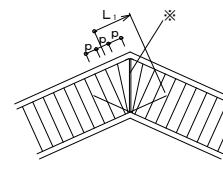
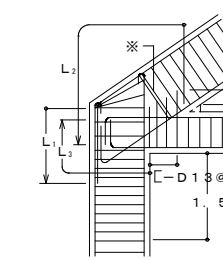
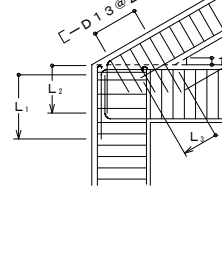
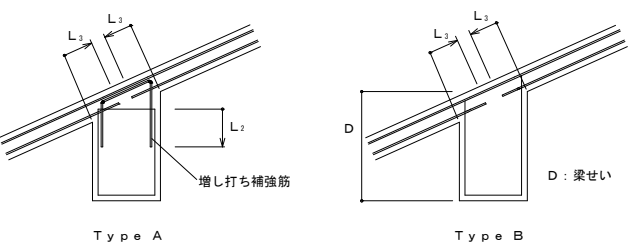
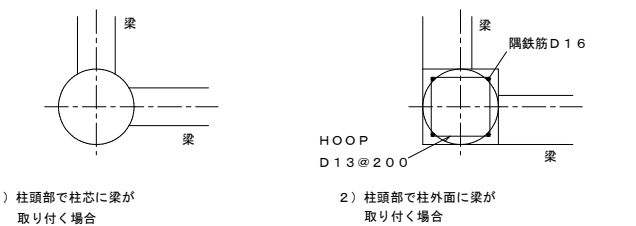

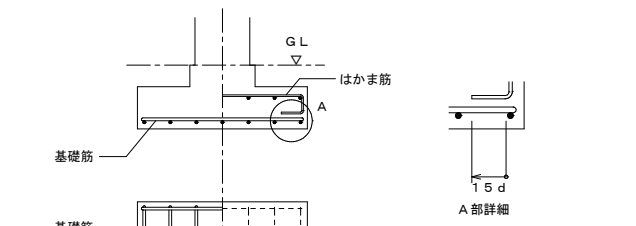
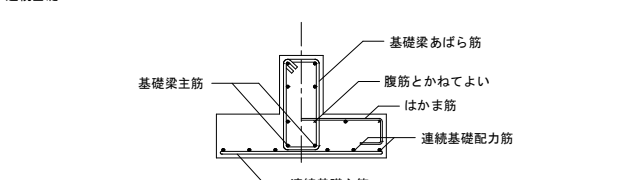
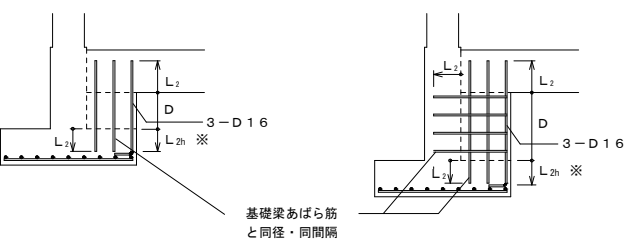
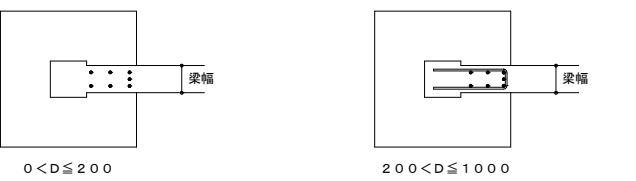
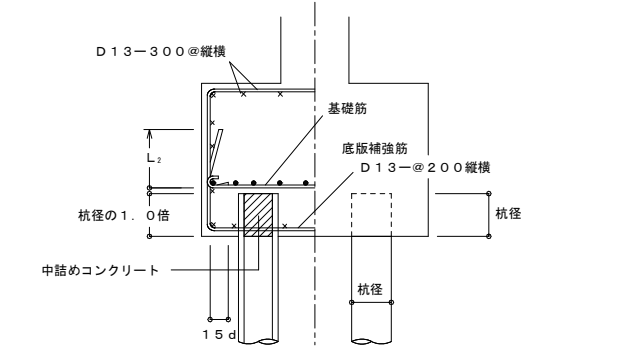
200mmを超える場合は、特記による。

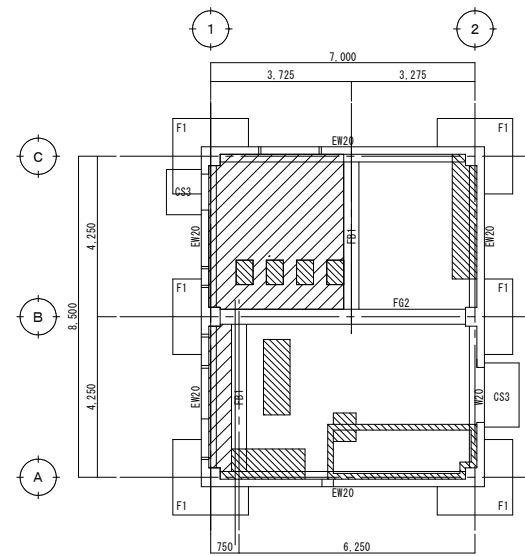


14.5図 壁の打増し補強配筋

事業名	令和7年度 第4源泉施設建設工事(1期工事)		
図面名称	構造細目共通図(建築構造物)(4)		
縮尺	—	図面番号	AS-06
事業者	富士河口湖町		

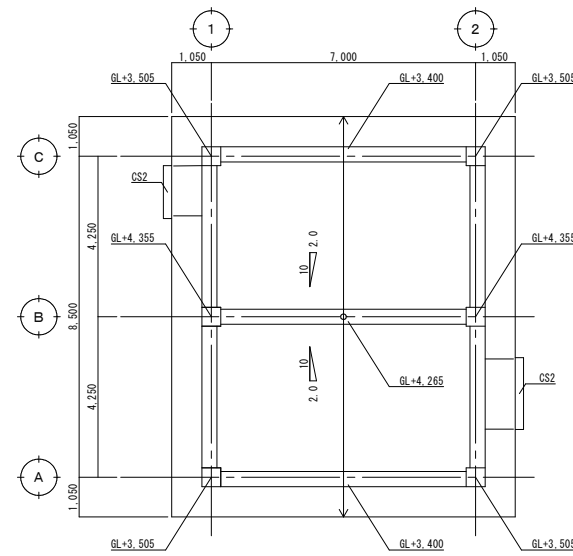
<div>15床の配筋要領</div> <div>15.1一般事項</div> <div><p>(1) 鉄筋の継手長さは、L_1 とする。</p><p>(2) 定着長さ及び受け筋は、15.1図による。ただし、引き通すことができない場合は、15.2図、15.3図により梁内に定着する。</p><p>(3) 基礎梁と床版を一体打ちとしないで、打ち継ぎを設ける場合の補強は図面による。</p></div> <div><div></div><div>15.1図 スラブ筋の定着長さ及び受け筋（その1）</div><div>15.2図 スラブ筋の定着長さ及び受け筋（その2）</div><p>※ L_b の数値は、原則として、6.3表の数値かつ梁幅の1/2倍以上とする。</p></div> <div><div></div><div>15.3図 スラブ筋の定着長さ及び受け筋（その3）</div><p>※ L_b の数値は、原則として、6.3表の数値かつ梁幅の1/2倍以上とする。</p></div>	<div>15.3片持ちスラブ出隅部の補強配筋</div> <div><p>(1) 出隅部の補強筋は図面により、配筋方法は、15.6図による。</p><p>(2) 出隅受け部分(図のハッチ部分)の配筋は、図面による。</p></div> <div><div></div><div>15.6図 片持ちスラブ出隅部の補強配筋</div><p>(注) $b_1 \geq b_2$ とする</p><p>(注) 1. $b_1 \geq b_2$ とする 2. 柱又は梁に L_1 を定着する</p></div> <div>15.4地上部最上階の屋根床版</div> <div><p>(1) 出隅及び入隅部分には、15.7図により、補強筋（溶接金網）を上端筋の下側に配筋する。</p><p>(2) 陸屋根、勾配屋根共通とする。</p></div> <div><div></div><div>15.7図 出隅及び入隅部分の補強配筋</div><p>PH・吹抜け等</p><p>$\phi 6 @ 100$ (1500角) 溶接金網</p></div> <div>15.5段差床版の補強</div> <div>同一床版に段差がある場合、15.8図の補強を行う。ただし、$H > 150$ の場合は、小梁を設ける事を原則とする。</div> <div><div></div></div>
--	---

<div>19 勾配屋根の取り合い</div> <div>19.1 斜め柱・斜め梁の取り合い</div> <div><p>(1) ※印の鉄筋は、同径以上とし、かつダブル巻きとする。</p><p>(2) 1.5Dの範囲の柱の帯筋は一段太いものか、またはダブル巻きとし@100以下とする。</p><p>(3) 柱の取合い部における斜め梁のせん断補強筋中心間隔は、当該梁部材のせん断補強筋中心間隔p以下とする。</p></div> <div><div><p>a) 柱幅と斜材（柱又は梁）幅が同一</p></div><div><p>b) 柱幅と斜材幅が異なる</p></div><div><p>c) 柱脚で斜材となる</p></div><div><p>d) 柱頭で斜材となる上端筋は、連続筋とする。</p></div><div><p>e) 梁が斜材となる上端筋は、連続筋とする。</p></div><div><p>f) 斜め大梁に小梁が接する場合 柱筋はa) , b) に倣う。</p></div><div><p>g) 大梁に斜め小梁が接する場合</p></div></div> <div>19.1図 斜め柱・斜め梁の取り合い配筋</div>	<div>19.2 梁と床版の取り合い</div> <div>増し打ち補強要領は、16.2による。</div> <div></div> <div>19.2図 梁と床版の取り合い配筋</div> <div>19.3 円柱の取り合い</div> <div>円柱と梁の取り合い</div> <div></div> <div>1) 柱頭部で柱芯に梁が取り付く場合</div> <div>2) 柱頭部で柱外面に梁が取り付く場合</div> <div></div> <div>19.3図 円柱の取り合い配筋</div> <div>20 基礎及び基礎梁の配筋</div> <div>20.1 直接基礎の配筋</div> <div>(1) 独立基礎</div> <div></div> <div>20.1図 独立基礎の配筋</div> <div>(2) 連続基礎</div> <div></div> <div>20.2図 連続基礎の配筋</div>	<div>20.2 基礎接合部の補強配筋</div> <div></div> <div>基礎梁あばら筋 と同径・同間隔</div> <div></div> <div>0<D≤200</div> <div>200<D≤1000</div> <div>※L2hを確保できない場合は、標仕(5.3.4(e)(2))によることができる。</div> <div>21 杭基礎の補強</div> <div>21.1 杭基礎の配筋</div> <div>(1) 中詰めコンクリートは、基礎のコンクリートと同じ割合のコンクリートを使用する。</div> <div>(2) 既製コンクリート杭以外の場合は、特記による。</div> <div></div> <div>21.1図 杭基礎の配筋及び杭頭部の補強方法</div>	<div>21.2 基礎接合部の補強</div> <div>基礎接合部の補強は、20.2による。</div> <table><tr><td>事業名</td><td colspan="3">令和7年度 第4源泉施設建設工事（1期工事）</td></tr><tr><td>図面名称</td><td colspan="3">構造細目共通図（建築構造物）（6）</td></tr><tr><td>縮尺</td><td>—</td><td>図面番号</td><td>AS-08</td></tr><tr><td>事業者</td><td>富士河口湖町</td><td></td><td></td></tr></table>	事業名	令和7年度 第4源泉施設建設工事（1期工事）			図面名称	構造細目共通図（建築構造物）（6）			縮尺	—	図面番号	AS-08	事業者	富士河口湖町		
事業名	令和7年度 第4源泉施設建設工事（1期工事）																		
図面名称	構造細目共通図（建築構造物）（6）																		
縮尺	—	図面番号	AS-08																
事業者	富士河口湖町																		



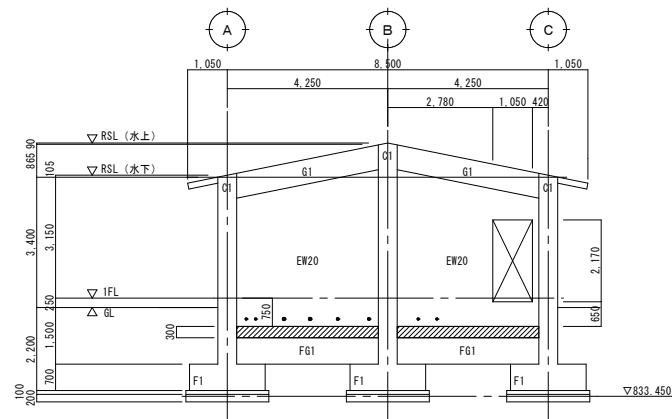
- 特記なき限り下記とする
1. S2 床版
 2. F61 大梁
 3. 1SL天端 GL+150
 4. スラブ天端 1FL-650
 5. 機械基礎

1階伏図 S=1:100



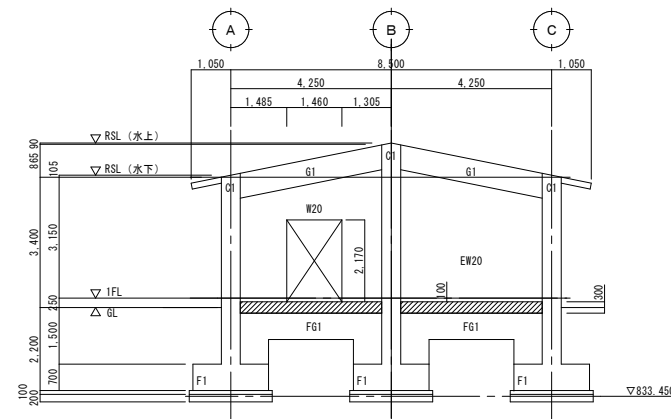
- 特記なき限り下記とする
1. S1 床版
 2. G1 大梁
 3. CS1 片持ち床版

R階伏図 S=1:100



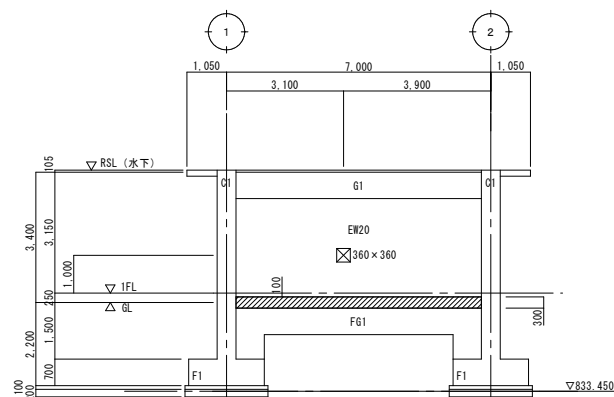
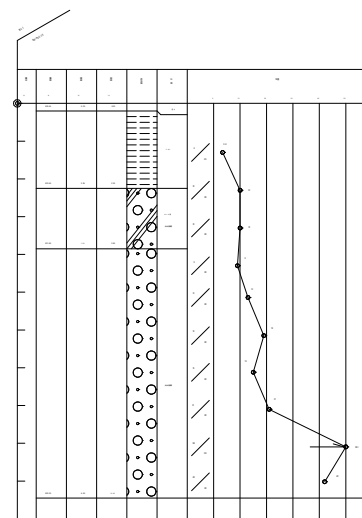
1通り軸組図 S=1:100

梁増打ち



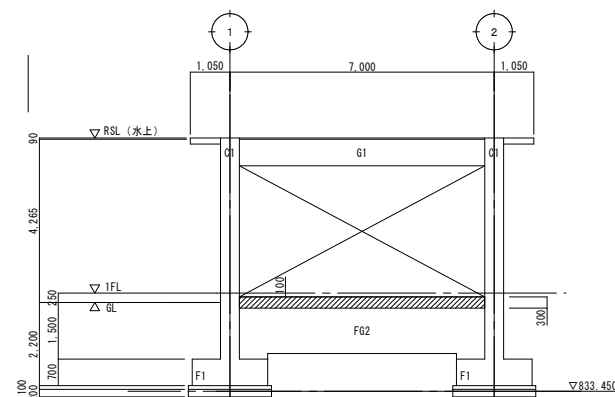
2通り軸組図 S=1:100

梁増打ち



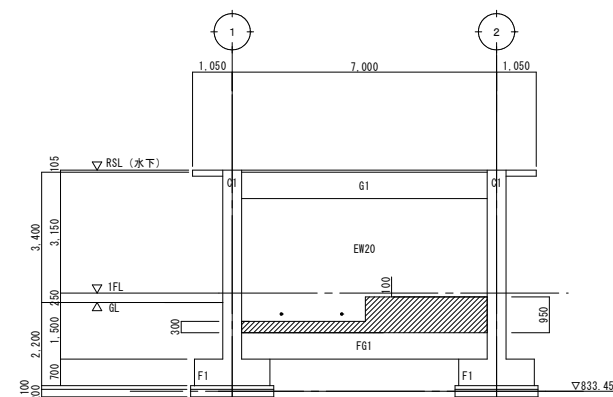
A通り軸組図 S=1:100

梁増打ち



B通り軸組図 S=1:100

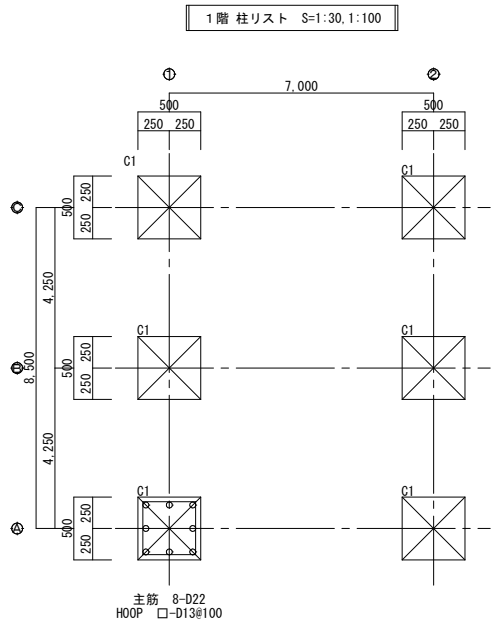
梁増打ち



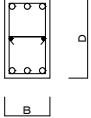
C通り軸組図 S=1:100

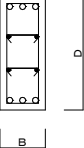
梁増打ち

事業名	令和7年度 第4源泉施設建設工事（1期工事）		
図面名称	ポンプ室 伏図・軸組図		
縮尺	1:100	図面番号	AS-09
事業者	富士河口湖町		

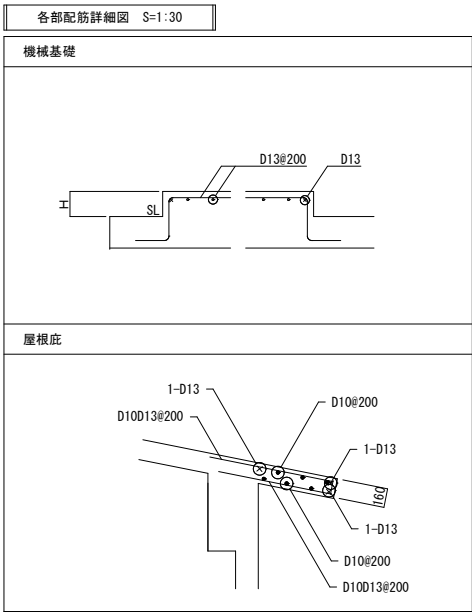
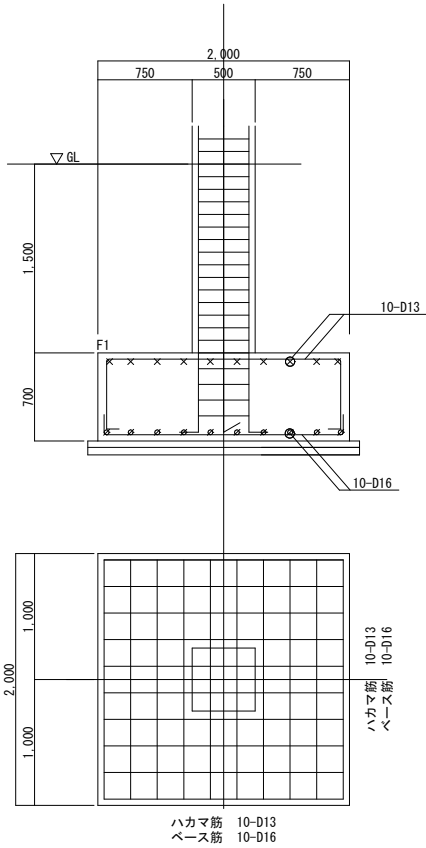



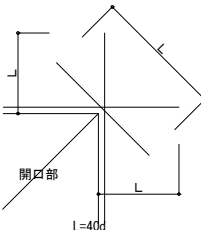
基礎梁リスト S=1:30			
符 号	FG1		FG2
位 置	全断面		両 端 中 央
B x D	400 x 700		400 x 1300
B1階・1階			
	上端筋		4-D25 4-D25
	下端筋		4-D25 6-D25
	S T P		□ -D13-#200
腹 筋		6-D13	
幅止め筋		┐ -D10@1000	

大梁リスト S=1:30	
符 号	G1
位 置	全断面
B x D	400 x 700
B1階・1階	
上端筋	3-D22
下端筋	3-D22
S T P	□ -D13-#200
腹 筋	2-D10
幅止め筋	┐ -D10@1000

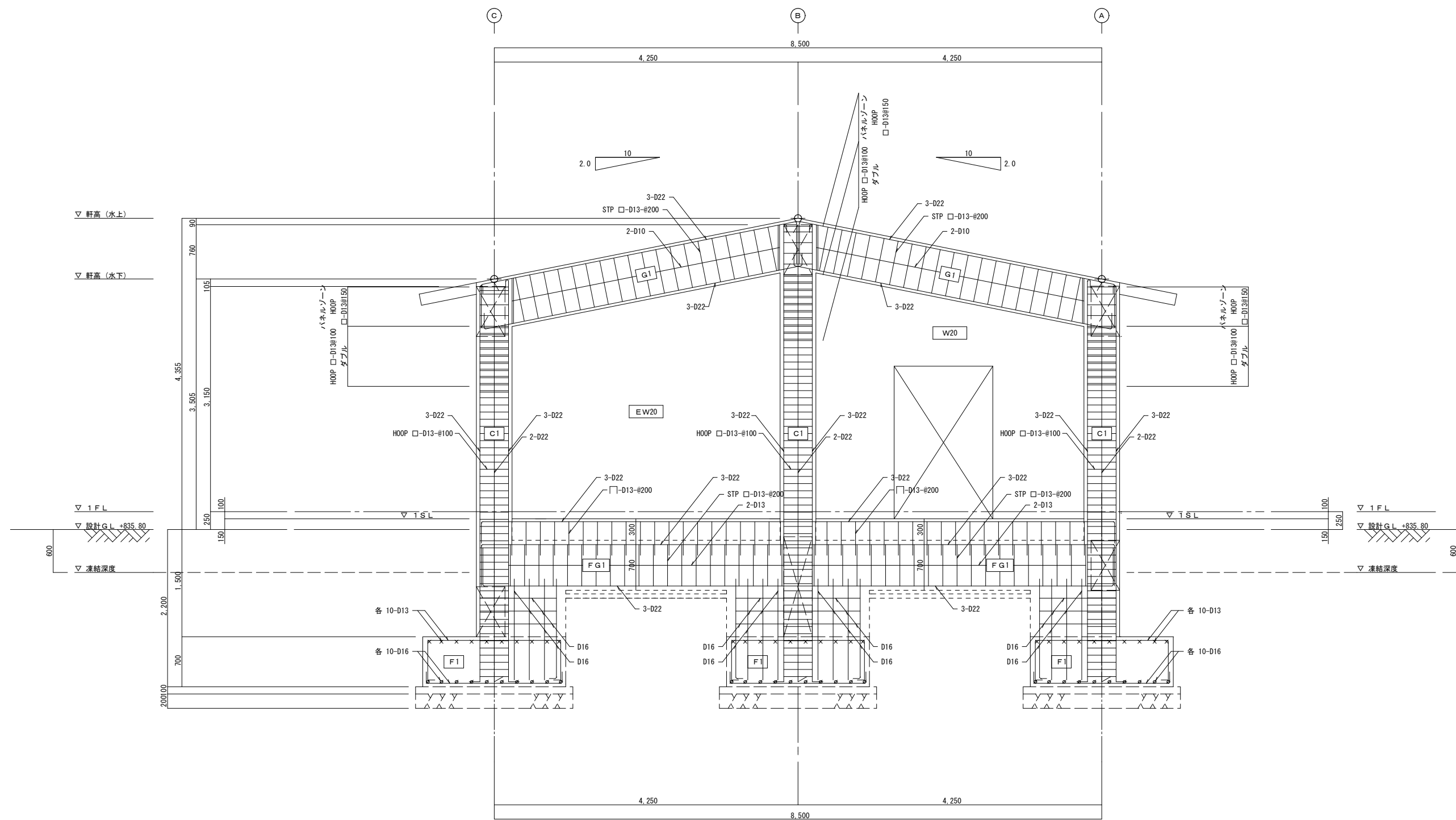
小梁リスト S=1:30	
符 号	FB1
位 置	全断面
B x D	400 x 1000
B1階・1階	
上端筋	3-D22
下端筋	3-D22
S T P	□ -D13-#200
腹 筋	4-D10
幅止め筋	┐-D10@1000

床版リスト					
符 号	版 厚	位 置	主筋方向	配力筋方向	備 考
			全断面	全断面	
S1	160	上端筋	D10D13#200	D10D13#200	モチアミ配筋
		下端筋	D10D13#200	D10D13#200	
S2	300	上端筋	D16#200	D16#200	モチアミ配筋
		下端筋	D16#200	D16#200	
CS1	160	上端筋	D10D13#200	D10#200	モチアミ配筋
		下端筋	D10D13#200	D10#200	
CS2	180	上端筋	D10D13#200	D10#200	モチアミ配筋
		下端筋	D10D13#200	D10#200	
CS3	300	上端筋	D13#200	D10#200	モチアミ配筋
		下端筋	D13#200	D10#200	



壁リスト S=1:30			特記なき限り 1.幅止筋 -D10#1000		
符 号		EW20・W20	開口補強要領図		
符 号					
縦 筋		D10D13#200 (ダブル)			
横 筋		D10D13#200 (ダブル)			
開口補強	縦 筋	2-D13			
	横 筋	2-D13			
	斜 筋	2-D13			
備 考					

事業名	令和7年度 第4源泉施設建設工事（1期工事）		
図 面 名 称	ポンプ室 部材リスト		
縮 尺	1:30、100	図 面 番 号	AS-10
事業者	富士河口湖町		



②通り 架構配筋詳細図 S=1:30

事業名	令和7年度 第4源泉施設建設工事（1期工事）		
図面名称	ポンプ室 架構配筋詳細図		
縮尺	1:30	図面番号	AS-11
事業者	富士河口湖町		